大正三年一月一日發行（毎月一回一日發行）第一號

青鞜

讀者諸氏に

私は自分で編輯するこの雜誌を、出來る丈け、立派なものにしたいと思ひます。けれども如何に、私が自惚れて見ましても本當に貧弱な內容しか持つことが出來ません。私一個の微力では勿論どうしても讀者諸氏を滿足させるやうな大家の執筆を乞ふことは出來ません。目次にならんだ人達はまだ世間の表に立つてゐない人の方が多數を占めて居ます。私は每號々々かうして貧弱だとかつまらないとか云ふ非難を耳にしながらも何時もねうちのない雜誌ばかり編輯して居ります。けれども私の考へではそれにも相當の理屈はつくのです。私自らはこの雜誌自身に單なる苗床として より以上の何の價値をも求めやうとはしません、私はこの雜誌を引きつぐ際に、一切の規則を取り去つて無規則無方針、無主義無主張と云ふことをお斷はりしました。主義の欲しい方規則のなくてはならない方は各自におつくりなさるがいゝ。何の主義も主張もない雜誌を凡ての婦人達に提供いたしますから各々に自由勝手にお使ひ下さい。お用ひになる方の意のまゝに出來るやうに雜誌そのものには一切意味を持たせません。と云ふことも其の際に申ました。何卒この貧弱な雜誌を覗く丈けの方でもこの事を御承知下さいまし、この雜誌は苗床としての價値より他には何にもありません。此處に芽を出した苗がどんな處にうつされ、どの苗がどう育つてゆくか——未成品——と云ふことに興味をもつて下さる方に初めてこの雜誌は雜誌自らの存在の意義を明らかにするのです。私はかう云ふ負け惜しみな理屈を楯に何と非難されても相變らず貧弱な雜誌を恠きずにこしらへてゐるのです。

——編輯者——

新年號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

第六卷

第一號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一月號目次

婦人と社會……一　スコットニーアリング 齊賀琴譯
兒童の世紀……二　エレン、ケイ 山出わか譯
みちのくの雪（短歌）……二七　原あさを
海にゆく弟に……三〇　山田邦子
廢驛の夕（短歌）……三七　齊賀琴
草笛（短歌）……三八　三ヶ島よし
薄ずみいろ……四〇　奈々子
十五のSと社會と（小說）……四七　青木しげ子
暗潮（小說）……七五　佐藤欽子
青鞜社詠草……九二　畔蒜琴等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最初の家……九五　五明倭文子
斷章（詩）……一〇五　吉屋信子
自分と周圍（感想）……一〇七　山田わか
初戀のなりゆき……一一三　岡田八千代
星の空（小説）……一一六　加藤みどり
蕀薙のはな……一四〇　茅野雅子
日本婦人の社會事業に就て
伊藤野枝氏に與ふ……一四三　青山菊榮
青山菊榮氏に……一五四　野枝
折にふれて……一六六　岡田ゆき
手紙……一七〇　青井禎枝
編輯室より……一七六　野枝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人と社會の進歩

——スコット、ニーアリング——

齋賀琴譯

個人としての婦人

大百科全書（グレートエンサイクロペディア）の編輯者は十八世紀の末に出版されたその第一版に於て「Woman, The Female of man See man と言ふ婦人の定義を書き込んでゐる。婦人の品性、才能、及び勢力は、男子のその中に含まれてゐたのであつた。婦人は一個人ではなくて、僅かに一個人への附屬物であつた。」婦人について何事かを知らうと思へばたつた一つの據り所は婦人その者ではなくて「婦人の全存在の本原」なる男子であつた。編輯者が與へたこの標題の說明は當時の一般の思想を代表したものであつた。

婦人に關する十八世紀のイギリスの狀態と二十世紀のアメリカの狀態との間には著しい、そして根本的な相異がある。今日の婦人を知るために私達は、單に「婦人を見る」ばかりでなく、現に婦人を引合に出すのである。Miss（ミス） Cisely（シセリー） Hamilton（ハミルトン） は云つた。「私は婦人に依て個々の人間を了解した、人間の生活は婦人自らが關係するものである」「私にとつて婦人は

それ自らが實體である、そしてもし始めて婦人に逢つたならば私は、その婦人が既婚者か如何かを質問する、それは只その婦人を稱びかけるのにミスと云ふべきか、ミセスと云ふべきか、その何れかを知りたいと思ふためである」(Marriage as a Trade 2 and 3) と。而して獨身の少女は男子の附屬者とならぬ故に過つのではない、彼女は只婦人たる事を止める時にのみ失敗するのである。

二十世紀のアメリカに於ける婦人は男子の助力なくして存在し、活動することの出來る一の完全な身體的、精神的有機體として觀察されて居る。アメリカの婦人は一個の人間である。その才能、品性及び勢力は、彼女が選擇の自由に於て選擇する事が出來るやうに、彼女自身に依て扱はれ處置せらるべき彼女自身のものである。自由な選擇を以て男性の附屬物から一個の人間に移るこの婦人の變化は、彼女が永い間爭つてゐた侮辱と埋沒の泥所から彼女を移して、進步的向上の方向に置く。

もし進步が具體的な目的を持つと云はれ得るならば、進步の具體的な目的は、高尙なタイプの個人であるやうに考へられる、人生の低い階級の中では個人は群集の中へ姿を沒する。動物生活のより高い組織が近づくに從つて、保護を要する子供の時代が追々增して來る、人間の間では騷がしい時代の中に必らず起る害惡に對して注意深く守護される子供は、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

進歩した社會に於ては十年から廿五年にまで及ぶ。野蠻と未開とを比較すれば、文明と云ふのは子供時代の經過が段々長くなる事である事が了解される、子供時代の長さは人生の長さを意味する。より大なる個人の中ではより長い子供時代が生ずる。この故に時代の優れた産物なる進歩した人間はいかなる他の生物よりも一層強く個人化されてゐる。

表面から觀察したならば種族は個人の前に置かれるであらうが併し個人が正しい見識の中に考へられた時は、――傾向及び性質を一時代から次の時代へ傳へるものとして考へられた時は、種屬は只個人のたえざる總合としてのみ表はれる。「種族とか種とか云ふものは一の表象、抽象的な觀念となる、そして個人は只一つの現實のものである」(Pure Sociology. P. 291) かやうな言葉の中に十九世紀の哲學と科學とは現代の思想――個人は徹頭徹尾大切である、個人は種族であると云ふ――のために大なる貢獻を表はしてゐる。

然し乍ら凡そこれらの人々が心に懷いて居た處の個人は社會の一員たる個人ではなくて只一個の人間であつた。十九世紀の婦人が計畫することは一般に顧られなかつた、今日でさへも、一個の男子を宇宙の中心となし、そして婦人を第二位に置く見解は普通に允されてゐる。社會及社會學の議論の形式に表はれるこの觀念は、「すべてのものは男子中心である。そして婦人は生殖の仕事に必要な、人間の種族を繼續する唯一の道具ではあるもの丶

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一面から云へば些細な附屬物、一般の目的に於ての附屬的な要素である」と云ふ見解になる。もしこの假定が校正されるならば、社會及び社會力の研究はあらゆる歴史的時代に於けるが如く、男子のみが分解の仕事をするのだと云ふことを主張したのであろう、婦人はその生殖の仕事以上に直接いかなる社會進化にたづさはる事も決して望まれなかつたために。

然し乍ら過去十數年の間に個人主義は個人たる男子の發見から個人たる婦人の發見にまで進んで來た。婦人はその强ひられる劣等な位置を以て滿足されなくなつた、なほまた無邊無窮の局面に於て事件を觀察する科學者は婦人をこゝに止めることに滿足しなかつた。

婦人が蔑められると云ふ明白な事實は、恐らく過去に於けるその劣等な境遇からの產物であつた。ジョン、スチユワート、ミルが Subjection of women に於て論じたこと、またフレデリック、ウオードがその Pure sociology の十四章に一新時機を劃して書いたのはかやうな假說に關する勞作であつた、その Pure sociology の十四章に於てウォードは婦人の位置の低いと云ふ明白な事實は、長い年月の默從の結果であると云ふことを明瞭に示してゐる、「利他的の感情に依て和らげられたのではない人間の理性の眞の產物」なるこの默從は男子の理性力の進步が彼に男子は身體的により强い組織體である、彼はその情慾の滿

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

足のために婦人を使ふことが出來る、そして彼の仕事を强いてさせることが出來ると云ふことを語つたために固執されたのである。この時代の婦人の默從の開始はウォードに依てかく説明されてゐる。――「タイムの流れを下る吾人の永い旅路に於て吾人は今一の暗黒な場所に到著した、而して私はこの物語の中に空所を殘さないのならば、この記述を喜んで省略するであらう」これにつゞくハーバートスペンサアからの引用は名高いものである――「書物に殘つた人間の歴史に於て最も悲しむべき點は婦人の扱ひ方である、而して吾人はなほ一層悲しむべき點を發見する書物に記されざる歴史を有するのであつた。當時もつと怖ろしい――キャニバリズム、四人の慘刑、幽靈や神に對する犧牲の供物などのやうな多くのことはあつたけれど、それらは只時折のことであつた、之に反して婦人を虐待するのは一般で、そして終始不變で、そして殆ど想像の及ばぬことであるために私はこれを最も悲しむべき點と云ふのである。

ウォードは云つた。「かやうな狀態が一般に信じられたのは怪むことが出來ない、併し私は特に男子が婦人を扱つた「動物的本能（Brutal）と云ふ言葉に對して反對しなければならない、あまりに多くの人間の罪惡は、今なほ男子の中に潜んで居る野蠻性に責任を歸するが併し男子が婦人を虐待すると云ふ事は明らかに不正である、何となれば禽獸の男性は女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性を虐待することがない、そして男子のために婦人が濫用されるのは主として人間の徳であるから」

それ故過去に於ける婦人の服從の境遇は男子の身體的支配に基くものである。コンドルセイは云つた。「婦人の位置の低いことは男子に依ての力の濫用以外に他の原因はなかつたのである」と。この男子(その人は婦人を虐待し、奴隷扱ひした)に對する婦人の位置の低いことは、初期の基督敎徒がネロや奉行(その人々は基督敎徒を獅子に投げ與へた)に對して位置の低かつたことよりもより大きくはなかつたであろう。

併し乍ら男子はその支配權を證明することを求めた、文學に於て、詩に於て、科學に於て、彼はその特權を主張した、「たとへばマホメット敎徒はその見解から綿密な觀察をした後に、婦人は靈魂の無い肉であつたと云ふことを決定した。…………この問題に對して惱ましく神經質的に考へるのが習ひであつた初代基督敎の牧師は一時婦人を人間の形をした罪業として宣言した」(Marriage as a trade, Cicely Hamilton)この宣言の最もよい例はローヤ法王インノセント八世の法令に依て出版された十五世紀の「魔女の斧」と云ふ書物の中に見える。婦人のためにソロモンが誘惑されたことを引用したあとでこの書物は次のやうに云つて居る「婦人は曲つた肋骨を以て造られたために、その全くの精神的の性質は、一方に

偏よつてそして德よりも罪惡の方へと傾いた。」(Pure sociology) 初代基督敎敎會の敎師の一人なるクリソストムが云つたことを引用すれば斯樣である。「婦人とは何であるか、友情の敵、避けられぬ刑罰、必要な惡魔、自然の誘惑、願はしい苦惱、不變の涙の源、光るニスに蔽はれた自然の惡い仕事に過ぎない」

この問題はチベリアス、グラシアスの言葉に依て完成されたのである。「もし吾々が妻を持たないで居ることが出來たならばこの厄介者を追ひ逐はれたであらうが併し自然は吾々が妻なくして滿足して生きることが出來ず、畢竟妻なくして生きられぬことを定めたために、吾々は一時の快樂のためによりも寧永遠の利益のために求めなければならぬ」(Social life at Rome W.W. Fowler)

文學の中にも婦人に關してこれと同じ宣言が表はれてゐる、現代の批評家アンドリウ、ミチエルはかう云つた。「男子は婦人についてごく少ししか期待しない。婦人は男子の側で深切を受けるのを喜ぶだらうと云ふ事、婦人は愛されるために自分自身を許すだらうと云ふ事の外、何事も期待しない」(Essays in Fallacy, P. 49) ニイチエはこれと同じ見解をもう一層強く云ひ表はした。「婦人をして玩具たらしめよ、岩石の如く強にして纎弱くあらしめよ」「男子の幸福は I will なり、婦人の幸福は He will なり。」「汝婦人に走るか？汝の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鞭を忘るゝ勿れ！」「婦人は常に猫又は鳥なり、たかだか牡牛なり」

科學者は彼等の身體上の特質精神的の性質及び道德的價値について男子と婦人とを比較した。男子は鉛の多くのボンドを擧げることが出來る事、男子は婦人よりもより强い正義の觀念とより廣い統合の力を有することを彼らは發見した、科學者が馬鹿々々しい程充分に斷定した、男子は婦人よりも高等であるとか男子は婦人に優つてゐるとか云ふ事のすべては證據立てられた。願はくば如何、日出はそれが最初に來るために落日よりも美しいと云ふ事や、雄の孔雀はそれが大きいために極樂鳥よりももつと美しいと云ふことを斷定せぬのであらう。あたかもすべての道はローマに通ずるが如く、すべての議論は男子はより優れて居つて、そして婦人はより劣つた動物であると云ふ結論に導かれる。

かやうな推論はそれが基礎とする根據のために不條理とされるばかりでなく、兩性の間のあらゆる比較は明らかに無用である。科學者でさへも兩性の間には相異のある事に一致した。ハヴエロック、エリスはこの全問題を非常に苦心して分析した後で男子は婦人よりもノーマルから遙かに遠ざかつてゐる、故に男子は婦人よりも區々別々であると云ふことを決定した。併しカール、ピーアソン教授はこの同じ問題を充分論じた後に婦人は男子よりも一層區々別々であると云ふことを斷言した。この男女優劣問題は屢々高等の學校で引

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

用される「金と鐵と何れが一層有益であるか」とか少なからず奇怪な問題「ワシントンはリンコルンよりもより偉人なりしことを說明せよ」と云ふことゝ同じである。「有益」と云ふことも「偉大」と云ふことも兩つながら關係的の言葉でそしてその上何れも何のきまつた概念を含んでゐない、ぢきもとに返る性質のある、つまらぬ用語である。男子と婦人に關する比較上の「善」「優超」「大切」と云ふやうなことについての陳述の眞相は正しく是と同じことである。人は同じやうな容易さを以て金對鐵の有益に、ワシントン對リンコルンの偉大に、或ひは畫家の天才對詩人の天才に言及するであらう。男子と婦人とは違つて居る。ある特徵は婦人の中によりも男子の中により強く表はれて居る、ある他の特徵は男子よりも婦人の中によく強く表はれて居る、併し「善」とか「惡」とか「優れて居る」とか「劣つて居る」とか云ふ概念はハヴエロック、エリスが云つたやうに「絕對に無用で馬鹿げてゐる」故にそんなやうな比較は吾々の議論の中にとりあげられぬのである。

この婦人と社會の進步の議論に於て、吾々は徹頭徹尾男子の能力に對する婦人の能力の關係をとり扱はないが併し婦人の能力がその機會に對し、その成功に對する關係をとり扱ふのである。もし婦人が能力を有するならば、偉業を爲すことが出來るならば、然らば婦人は個人として人生のドラマの中に一つの役目を果すことが出來る。世界は仕事に充ちて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐる、その仕事の多くは畢竟婦人に依て爲されることなくんば、爲し得られぬであらう。婦人が仕事に對する能力を持つと云ふことが示されるならば、社會正義のすべての關係と社會進歩のすべての必要とはこの機會とこの能力とが相まつて婦人の偉業を幾分か確かにすることを要求する。後章に於て吾々は婦人の力がもし機會を得て集められたならば必らず偉業を起すであらうと云ふこと、故に婦人はたえず進んで行く文明の先驅の中に個人としての位置を占むるであらうと云ふことを證明しやうとするであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

兒童の世紀

エレン、ケイ著
山田わか譯

第二章

未來の子供と婦人の勞働

現代生活のうちの種々なる要素の中で婦人問題理論と實際がかけ離れて居て、しかも其れが無意識のうちに見のがされて居るものはない。婦人運動の首唱者は大抵の場合、硬直な基督教徒である。そして彼等は、力と活動を含有する人格の解散に彼等が干與し得ると云ふ考へには極力反抗して居る。彼等は個人主義及び自我主張を罪惡を意味する墮落した言葉だと思ふて居る。彼等は、又、婦人運動は實際に十九世紀の最大の利己主義的な運動であり、有史以來の最も烈しい自己權利の主張であると云ふ事を悟つて居ない。彼等は婦人の力及び人格に對する自由を、自己主張と云ふ意味ではなく、唯正義のための理想的奮闘として、又貴き勝利として見て居つたのである。其の最も深き意味に於て、この運動は他のあらゆる自己主張の盡力と同じで、その目的は、自由の範圍内に於て、能力の充分な發達に付ての人格の權利を確める事である。この自由の範圍に到れば責任は又各個人に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

屬するのである。けれども個人、又は一階級、或は又一種族のあらゆる、かやうな主張は不條理な利己主義に陷り易いと同じやうに、婦人運動も亦其の弊に陷り易いものである。

婦人解放に對するこの大なる深い嚴肅な運動は、後には婦人問題と云ふ新しい、名を得た。この名稱の變化は思想の態度の變化を意味して居る。本當の解放運動、則ち、婦人の制限された力、制限された人格を自由にする運動から、この運動は一つの問題となり、役員をもつた社會制度、信仰箇條をもつた教會制度と云ふやうなわくに入れられてしまつた。實に我々は書物に於て、演説に於て全人類の幸福及び發達に關聯した婦人問題が論ぜられ奬勵されるのを聞く。けれども實際にはこの婦人問題が一事實、則ち、それ自身の目的をもつ一主義となつて以來、この運動の首唱者等は、當時の他の大問題との其の關係の價値をだん〳〵と見失つて來た。故にこの問題は唯市民權及び婦人の勞働の範圍を增加するやうに傾いて居る。この兩方の場合に於て、人は實際には上流階級の婦人を主にして考て居る。この市民權及び勞働範圍の增加は今迄の目的であつた。そして其れは正當な事であり又正當とされべきである。けれども、この目的に向つての奮闘中に、この目的を目差す人々は、あらゆる權利のうちの最高な、そして、第一にもたねばならぬ權利とは益々遠ざかつて來た。其の、一個人としての婦人がもたねばならぬ最高な權利とは、彼女が彼女自身

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の思想を考へ、彼女自身の道を進んで行くのである。

これは婦人の權利擁護者の考へと大分違つて居るかもしれない。この一派の婦人運動者は、一方に於て、個人としての婦人のもつて居る自由を承諾する事からは甚だ隔たつて居ると同時に他の一方に於ては婦人の自己主張の結果に付ては盲目である。彼等は外的な方面にのみ心をそゝいで居つて、現代の勞働界の狀態の上に、人間と家族の生存の上に、又全體としての社會の上に、この運動の深い革命的な結果に付ては盲目である。

婦人に關する法律の不公平な條項を取り去つた事や、以前には僅か十人計りの婦人が占有して居た勞働界に百人計りの婦人が入りこんだ事や、又以前には一人も婦人が居なかつた處に一人でも婦人が這入つた事など、これ等は女權運動の進步の里程碑(マイルストン)である。けれどもこれは女性の能力、性質及び周圍の狀態などには思慮する事なく追求された方面である。

婦人の權利を絕叫する或る勇者が、或る一人の婦人の屠殺者になつたのを聞いて、他の婦人達に「あなた方も進んで同樣な仕事をなさい」と云ふた事や、又或る一人の若き亞米利加婦人が死刑執行者になつた事などはこの關係に於て最も特色ある現象である。

今日の婦人解放は、もはや魂と心を大きくする性質の自由ではなくなつた。何故ならば其れは全く官制的で、營業的で、そして又獨斷的である。溫き人生の根本には觸るゝ事な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

く、唯、全く利己的な自己中心の運動となつた。其れ故、婦人の解放を切に希望して居るにも拘らず、私は、他の幾人かの人々と共に、この運動には干與らないのである。女權の首唱者は、他の人權に對する運動の首唱者の如く瑞典の諺の眞理をよく說明して居る。それは「我々が、他人の逃げ馬だと思つて追ひつゝあるのは、實は我々の荷車につけられた馬である」と。如何に盲目的に女權の熱狂者が時代の他の必要に迫まられて跳び廻つて居るかは、今日の大問題――私は社會問題を意味するに對する彼等の態度を見れば、最も明瞭に計り知る事が出來るのである。

舊い、女權擁護者は、成人した婦人は彼女自身を保護するために、成人した男子と同等な權利をもたねばならぬと主張する。そして又彼等は、婦人は結婚したからとて又小供があるからとて働いてはならぬと云ふ理由が何處にあるかと問ふ。彼等は又云ふ。保護的法律は大工場からも小工場からも婦人を逐ひ出す。そしてこの法律は婦人を扶助する事からは甚だ隔たつて居る。故に、婦人と男子と同じ保護的法律を要求せねばならぬ。とそして彼等は婦人のために技藝敎育と勞働の範圍擴張とを要求して居る。

この議論は、婦人の勞働範圍の制限は現代に於て最も要用な原則の一つなる、個人の自我確定に反して居ると云ふ見解から見れば、其れは論理に叶つて居る。これは成年男子と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

同じやうに成年女子の職業選擇の權利を含んで居る。けれども性の理由の上の特權が、法律の前に、婦人を男子と平等にする事を妨げる。

凡てのこれ等の議論は、婦人運動の全體を亂して居る詭辯的な觀念の上に其の基礎をもつて居る。この觀念は、婦人の生付の制限を婦人から取り去ろうとして居るのである。其れは又他の詭辯的觀念をも含んで居る。この詭辯的觀念をもつて、資本主義の社會は、男女、及び子供に對する保護的法律の凡ての要求に、對して居る。そして、かやうな法律は個人の選擇の權利に干涉して居ると云はれて居るのである。

誰でも社會的に目の開いて居る人は、この自身の生命を支配すると云ふ權利は資本主義の基礎の上に築かれてある社會に於ての實情を語る、空虛な言葉である事に、氣が付く。けれども其れが婦人に關する場合になると其の空虛は二倍になる。婦人は男子と同等な市民權をもち得るによつて、婦人も亦男子と同樣、徵兵の義務を果すべきだと婦人が希望したのを私は未だ聞いた事はない。けれども、もしそれを希望する婦人があるとすれば、それは、婦人が女性であるからと云ふて徵兵を逃れる特權をもつ事は出來ないと云ふ議論の結果であるであらう。軍事訓練のために失ふ時間及び其の不愉快から、又戰爭の危險及び其の恐怖から免れると云ふ事は近世社會に於ける最大特權である。婦人が軍事服務に絕對

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に不適當ではないと云ふ事は多くの場合に於て、殊に南亞戰爭に於て婦人がよく證據立てゝ居る。故に女權主張者が彼等の主義のこの極端な結果に逡巡し、そして婦人が戰時に於ける軍事服務から逃げる特權の有力な理由として母の作用を持出す時（いつかは婦人が今男子の享有して居る市民權を得べきではあるが）彼等は最高度の矛盾をして居るのである。他のもつと論理的な婦人は又宣言して云ふ。戰爭よりも猶破壞的な工場と云ふ戰場に於ては母の作用が婦人に對して或る特權を要する。そしてこの母の作用は、彼女の生活を支配する個人としての權利の或る制限に服從しなければならぬ事になる。則ち彼女は、自然が女性に與へた制限を、未來の子供の權利を侵害せずには、通り越す事が出來ないのである。

　結婚を避ける事、或は又、親子になるのを避けて結婚しやうとする事は、男子と同樣、個人としての婦人の自由選擇である。親たる重き負擔から免れやうとする動機に、ほんとうの利己主義と本當の他愛主義との二つがある。又彼女の自我發達及び彼女の行動の自由に障碍であると認めるものから遠ざかり孤立するのも、男子と同樣、個人としての婦人の自由選擇である。もしこう云ふ見地から、戀愛及び母態を見るならば婦人は戀愛も亦子供もなくて差し支へはない、もし彼女が其れを最高な幸福と見るならば、彼女は第三の性、則ち勞動蜂或は無性蟻になる權利は充分ある。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大多數の婦人のためには母態が生存の中心要素である事を、私は長い以前に旣に主張して居た。この問題を論ずるに當つて私はいろ〳〵の事物に就て考へて見た。則ち、必要に餘義なくされた婦人の勞働、又能力の自由に刺戟された婦人の功名心、或は又時代思想の影響によつて變化を受けた婦人の智的生活、こう云ふ事が先づ暫くの間、婦人の母たるの本能を覆ひかくして居た。そして此處に危險はひそんで居たのである。今こゝに、其れを說明するのも、あながち遲すぎはしないであろう。世間には戀愛の感情を實際に又絕對にもたない婦人がある。又彼女の正しい要求である精神的な深重な愛の對者を近代的な男子のうちには見出し得ぬ婦人もある。又戀愛を志望して、それで母態を嫌ふ多くの婦人もある。そう云ふ婦人は絕對に母態を恐れて居る。獨逸の有名な女流著者ガブリーレ、ロイテルはこの恐れに付いてこう云ふて居る。母態に對する恐慌は婦人をして常に用心深く敏捷に且つ自己防衛の態度をとらしむる。この恐慌は現代の多くの奮闘的な創造的な婦人達を襲ふて居る。この恐慌及び忌避は婦人のうちに非常に强く働いて居るので、人は其れを闇黑面の邪惡な本能――凡ての他の不自然な本能の如く、これは慘酷な必要を通じて生れたもので、又必要であるが故に服從しなければならぬ本能――だと信じる事が出來るやうになつた。それは恰も婦人のうちの奧深いところの秘密な聲が彼女等に、性の要求に從へば婦

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人は彼女等の力、則ち光澤及び彼女等を高める智識の鋭敏さをも失ふ、とさゝやいて居るかのやうである。故に恐らくは或る種類の婦人がこの恐慌をもつのは至當な事であろう。と

病氣並びに健康の諸現象は必ず或る一定の原因から結果して居ると云ふ事を、私は前述の獨逸の著者と同じやうに、信じて居る。そして人は彼等自身の如何なる種類の發達でも幸福でも、或は又墮落でも、自由に選擇する權利をもつものである事を、私は今日迄のどの女權主張者よりも、多く信ずるものである。とにかく私は母態を避けやうとする婦人に付てはこの先き何にも云はないつもりである。

子供の柔かい手を握つても可憐の情を催す事の出來ないやうな婦人、又、他の個人――子供――のために全く自分を忘れる事の出來ないやうな婦人がもし母になつたなら、それは大なる不幸であらう。又そう云ふ婦人の子供は婦人自身よりも猶一層不幸であらう。

こう云ふやうな婦人は今日に於ては少なくない。そしてこのまゝの狀態がつゞけば、そう云ふ婦人の數はます〳〵殖える計りである。だが彼等のうちの或る婦人の母たるの本能は全く死せるのではなく、唯眠つて居るのである。

心理解剖の能力のある、生理上、心理上の敎化を受けた現代の婦人は度々男性の無智、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

粗野、及び押付けがましさには反撥される。こう云ふ婦人の愛の凡ての因子は、決して開く機會をもたなかつた蕾のやうに、縮まつてしまつて居る。則ち彼等は愛の眞の目的を拒み、或は見逃して居る。そして彼等はそうした犧牲を、或る義務に對する熱心や、又は同性の友情でつぐのうて居る。しかし、こう云ふ事は早晩悲劇に終るものである。

母態となる慾望を全く棄ない女性は、少女として、猶それ以上に婦人として、未來の子供に對する義務をもつて居る。そして其の義務から逃れやうとすれば其れは絕對の手前勝手である事を私は、唯、主張したいのである。この手前勝手は、度々、種の保存の衝動の如くに、人生を支配する大なる衝動に變裝する。則ち手前勝手を自己保存だと言いなして居る。現代の勞働婦人のこの止むを得ぬ利己主義は、婦人解放に熱中して居る人々の目に恐しいものに見ゆる筈であるが彼等は其處に氣が付かない。

餓死を免れるために、最低の生活を營むために、駄馬のやうに婦人が勞働する時、彼女自身を支配する個人としての權利に就て、婦人の自由を論じたり、又婦人に對してと同樣男子に對しても職業の自由撰擇は空文である今日の狀態に於て婦人の自由を論じたりする事は最も穩かに見ても、それは無意味である。其の所謂自由に付て私は次に少しく說明を試みて見やう。

英國の白鉛製造所に婦人が働いて居た時、或一製造所に於て七十七人の工女がしらべられた事があるが、この時のしらべによると、この人數のうちに九十度の流產、二十七度の死產があつた。其の上に母體にある鉛毒を受けて生れたゝめにヒキツケて死んだ幼兒が四十人あつた。實にこの職業は十八才から二十三才位迄の婦人に最も有害であつて、こう云ふ種類の職業から跛、盲目及び他の疾病が結果するのである。

或る英國の醫者が何年かの精密な研究の結果を發表して云ふ。製造業地方に於ける莫大な小兒の死亡は、重もに、生れて二三週間の後には生母の注意を缺く事に原因して居る。嬰子は少なくとも生れてから六ケ月間は生母の乳が必要である。母の乳は如何なる人工的な方法にもかへられ得べきものではない。まして、其の人工的方法が不注意に用ゐられた時には其の害は恐るべきである。たとへば、ノツテングハムに於ける、レースを產出する、そして其の地方の人々が婦人の勞働制限の法律を苦情云ふて居る、其の織物業地方に於ては、全體の子供の二割づゝは年々死亡して居る、製造所地方は農業地方の四倍或は五倍の小兒死亡率を出して居る。けれども小兒の死亡は比較して云ふと未だ其の禍が輕いのである。もつと不幸な事は、生き殘つた子供は其の幼年時代に母の注意を受けなかつたゝめに或る不治の病を得て一生涯苦しまなければならない事になるのである。と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

シレシアに於て、少年少女が硝子製造に雇れる處では、其の仕事が彼等の身體の構造を變曲してしまう。

故にこの製造に從事して居る女が産蓐に入つた時には其の苦惱は激甚である。これは産科術の研究に無比な材料となるので多くの醫者ははる〴〵シレシア迄出かけて行つたものである。

女權主張者の意見の通り、もし婦人が自己保護の權利を、彼等が成熟する前に得たならば彼等は生理的に滅びる事になる。もしこれ等の事實が婦人の保護に關する問題でなく、兒童保護に關する問題だと云はれ得るならば、其の解決は比較的容易である。兒童の生理上及び德義上の利益は婦人のそれ等と相互に深く關係して居て、この兩者を別々に離して考へる事は不可能である。蹇の婦人が生む子は發育不十分でイヂケて居る。反抗力もないやうな虛弱な體で勞働の重荷を負ふて居ると、其の虛弱は子供に遺傳する。この原因結果は最も密接に此處に關係して居るから、我々は正確に婦人勞働と兒童の勞働との間を區別する事は出來ない。

女權の主張者でも權利に對する彼等の請求の制限を、他の個人——子供——の權利の始まる處に見出さなければならない。自分の庭を作るために隣家所有のものを取つてもいゝ

と云ふ處迄、婦人の個人としての權利をすゝめてはならない。或は又、他人に屬する水力の一部分を自分の仕事に用ゆるやうな事が出來ると想像してはならない。

女權の主張者は、婦人の個人の自由としての權利は他の個人――未來の子供――の權利に制限されて居ると云ふ事を見ないであらうか。未來の子供は子供自身の固有の權利と活力とをもつて居るが、この子供の權利を、前以て侵害する權利を婦人がもつ事は出來ない事を彼等は見ないであらうか。

或る動機から、其の動機の大小に拘らず、婦人が結婚を避けて、勞働に從事し、其のために自身を破滅に導く事は彼女の自由の權利である。もしも、そうする事によつて、後に他人の厄介にさへならないのなら其れは差し支へない。

けれども母になる事を期待して居る婦人は、勝手な過度の勞働によつて、或は他から無理しいに負はされた勞働によつて、未來の子供の生命及び能力を犧牲に供してはならない則ち、後に世人から輕視されるやうな虛弱者、病者、又は生理上不完全な子供を生んではならないのである。

自身の一生を制裁する婦人の個人的自由に對する主張、則ち、結婚をして居るから、子供があるからと云ふて、婦人の職業選擇の權利は、如何なる制限法も、これを制限する必

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

要はないと云ふ主張は、子供に計りでなく、婦人自身にも最大な傷害だと云ふ事が女權の獨斷的な主張者には氣が付いて居ない。自然が不平等につくッたものを人間が平等にしやうとする事は、必然、弱者の上に害を及ぼさずには置かない。平等にする事が正ではない却つて、事實はそれとは反對で其れが大なる不正に陷る事は度々ある。

現代が呈出した解決法なる一致共同と云ふ社會的感情の影響を受けて居ない、舊式な個人主義の見地から婦人の勞働を論ずる女權の主張者には、如何なる强固な論證をもつて行つても、彼等の其の非を悟らせる事は出來ない。幸に保護的法律は女權主張者によつてつくられるのではなく、それは各階級の男女に援助される勞働者の運動がつくるのである。

其の結果、勞働時間の規定に對する運動は確實に其の地盤を得つゝある。短時間に勞働を烈しくする事によつて、長時間に於て仕上げられるだけの仕事が出來ると云ふ事は經驗によつて明かである。第一に考へなければならぬ事は子供及び若年者の勞働に付てゞあつた。又婦人の健康並びに彼女等の子供の上に及ぼす工場生活の影響は世人の注意を惹起して、最初英國に於て、次で歐洲諸國に於て、婦人の就業時間の規定が男子と同樣、必要と認められて來た。其の規定の要目は三ッであつた。そして今日でも猶それがつゞいて居る。則ち、婦人の最長な就業時間、婦人の夜業を制限するか或は絕對に禁ず

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る事、又健康に危險な性質を帶ぶる產業及び鑛山內に於ける婦人勞働の禁止、最後に姙娠者の保護等である。今、歐洲諸國に於て婦人の勞働の最長時間は八時間から十一時間である夜業鑛山內の勞働及び臨時の勞働は禁止になつて居るか或は可なり制限されて居る。そして又三週間から八週間の休暇が產蓐に入る婦人のために既定されてある。

凡ての點から見て、一日八時間の勞働は婦人の就業時間として最長である。これは男子の勞働に對してよりも婦人の場合に於て多くの理由がある。八時間勞働は男子に對してと同じやうに婦人に對しては永久の健康を享有する事を意味する計りでなく、それは精神の向上を計る餘裕を得る事になる。殊に既婚婦人にとつてはこれは缺くべからざる要求である。この時間がなかつたなら彼女の家庭はみだれて家族の慰安は皆無になる。彼女の子供は生理上の注意を受ける事は出來ない。彼女は子供の敎育に力を添へる事は出來ない。故に勞働時間の規定は男子によりも婦人に必要である。何となれば家事の重荷は重に婦人の肩にかゝつて居る。夜業及び鑛山勞働の危險は、健康及び道德の見地から、あまり明瞭でこの場合に於ける保護的法律を辯護する餘地はない。

けれどもこの法律に對する反對は女權主張の理論計りではない。女權論者と同じやうに社會主義者も、其の反對の性質は異ては居るが、一層强く其の法律に反對して居る。社會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

主義者は云ふ。その法律は無職の婦人を多くする。そしてそれ等の婦人は生きるために賣春婦にならなければならない。と、けれどもこの議論は、勞働婦人の過多の結果なる安い賃銀は矢張り同じ運命に婦人を導くと云ふ事を忘れて居る。又、彼等は云ふ。保護的法律が婦人の職業を妨げるならば、婦人は子供を養育する事が不可能になるから、彼女等は自分の替りに子供を工場に出すやうになるであらう。と、けれどもこの難題はすぐ解決がつく、十五才以下の子供の勞働を禁じればいゝのである。

又、こう云ふ反對論もある。もし婦人が法律によつて彼等の職業を妨げられるならば、その結果は彼等が保護されるのではなく、職業が保護される事になる。と、この場合に於ける救助法は確に困難である。けれども不可能ではない。今日婦人が勞働の自由權を得るために騷擾のうちに費して居る精力の十分の一を、彼等に適當な職業に彼等を準備するために用ゆればいゝのである。もし、又、それすらも出來ない場合に於てゝも、保護的法律はその法律から生じる缺陷を補ふ力をもつて居る。保護的法律は常に職業を破壞するやうに論ぜられる。新しい製造法や新しい器械が安い勞働力に替へられる。其の結果、保護的法律に保護されて居る人々は其の法律のために經濟上苦しまねばならぬと云ふ苦情を度々聞く。けれども、產業要素が相互に利益を與へる結果は、一時の苦しみも、いつか平均が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とれるやうになる事は長い經驗がそれを證明して居る。保護的法律のこの結果に對する有力な救濟は職にはなれた人が仕事を得る權利及び賃銀の最少減度を規定する凡ての勞働團體の項目のうちに見る事が出來る。これ等の要求が勞働時間規定の要求と相まつて——この規定のうちには日曜日及び夜の休業、又勞働者の怪我及び老年に對する保護も含む——男女勞働者のために解決せねばならぬ重なる問題である。これ等の要求がいれられる迄はラスキンの近代產業制度に對する評言、人間のうちの本當の人間性を殺す制度が、男女勞働者に對して當を得て居る。ラスキンは又云ふ。我々現代の人間はあらゆるものを製造する。けれども本當の人間をつくる事はしない。我々は綿を晒して白くする。

我々は鋼を硬くもするし改良もする。我々は砂糖を精製する。我々は磁器をつくり書物を印刷する。けれども一個の生きた魂を矯正したり改良したりする事は、決して我々の利益の計算の中には這入つて來ない。と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みちのくの雪

原阿佐緒

かりそめに病める児抱き日あたりにすゑこの中の金絲雀をきく

久方の空より地につくつかでおほかた消ゆるはつ〳〵の雪

雪降ればわれこの家に封じられ果む運命をいよゝ知るかな

あきらめよ都のぼりをあきらめよとて降るごとしみちのくの雪

雪降るよとて疾く児をばかき抱き寝る夜淋しもわが山住ひ

氷雨降る頃としなれば思ひ出づることの多かり身は獨り居て

初雪の降り止みし頃かなしみのわが窓を訪ふ友の文かな

ひとそらの文よりえたる悲しみの忘られもせず初雪の降る

もの書くもうしひたすらに君思ひ泣きてありたきこの一日かな

夕されば門邊に立って子守唄するならひさへ久しくぞなる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白壁をそがひに咲ける紅薔薇のあかきがごとくいちじろき戀
乳を含くむ吾兒が和髮かいなでつ君を思へり夜の焚火に
湯化粧も身にわびしけれ雪の夜の焚火の前にひとり座れば
訪へばまづ畫の具の染みし手に吾兒を抱きし人をふと思ひ出づ
碁の石の指先によき觸れ心地寂しきまゝに並らべても見ぬ
君が掌のぬくみ移れる碁石をばふと握りても見たき氣まぐれ
忘れ居し人のひとりをゆくりなく思ひ出けり君をふと見て
めづらかにあかるき顏の吾をしも鏡に見つゝふと恐れけり
はしたなき自棄につぎわがあきらめのおそひ來る日は命死ぬべき
忘られて忘れてともにやすさをばおぼゆる日來ば一大事ぞも
かなしくも君に知られぬ心をば抱きてつひに捨てられもせん
朝の閨はしき寢息もきこえ來る心地に戀のそそらるゝかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見せばやな都のはしきをとめより君が兒の瞳の清らけさこそ

うす暗らき燈火のもとに山風をきゝつゝ君が妻の書く文

黒髪もなほゆかたかなれ君を見む日を近かみかも兒もすごやかに

君が兒をおほしたてつゝたゞひとり打ちも行く身はなほ惜しまねど

たま／＼に淋しと君の書きこせば何か笑まるゝ勝ちえたるごこ

わがあらぬ君が家居にのこし來し玉くしげさへ塵に染みけん

腹立たし親の一語に亂されしよき幻影のまた浮かび來ず

生きてわがなすことのみな値ひなく思はれて來しことの寂しさ

吹雪するあさけの窓に見る山の今日は見えずも淋しわが兒よ

みちのくの冬は淋しもましてわがひとりゐにふる雪は日にけに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

海に行く弟へ

山田邦子

いつかゆつくり話さう〳〵と思ひながら、何んだか機會がなくてどう〳〵話せなかつた。船に乘りこんだばかりには氣も落ち付くまいから、船醉ひもすんでそろ〳〵船に慣れて來た頃、故郷の事など思ひ出されるやうな時に此手紙を落ち付いて一讀して下さい。

めつたに逢はなくても、又逢つても別だんこれといふ話をした譯でもないが貴方が東京に居るといふ事は何か私の「力」でありました。一年も二年ももう海に行つたきり歸らないかと思ふと前の事などいろ〳〵思ひ出されて何んだかやたらに名殘惜しいのはいつもの私のくせでありませう。何事に對しても執着の强い未練の深い私と笑つて下さい。けれども亦一方に貴方がいよ〳〵其新生涯に入る事に成つたのだと思ふと、殊にそれが陸と海、といつたやうな步む處さへ異つてゐる全くの新生涯に入るのだから貴方としてはさぞ氣持のよい事だらう。種々の意味から何かしら氣もいそ〳〵とするだらうと充分に察して美しく思ひます。

それらについてはいくら言つたつて同じ事だし又言つた處ではじまらないから止めませ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う、私はたゞお別れと言をふか、新生涯の門出のお祝ひのしるしと言をふか、とにかく此聖書を一冊贈ります。然しこれを贈るからつて私は何んにもキリスト教の聖徒めいて所謂道を説くやうな意味から贈るのではありません。貴方と姉弟でしかも罪深い迷ひの多い人間の私として「此書はたしかに大眞理大意義を含むだ本だから人間としてお互に死ぬまで研究(?)しませう」といふやうな意味でお贈りするのです。

私は貴方よりもより以上神の御前に罪の深いものであります。だからそれだけまた又苦しみを持つてゐますし又苦しんでも來ました。それだから又それだけ貴方よりも種々の經驗をふんでゐますし(と言つて何も自分の罪人である事を誇つてゐるのではありません、こんな事は言はずと分つてくれるでせう)。—其心から暖かに貴方を考へて、感じてゐる事は少しばかりお話して見たいと思ひます。

貴方の此度の病氣はもとより輕いもので、殊に海に行けば必ずといふ位治るといふ事をきいてから其點では私は深く安心してゐます。けれども亦神經質な自分から押して、たとへ輕いにしろ、さういふ病氣にかゝつたといふ事は貴方としてさぞ不快であらうし又悲觀であらうと心から察し、同時に私も貴方の爲に悲しんでゐます。けれども私は又一面に非常に殘酷なやうではあるが貴方の爲に感謝するやうな心もあります。それは從來のまゝの

貴方であれば非常に悲しい事だけれど、拘くもあの病氣其ものは、貴方の心髓に安夢をむさぼつてゐた魂に警告を與へるものとなつたに相違ないと思ふから。眞の人間として生きてゆく、卽ち眞に生きてゆく自覺を握られる爲に私は或る意味から感謝してゐるのです。自分よりも年の若いものをつかまへてこんな事を言ふのは或は無理かもしれないけれど、貴方があまりに苦勞を知らないで成長して來たのを思ひ又其まゝで成長してゆくのを見て私は一年も前から可成り氣にかゝつてゐました。それは一面にはほんとうに願はしい、美しい事でありますけれど其願はしく美しい事は要するに子供を見た時、花鳥などを人間が見た時の心持であつて、願はしく美しく思はれる其もの自身は或る意味から獨立して生たものではないと思ひますから。唯一つのものが足りないのですから。それは卽ち生た魂、自から生を握つた魂であります、さうして此一つを完全に握るためには其美しいもの純なものも破られねばならぬ事もあり汚がされねばならぬ事もあります。之が自から「罪人なり」と思ふ人間の苦い有難さだと私はかく思ふのです。其一つを完全に握つた處に神があり其一つが眠つてゐる處に子供のやうな、花のやうな美しさがある。其不朽と此美しさとの間に後れ先きだつて人間が生きてゐると私は思ひます。行着けるか行着けぬかは死ぬべき人間の現在で押し測るべき事ではない、唯吾等は歩み續くる人でありたいと思つてゐます。低

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い處にうづくまつて、亦夢を貪る人でありたくない、生きた人間として歩んでゆきたい。

私は去年の八月頃まで死の恐れに襲はれ、自分は間もなく死ぬやうな氣がして人知れぬ非常な煩悶をしました。人が聞けば可笑がつて、いゝ茶話となる位私は病的に死を怖れ嫌つて、時には居ても立つても居られぬ程の思ひとなり、空をゆく雲を見ても女の兒のかけてゐる赤いリボンを見ても、何を見ても何を聞いても只悲しく恨めしく、何となく自分とはかけ離れて、明るい生を喜んでゐるやうで、自分一人が頼りなく、恐ろしい力に引さらはれて行かねばならぬ運命に迫られてゐるやうで、私はどうする事も出來ぬ苦惱に、石の上に座して滅びゆく運命をたゞ祈るやうな心で祈つてゐました。それは神經衰弱の爲でもあつたでせうが又私は私の魂が身體の成長する割合に成長する事が出來なかつた不調和から來た甚だしい衰勞の爲であつた事をやつと此頃知りました。とてもお話にならない亂離と絶望が私を地の底にねぢ伏せてしまひました、光りのない力のない、陰欝な沼のやうな生活に私はだん〲魂の變つて滅びてゆくのを覺知しました。此望みない私を根底から引あげてくれたものは此聖書でありました。私は不信仰もので又强情で我利盲ですからほんとに神の誡めに背いてゐる事は今もなほ毎日〱澤山であります。又私は自分を僞つて暮してゐます(それを思ふと苦しいけれど)しかもなほ此やうな私にさへ生の永遠をさゝやき示

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して下された神、生き甲斐ある生を示して下された神はほんとに感謝すべきであると思ひます。始めから「生命」が大事でない人は始めから話になりませんけれど、然し口にこそどんなに「生命」を何んとも思はぬなど丶言つても、それはたゞ氣が付かないのに過ぎないので、死ぬのが厭でない、生命の大切でない人は凡らく半分もないと思ひます（其くせ私はよく死ぬ事は何んとも思つてゐないといふ人に逢ひます）貴方も曾ては「生」其ものをそれ程痛切に感じてはゐないらしく、又さういふ事を口に出して言つた事もありました。然しそれはたしかに貴方が氣が付かなかつたに過ぎなかつた事を、胸を病んで今始めて知つたでせう？私はそれで感謝するのです。或る人の父親が其子に「己れは無宗教だ」など丶言ふ事を威張つて人に話すな、「人間に宗教のないなど丶いふ事は恥しい事だ」と言つたと言ふ事を私は其子の人から聞きました、さうして深く心を動かされました。ほんとにさうだと思ひます。それは半可通をふり廻ししていやにてらつて見せるのは厭味ですけれど、然しそれでもなほ今の私はかう言ひます、それでもなほ全々無宗教を鼻にかけてゐる人間より取りどころが有ると思ひますと。其人が心底から自分を偽つて神の名を稱え人を欺くとなればそれは惡い事ですけれど、おつちよこちよいでも何んでも半分きり分らないのにチヨク／＼と神の名を稱えるとも之等の人は又いつか救はれる時の有る人ではなからうかと

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は思ふのです。神の御目より見たらば分つた人だつて半可通な人だつて、智識の點では五十歩百歩、たゞ後者に眞の謙遜が加はりさへすれば神は喜んでめでゝ下さりませう。まして貴方はどの道から言つたつて、おつちよこちよいといふ人ではない、それを思ふと私は非常に心強い喜びを持つて之を是非とも貴方にあげたく思ふのです。どうぞ一句づつの拾い讀みでもよい、分らなくてもよい、續けてよまなくてもよい、氣の向いた時だけでよい、何でもよいから只始終自分の側に置いて讀める時讀んで御覽なさい、自分が何か問題を持つて來るとウネ〳〵と波の打つ様な底力を持て始終生きてゐるものが此書の中に動いてゐる事がいつかは分る事を信じます。其意味の深さは言ひ盡せるものではありません。

あゝ神の智と識の富は深いかな。其審判は測りがたく其蹤跡は索ね難し

といふ事がロマ書といふ所のなかにありますが此の言葉の持つてゐる意味は實に吾々の血の一滴にもふくまれてゐる事が分つて來ます。神の能力の絶對で、しかも全智全能なる事が分れば死も自から心安く力強く生てゆく事が出來ます。

私が私の性質からして一番心引かれて讀んだのは四福音書中のヨハネ傳と、書簡のうちではロマ書であります。ヨハネ傳の始めに「光は暗きに照り暗きは之を曉らざりき」といふ句がありますが之こそ萬人を貫いてゐます。貴方も亦神の造り給ふた魂を持つた人。たゞ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それを曉らないだけです。丁度生命が惜しいといふ事が内に有つても分らなかつたやうに然し又貴方はいつものくせで「分らなければ分る時の來るまでうつちやつて置く」と思ふ心があるかもしれませんがどうぞ魂の事だけはそんな呑氣な事を思はないで下さい、それは分る時が來なければ分りますまい。然し日頃の研究はいよ〳〵分る時が來た時其なかゝら握り取るものを大きくします。ほんとにしつかりしたものにします。日頃の研究が怠つてあると、いよいよの時に十歩ふみ出せるものなら一歩きりふみ出せないでまご〳〵としてしまうのが常であります。かう言ふと氣を惡くするかもしれないが此度の貴方の病氣についてもやゝ其感のないではないやうな氣がしました、まご〳〵しても前へ一歩づゝでも出さへすればいゝけれど、どうかすると妙にそれてしまう事がないではないと思ひます。さすればそれは其人がそれだけ「生」を淺く渡つて行つたといふもので其人として爭はれぬ愚かさであると思ひます。貴方がそんな方へ行く人とはそれは思はないけれど、どうぞ此機によつて心にも更に心を入れて生命について研究(此言葉はあたらないかもしれないが)して下さい。こんな事を言つたつて私だつてまだ分つてゐても肉體がなか〳〵言ふ事を聞いてくれません、そこに私の苦しみがあります。唯お互にほんとうに氣をつけてどうか生き甲斐のある一歩一歩を固めてゆきませう。ではお大切にね！これだけ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

廢驛の夕

齋賀琴

家を出でゝタイピストにならむとふと思ふこのさびしさのきはまりもなし
ひえ〳〵と澄み渡りたる初冬の海見てさびし漂泊の身に
頼朝が旗擧げせりし伊豆の山今たゞ松の生ひ茂る見ゆ
廢驛の夕べはさびしチャルメラのかなしき笛と冬の入陽と
親よりもはらからよりもなほ深くたのめるものをあはれ師の君
運命の一すぢの道ふみかたく師を泣かしむる不孝の子かな
伊豆の國蜜柑畑にあか〳〵と冬の陽照りて水の音する
濠ばたの草はかなしくこがらしに吹かれてありぬ別離の夕べ
こし方のかなしきこともうきことも一夢のごとし君とわかるゝ
何事も世にいとをしき師の君のおほみこゝぞと思ひさだめむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

草笛

三ヶ島葭

身に堪へぬ重きうれひを招くまで我てふものを恃みてありぬ

あさましきおのがむくろを世におきてわが見ることか生くるといふは

我のみが君をば思ひ我のみが君をば捨つる心地するかな

うつくしき心もなくて縋るのみ思ふといふも悲しかりけり

いましめを解きたる人のそのほかの誰にか我の捉へらるべき

こころにもおのが口にもなしがたきものか苦しくわが求むるは

君によりかよわきものとなれるとき心亂れて君をさへ打つ

あぢきなしかかるまことのつぶやきも君を思へばあやしくなりぬ

胸を刺す悲みのみぞよみがへるこの日心の貧しともなし

心ゆえ幸ひをはたかなしみを知るてふことは人に知らゆな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづからをまだはかなしと思はざるその時已に涙流れし

いたづらに待ちたる故か忘れたる心のごとくむなしくなりぬ

かのこともこのこともとくなしをへん然る後ぞとものだのみする

夜も晝も寄りそふ君になつかしさふと迫るこそ寂しかりけれ

おのが非を見じとするごとおのづから涙に閉づるわが目かなしも

日もすがら默してありし心すら思ひいづれば美しきかな

みにくさの日にあらはるるわが心目には馴るれどすべなかりけれ

涙して恨みなげける人よりも忙しき人はいたましきかな

辛うじてよみがへりたるしるしにと一とき我に涙流るる

倒れたる身は起きがたし碎かれし夢まぼろしは惜しからねども

まことをば語るがゆえにおろかしく見ゆるおのれとおもひけるかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

薄ずみいろ（四回）

奈々子

もし萬一わたしの家が退轉するとか、一家が離散するような場合で、私をためになる家へ嫁らうといふのなら、わたしは何もかも諦めた上で、さう親達を困らせはしなかつたでせう。賣女に賣られるのと同樣な心持ちになられゝば、心の操がどうの、自分に潔よくないのと、いま思つてゐるようなことは自分から封じこめて、自分と自分の思想を入定させてしまひませう。もしまた、私が子飼のときから勤めをさせるつもりの太夫衆に育てられてきていたら、心の貞操と肉體とを、ひとつにして泣死にするようなことも、慥今のまゝの心持ちでゐてもなからうと思ひます。けれども、わたしは清淨でなくつてはならない處女です、一度破れたらば心の疵は體とともに、どうして癒すことが出來ませう。わたしは嫌といふことの理由の云ひにくい、切ない立場に泣いてゐる、わたしの魂のために泣いて泣いてやつて、病らつてゐるのが無理ではないと自分では慰めでやつてゐますが、家の人達は泣くために病氣してゐるとは思つてもをりませんでした。病氣のためにあゝ泣くのだと云つてをりました。わたしは芝居や、ものゝ本で知つてゐる、嫌な人を嫌ひ通した、傾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

城や藝妓を羨ましく思ふと一所に、嫌が嫌で通らない、堅氣な家の娘ほど虐げられるものはないと呪はしいことさへ思つたりいたしました。

わたしの枕許には、二の膳つきの御膳部に、赤の御飯をつけて据えられました。先方からよこした結納の品々もずらりと飾りつけられました。帶代に金貨の包んであつたのが、昔の小判ほど品位がないといふようなことも咄されてゐました。わたしは金貨を包んだといふことや、けばけばしい大きな島臺やなにかを見ても、先方のうちの家風といふものが知れると思つてをりました。

「こんな安心した嬉しいことはないよ」とお母さんは一人でにこにこなさつてでした。わたしはもう取りかへしのつかない羽目になつたので、涙も干涸びてしまひました。自分の身にかゝはる事ではないような氣さへ起つてきました。ゆつくり養生して、來月の末にと云はれたのだけが耳にはいりました。來月まで、來月まで、わたしはかうしてはいられない、一日も早く起て、わたし自身の生てゐる日の殘りだけを、自分の心ゆくばかりに暮さう、そして其日までに、自分の通つてゆく路をきめてしまはう、死なうと決心をしようか、逃げようか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

――逃げて何處へゆく、お前のうちの親類はあいにくと東京ばかりではないか、それも御維新に大きな店はつぶれてしまうし、お母さんの實家の方の親類は士族なので、みんないがなくなつてしまつてゐるではないか、何處に賴母しいかくまい手がある。

わたしの心は味方のないことをかうも私語きました。全く手をわけて探しだして手柄にしようとするものはあつても、かくまつてくれるような近親はありませんでした。では死ぬか、と云へば、死んでは親達へ濟まないといふ、母の胎內にゐるうちから敎へられた傳習と、わたしといふものを作りあげてゐる遺傳の血潮とが、親不孝といふ名のもとに、わたしの折角の勇氣もうちくだいてしまうのでした。わたしは全くどうしてよいか、自分の體內で、二つの矛盾した考へが戰つてゐるのを、制することも出來なければ、どちらかを征伏してしまうことも出來ずに、心の葛藤に疲れながら、人に云はれるよろこびの言葉をつら〳〵聞きながら、近づいてくる悲しみの日を逃れるあてもなく、寢たり起たりしてくらさなければなりませんでした。

私の心は日がたつまゝに不思議と落附きが出てきました。よい考へがついたといふのでないのに、自分でも不思議なほど落附くことが出來ました。兩親はそれを見てはじめて安

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

堵したような顏を見せました。井口は口癖のように「恐悦、恐悦」と云つてお辭儀の安賣りをしに來ました。私は人ごとかなにかのようにそれを聞いてゐました。妹が袖を縫つてくれれば自分でも下じゆばんなぞを縫つたりしました。胸の中では親の味方と、自分の味方とが一刻のやすみもなく戰ひあつてゐるのに、表面だけは影が薄く見えるほど、さびしく思ひあきらめた風情がたもててゐました。師走にはいつてから、やつれた肩へ重い新調の縮緬の羽織をきて、お母さんにつれらて仲人の家へ挨拶にゆきました。

先方から賴まれて仲人に立つた御夫婦は、私のうちの者はみんな初對面でした。五十以上の舊家の御夫婦は、お寶は澤山にあつても子供のない方達でした。二人とも禪をおやりになつて、そしてお茶人でした。おちかづきのお盃がすんだあとで、

「このお娘さんをあすこへおやりになるのはお可愛さうだ。まるで肌合が違ひます。私達が早く知つてゐたらやらせるのではなかつたのに。」と奧さんが、思ひやりの深さうな目つきをして私の方を見ながら仰しやりました。

わたしは初て聞いた救ひの言葉なので、堪へようとしても涙の方がさきへ迸ばしつてしまつて、かくすことも出來ませんでした。其場をつくらふために、よんどころないように、

「どうも氣が進んではゐないらしうございますが、先方樣があんまり御懇望なものですか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら。」

お母さんはお仲人へも私へもかねた言譯けらしく、さういつて困つたといふ薄笑ひをされました。

あの方を伯母さんだと思つて――、そんな突飛なことが出來るものではないと知りながら、溺れるものが繩のはしへも縋るように、あの方にかくまつてもらはうかしらとも頼めないことも頼み甲斐のあるようにも附會けて見たりしました。

わたしといふ心の卑怯者が、天の裁判にあふ日が來てしまひました。わたしは其日をどうして暮しましたらう。そしてどうして其夜をすごして、今まで此世の呼吸を吸つて生伸てゐるのでせう。わたしはあんまりわたしといふものが、生の執着にふかいのが憎くなつてきました。怨む人はない、誰を怨むにもあたらない自分を怨めと、わたしは二六時中自分の魂を搔むしるようにしてゐます。わたしは自分の心へ對しての反逆者です。自分の心へ裏切りをして、肉體はあんかんとしてゐます。靈魂の貞操は汚さないと、安直な氣安めをいつて、生てゐるねうちもないのに日をつんでゐます。

其宵も逃げださうとして、振袖を着たまゝで幾度立つて見たり座つて見たりしましたで

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せう。勇氣といつたらこれつぱかりもない、卑怯なものにはそれ相當の思ひやりが出て、わたしが身を隱したら、宴席につらなつてゐる、お父さんとお母さんはどんなに面皮をかくだらう。寄つてたかつてお二人を詰り苛責むだらうと思ふと、わたしには思ひきつたことも出來なかつたのでした。其場の樣を自分の心に描きだして、平日家のことにはあんまり關渉しない、やさしい、割合に年の多くつもつたお父さんに、老てからの恥を滿座の手前からしたくもない、おど〳〵と取亂した樣をさせたくないと思ふ下から、色直しのなんのと、幾度か着代る着がへのたびに、時間のすぎてゆくのと、蟻が蟻地獄へおちた刹那の思ひに身をしめられて、心を戰かせ、冷たい汗を絞つてゐました。

盃のとりかはしの時に、私は無意識に盃を上へあげました。女蝶男蝶の小さい子供達は、なんの思慮もなくつぐのをやめました。けれどその盃の酒を一口もふくまなかつたからとて何の心ゆかしになりませう。花弁の片々が破れておちたときに、人々は不吉の祥のように顏をしかめて、其場をほどよく取りつくろはうとしました。わたしはそんなことでも嬉しいと思つたのです。今では身がそこなはれて死ぬか、でなければ、今の薄墨色の生活が破壞されなければ、わたしは誠の人間にはなれない、生れてきただけの價値がないと思ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ようになりました。

わたしの心持ちを書きたいのは、これからの事なのですが、また折があつたらにしませう、どうやら書いてゐるのが人目についたようですから。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

十五のS子と社會と

青木しげ子

壹

影ばかりが道路には敷かれて居た。市街の夜は軒々も死に落ちる暗い匂ひに、默つた空氣のいきれは隙間もなくかさみ合つた。時々に空の裡で光る星が其影を投げ出しては、かれた樣な夜鳥の喉元にしめつけるのか、一聲、二た聲、電柱で啼く鳥の羽ばたきがした。一樣の灰墨色に迫つた夜の寂寥は、まばらにともされて家々の電燈をはげしく打つた。

十五のS子は其時――町の家を飛び出した。丁度其夜の影の塊とでも云つた風に――二三丁も行かぬ中に顏色の惡い、弱々しい彼女の薄い影法師は、しつくりと夜の面に溶けて入つた。彼女は茶色にやけた肩掛を頸にくるくると巻いて、左手を脇から突入れ――小走つた。右の手先で懷中の何やらを、ちやら、ちやら、音さして數へて見ると、六つばかりある事がわかつた。彼女は猶も、も一度數へ終へると慥かに六錢あつた。そして「六錢あると思ふと俄かに胸さわぎがし初めた。「自分の小遣が六錢殘つて居る――」その意識が、どうしてこんなに、心を騷がせるのか、はじめは如何しても判明しなかつた。唯、無暗と

胸の中がやける樣に思はれた。何ものかの力强い壓迫が肋骨を押す樣に思つた。夫に投げ入れゝばすぐにも爆發する樣な輩いものがこびりついてゐるやうな無氣味さが感じられた。二三步行くと、T町の曲り角の餅屋の前に彼女の足は不思義に止まつて居た。どうした事か、今までの胸騷ぎがおのづと靜まり、或る落付きさへも意識に上つて來たのであつた。彼女はすぐに分つた。「この店だな、今の胸さわぎは、」彼女は今日初めて思ひ立つた父に對しての行爲を其時も一度その店の前で考へさせられた。「父は大兄の家に病身で居る、そして父は燒餅が大好物である、父は今迄に子供からものを受けた經驗をもつてゐない。あの人は氣の毒な人だ、そして私には今小遣ひが六錢殘つて居る——そうだ、矢張り買つて行かう。父は私の今夜訪れるのを夢にも知つて居ない。その夢の樣な私が現はれて、しかも好物の餅をもつて行つて、「ねお父うさんこれお上りなさいな」とこう云つて病氣を尋ねて上げたら、どんなに喜こぶだらう。」彼女は父にとつても初めての經驗であり自分にとつても初ての試みであるこの行爲の効果に希をかけた。彼女はこの店の前に來るまでそれが不安と疑惑とにあつたのが、この店の前にたつて初めて、その効果としての二人の歡喜が實現せられた樣に思へたのである。彼女は六錢の中を五つまで拂つて、代りとして、あたゝかい燒餅をうすよごれたハンカチーフの中に入れて貰つた。彼女には見えも、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氣まり惡さも何もなかつた。女學校に通ふのであつたけれど、むしろ飛びこんで入つたのである。皮づゝみを受取つてその店を出ると、又彼女には父の事が考へられた。「父はどんなに喜ぶだらう」しかし又一方には「どう思ふだらう」と云ふ不安もあつた。

今頃父はどうして居るだらう、あの布團の側に重つて居るか、それとも階下の火鉢の前にうづくまつて居るだらうか、あの布團の側には、白い瀬戸物の痰吐きがある。うす汚れた渋紙がちらかさつて居る――それから古新聞の山と、床の間には西國の大師廻りの札本さ札所で押して貰つた赤い印のついた白木綿のかたぎぬと、その横には塵まみれになつた箱の中には、もぐさ、と線香の匂ひがしまはれてゐる。彼は父の陰氣な顏を見る樣であつた。そして其眼にしみついてゐる或暗い運命に衝きあたつて慄いた。

「あの人は何と云ふ氣の毒な人であらう、父は早くから兩親を亡くし、肉親者は一人もなかつた。父には兩親の愛と云ふものを受ける時間が與へられなかつた。自分と云ふ眼を明けた時、すでにその日〳〵は小僧の境遇にあつたのである。主人の權利の手が殘酷にも小さい父の頭に下り、叱責のつばきが顏にとんだ、無智な父には唯默忍が敎へられ、朝に夕に小僧の忍從で送られた。二つの眼はその事で常におびえ、あかぎれの切れた手からは紫色の血の流れるのをなでこすつた。父は何故勉强をしなかつたであらうか、否、その時間

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さへも總て主人の仕事の手傳ひにあつたのである。たゞ自己を平安に、無事に過すことは單にこの忍從によつてのみ得られるものとして、無智の父の眼には、むしろなつかしまれたのである。「怖ろしきこの先入觀よ！」S子は愛のない過去の父の生活について涙を流さずには居られなかつた。

父には眞の愛と云ふものが與へられなかつた。母と結婚した事についてもその間に愛の交渉があつて成立したのでも勿論ない。母は母（祖母）の意のまゝに、父は媒人の手によつて、その形の上の式が擧げられたまでゝある。そして父は初めて一家の主人として、A家の養子となつたのである。

父の位置はかはつた。昨日までの小僧は主人の席につく父の位置と變つた。父には何故愛がなかつたらう。老父には愛があつた。たゞ與へられた愛を持た無かつた。蒔かれた愛の芽を持たなかつたまでゝある。父はやさしくなかつた。主人の權利はあさましくも父の手を動かし、小僧の幾人はその手に拂られ雇人の幾人は月ごとに違つた。父の影は茶屋に現はれ、酒におぼつかない足を又しても家の戸に投げかけた。子供には少しもかまはなかつた。家人のすべては後悔し、かつ嘆いたのであつた。

「おゝ芽の無い愛、芽のない愛」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼女は呪はれたかの樣に立ち止まつた。ギクリと彼女はしたのである。と丁度T町の大兄の家の露路角に來て居た事に氣がついた。

S子は子供の樣な足どりで小走る樣に、そのつき當りの家の玄關をさした。なかは暗かつた。薄暗い電燈の光が何かしら彼女に力ない氣分をつぎ込んだ、そしてもやく\と立てこめてゐる冷たい頼りなさの眞中に、頸を垂れてうづくまつてゐる父の影を見た時、S子は小脇に持つたハンカチーフ包をソット右手にうつして父の側にすり寄つた。

「今晩は御父うさん」

父はキヨトンとした眼をS子にうつした。火鉢をかゝへたまゝその咳の出る頸には灰色に褪色した頸卷をしめてゐた。その膝の邊りにもフランネルの膝かけをはめてゐた。

「S子かい、まあこゝへおよりよ、重いでな。」

父は火鉢の邊りを出しS子の爲めに明けた。

「今みんなはお湯に出かけたよ、その間に一寸ながしのものを洗つてしまつたところなのだ――」

彼女の眼は火に近い父の手の上に落ちた。痩せた骨ばかりの手はうすい皮膚の皺と共に彼女の眼球にしみついた。

「この手はいつの間にこうまで痩せたらう、此手に嘗ては脈も切れた、血も流れた。併し此手はよく荒仕事にも堪え――そうだ。此掌の過去にはあの煙草の火さへも長く載せられてゐたと云ふではないか、又この手にかつて一家の主權があつた時、肉の張りつめた手の未來がどうして流し元の洗ひものをするなど〻考へられよう。一家の物質の力が此手に握られてゐた時この手はこんなにも慘めを示してはゐなかつた。」

彼女の眼にはあつい涙が一杯に溜つた。あゝ父よ、貴方はあなたの子(大兄)の手に一家の支配が任された時から、あなたは如何してそんなに泣おど〳〵しい氣象の人となられたか何があなたをそうした意氣地ない人と變らしてしまつたのか、又義姉はあなたの三度の粥をどうして炊いて上げないのであらうか?

S子は父を見詰て居るにしのびなかつた。父は愛に飢えて居る、眞實の愛を父は知らないで居る――眞實の愛を父はどんなに欲して居るだらう。噫併し父には愛そのもの〻本質さへ疑はれるのである――

誰がこの氣の毒な父に誠心からの愛を與へるであらう。誠がこの父に愛の芽を蒔くであらう。彼?彼女?、それはすべてS子の心を寂しくするのみであつた。と其時S子は又ある烈しい惱ましさに犯される事をしつた。彼女はゾットト身慄ひをする程忘れてゐた二三日

前の祖母との對話を思ひ出した。彼女の瞼は自然と伏せられ、白い靄の樣な中に人影らしいものを認め出した。

「おばあさんだ！」

そう叫んだ時はたゞの一瞬間であつた。併し彼女が眼を開けた時、うづくまつてゐる父の前にもう一人の老母の顏が重なつてあらはれてゐた。

「お前はお父さんが氣の毒な人だと繰り返してゐるが、御父さんは何處が氣の毒なんだらう、あの人はあれでいゝんだよ、あの人は若い時には茶屋酒はのむ、この私やお母さんをどんなに困らしたらう、その上子供に對しては少しもかまはず、てんで、子供を抱いた事さへない人なんだもの、あの人の何處がお前には氣の毒なんだらう」小さいＳ子の姿が祖母の前にとび出した。

「おばあさんの云はれる事は私にも分つて居ります。けれど御父さんは本當に氣の毒な方ですよ」

「そんなにお前が思ふなら、お前が御父さんを養つて上げるといゝ」

わだかましい不安の中で、こうしたポツリ〳〵とした言葉が浮んで來ると、次第々々に祖母の幻影も、Ｓ子自身の姿もきえてしまつた。矢張り見渡す室內は欝蒼しかつた。影の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

薄い父の息が冷たい障子紙にふるえ、弱々しい二人の存在がS子の意識の上に驚かれた時とりとめもない心細さ、ひきちぎられる樣な物たりなさに一しほ重さが増して來た樣に覺えられた。S子は周章てゝ包みを出した。默つたまゝ火をかゝへて居る父のたよりない樣にも同情が加はつて來た。

「ねお父さん、まだ少しあつたかい樣ですからお上りなさいな」

火を見つめてゐた父の眼はS子のさし出す包の上にすぐとそゝがれた。

「あゝ」

S子は父の面を一心に見詰めた。氣の毒なこの父の顏に、この小さいもちが少しでもの光りをあたへて呉ればいゝ、父はどんなにこの包を見てゐるであらう。S子は父の顏がどんな風に變つてゆくか、どんなにこの哀れな老人に自分の愛が作用するか、S子はたゞそれが見たかつた。

「お前がこんな事をして呉れると御父さんは嬉しいよ」

そう云つた父の唇には小さい喜びの波紋がよめた。彼女は心に壓へきれぬうれしさを見ながら猶も父の顏を見つめて居ると、父の顏色はすぐにかはつた。瘠せた手はその包をS子の前につきかへした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「お前が親切に呉れたものでも、わしは食べる事が出來ぬ、湯から歸つて來れば皆にやらなければならないし、子供(大兄)にやつてしまはねばならないから、折角のお前の心が何にもならない。お前が歸つてから食べる方がいゝよ」

「澤山じやないんですもの、お一人で召し上れば、」

「わしはそんな事が出來ぬ、家のものが何にか買つて來てわしに呉れなくとも、こらへて居るが、わしには出來ぬよ」

「どうして」

S子は叫んだ、あゝ父はこの自分の與へた小さい愛さへも受ける事に躊躇する。一人にあたへられたる愛さへも受けるに怖れ、よけるこの父の手よ、父はしかも自分の愛を拒むのではない。受けたいのである。喜んで居るのである、あゝ併し、包をもどしたあの行爲は父の心そのまゝである。

「御父さん、宜しいでせう、御二階でやすまれる時に召し上げれば――」

S子は包をひらいた。そしても一度父の側にさし出した。「それじやね」父の低い聲は喉元にひつかゝる咳で一度きれたが烈しくせき入つた後につゞいた。

「それじやね、おまへも一緒に御上りよ」

彼女は承諾した。家人の留守を唯一人の子供の前でさへこの包に手を下し得ぬ父の氣の毒な心、しかもその子供は、父の爲めに、父に受けられることを望んで、わざ〳〵來たのではなかつたが、その肉親の子の前に、其子の與へた愛をさへうけることに躊躇を見出す父の靈は何によつてかくも咒はれてあるのか、氣の毒な父よ！彼女はその一つを自分も取りながら自分の片方に音をたてゝ口にしてゐる父の影法師とむかつた。

この影の薄い老人よ、そなたの影はつかれて居る。弱つて居る、まことの愛に飢えて居る。――しかるにすべての家人は何故にそなたに對して眞に理解を持ち得ないのであらう、かつてそなたは薄情であつた。慘忍であつた。併し、それはそなたの罪ではない。さればそなたの何が惡いのか、過去のそなたの薄情な行爲は今の家人の不親切に報はれてゐる。家人は病身なそなたを嫌つてゐる。そのためにそなたは氣兼をさける爲めに朝自身に起きて、馴れない炊事に粥もたかれてゐる――

「自分が若しこの家に居るのであつたら――」

彼女はせめて自分に同居がゆるされて居るなれば朝の粥位は父のために炊くであらうにと思つた。

父はその間に一つの燒餅を大方食べて居た。そして食べ終へてしまふと、懷から紙を出

して洟をかんだ。

「S子、わしは困つた人間だな、身體がわるいものだから、こうして冬になると、汚ない事だが洟が出る、咳が出る。この通りに咳が出る――みんなにも嫌がられるのも無理はないよ」そう云つていくつかの布と、紙とをS子に示して又默つたまゝにうつむいてしまつた。

「おゝ」S子は何事かを思ひ出したのであつた。そしてS子の身體中はいつの裡にか慄へをきたして居た。

雪の積つた道路に一人の癩病人が倒れてゐる。そして其處へ通りかゝつた一人の若者を呼び止めて叫んでゐる。

「どうか私をあたゝめて下さいまし、あたゝめて下さいまし」

若者は立ち止つた。

「わたしをあたゝめて下さいまし、私をだいて下さいまし」

若者は行倒の前に近よつて行つた。そして病人のくづれた顔を見たとき、若者の顔は見る〳〵變つて嫌惡の情が一面の表狀にみなぎつた。

「汚たない、僕はしらないよ！」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

若者は見むきもしないで通りすぎ樣とした。すると癩病人はそのしなびた眼をじつと若者に控えた。

「お前はTぢやないか、わしの子じやないか」

併し若者はその言葉さへもきゝとらないで、「きたない！」と罵言を浴せて、つばきをかけて行き過ぎてしまつた。病人は悲鳴をあげて其處に氣絶した――

肉親の關係がこの場合何にゝならう。しかもその直接血を受けた子でありながら若者はその父の死を癩病人なるがために省みなかつたではないか、まして物質の支配にある社會の利已的人間の愛に他人として癩病人を救助するだけの人間が何處に居たらう。S子は自身をそうした若者の位置に於いて見た時、ゾットした、自分にもやはり嫌だ、と思つた。そして、それが現在のこの父であつたならばと考へて、自分のあさましい心に責められた。きたない事にはじた。その中でも「自分の父は癩病人でない」と云ふ事に小さい慰安を見出し喜びを見た。そして又考へた。

自己の愛の矮小になげき、自己生命の進展にむかつての努力の意志は、こうした場合人間の感情に對しては又一時あとじさりしなければならない程弱いのである。そこに人間の苦悶が起きるのである。愛の徹底を叫び、萬人を抱擁する愛に昇らうとする者に於てさへ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

猶、醜は醜として見えるのである。其處に悲痛な人生の叫びがあり、戰ひがあり、人間の努力があるのである。

S子は自分の側にも同じく病身な父を見たのであつた。父は又一息ゴホン〳〵とした底づよい咳を續けて居たが、やがてS子の方をむいて、

「寒くはないかい」と云つた。

「いゝえ」返事をしながらも猶S子は思ひつゞけた。

家人がこの父を嫌ふのも尤だらう。父は癩病人でない迄も父には汚物がつきまとふのである。終日火鉢に寄つた父のあの暗い姿を見てさへ誰でも餘りいゝ氣持はしない、それが一日に止らず長月に續くのではないか、のみならず常に側に付屬して居る、啖吐き、洟紙、それによつて受ける不快は同情される。併し此父を眞に理解し、慰める人間は誰も居ないのであらうか。

「只一人ある――」S子は父を見ながら自分自身に淋しく云つた。けれども、かすかな微笑はS子自身をより寂寞な思索の中に投げ入れて行くのであつた。

「この十五の自分が父のために何にゝならう。生活の保證をかち得てゐるでもなければ、與へられる小遣さへ時には學用品の爲めに不足する有樣ではないか、この弱い身體をもつ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た自分が父のために何にならう」と思つた、が併し愛は物質の支配によらない、たゞ愛はまことだ、この愛が通じさへすればそれでいゝと慰め、かつ前の言葉を打ち消した。すると又彼女には一つの疑問が起つて來た。

まことの愛を知らないこの父の血をうけた自分が、内心に愛の叫びをきく不思議に犯されたのである。しかしそれは又、父の無智に對する厚い同情にかへられて入つた。父は無智のまゝに老いた人である。父は文字をさへ辨へずに生ひ立つて來たのである。兩親の愛を受けた人間にとつては知らず、愛はその人の智慧によつてやしなはれるのである。智慧によりて愛は育てられ、愛は又より大きい睿智を覺ますものである。S子は父の肩に手を掛けた。そしてやさしく云つた。

「お父さんもう御寢みになつてはどうですの、みんなが歸るまで私が留守をして居りますから――」

父はS子の言葉には返事をせずと、彼自身に思ひ出した樣な調子で云つた。

「そうだ、お前はもうお歸りよ、餘り遲くなると又家で心配をするからな、」

S子は父が、父自身の就床の時間について考へるよりも、かへつてS子の上に心配してゐるのを知つて濟まなく思つた。そして父に早やく休ませたかつたが、今の場合父の云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まゝに歸るのが父の心をも安くするかと思つたので歸ることにした。

「それじやお父さんも成る可く早く御やすみなさいな」

父の暗い影は玄關を出てゆくS子の上に見送つて居た。S子は影ながら父の後姿に接吻をなげて心に父の健康を祈つた。そして玄關を出てしまふと、何故だか今歸る家にむかつてある不快がはさまれてゐる樣に思へて來た。何時の間にか、心の城壁が築かれてゐる樣な、怖ろしい不安が、一歩一歩と踏みしめる足元にも疑惑の聲とともに襲つて來るのであつた。「自分には今とりたてゝ家族のものに何の不平を見てゐるのでもない、たゞ父に對しての自分の理解と家族の父に對する見解や態度には不服ではあるけれど、どうした事だらう、この不意な心のはたらきは、」彼女の足は增々重く感じられて來た。そして家の戶に彼女が手をかけた時、その腦ましさは嫌惡の意さへ含んで、いらだつ心は無暗と狂つた。あら〳〵しい調子に玄關はあいた。彼女はその音に自身に驚いて自分のあさましい感情を沈め樣と努力した。「靜かにしづかに」と祈つた。しかし氣味の惡い樣にその夜の中に十五のS子の頭は父に親しく家人に遠くなつてゆく樣であつた。

二

翌日眼が覺めても家人に對する、ある不平がS子の意識の中にあつた。少し熱に犯され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た様にS子の眼はぼんやりとして、氣がくさ〱とした。併し、いつもの様に朝床をはねると臺所の七輪に火をつけて家人を起さぬ様に支度に取りかゝつた。「老人などこの寒いのに起こしては氣の毒だ、朝の支度位は一人でなんでもなく出來る」そうした小さい同情がS子の胸には習慣的に植えつけられ、馴らされて居た。水づかひも苦しくはなかつた。S子は箒と、はたきとをもつて臺所だけをかたづけてしまつて、まだ薄暗くついて居る電燈の下で、昨夜遲かつた爲めに出來なかつた學課の用意も濟してしまつた。そして包の上に古い加藤直士氏の譯になる、トルストイの我懺悔をのせて老母達の起床をまつた。

可成り古い家であつただけに、家の何處かで音を立てるとすぐに一家中に響き渡つた。丁度七時過ぎになると、奥の間に布團を上げる音がした。祖母が起きた樣子であるS子はすぐと、習慣的にかた付を手傳ひに行くので、今朝も奥の襖をあけて入つて行つた。

すると祖母はなにかしきりと、布團の廻を探しまくつてゐた。そして、S子が入つて來ると祖母は彼女の方へ眼をやつた。そして猶も小頸を曲げたり、眼を見張つたり、落つきもなく、矢張り何物かを探してゐる。

「何かなくなつたんですの」

彼女は不思議相に自分を見つめて居る祖母に尋ねた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「お錢がないのだよ。慥かに枕元へ置いておいた五十錢金が」

「それは困りますね、私が探して上げませう」

S子は布團をすつかりと探して見た。上にかけた衣類ものけて見た。が、無くされたと云ふ五十錢はその何處からも出て來なかつた。彼女は獨り腹をたてた。この室が不快そのもの丶化身の樣な氣持に犯された。金がなくなつたり、物品が紛失したりするはいつもこの室だ、この室は薄暗く、蔭氣息く、汚たならしい、此室そのものは何者にか呪はれて居る譯でもあるまいか、そんな事を彼女は思つたりした。彼女は神經家であつたからこの場合すぐ「この室の汚れだ」と云ふ感がした。と同時にどうしてもその汚れを拂ひのけねばならない氣がした。又一方時々祖母の記憶力の不足から、思はない手箪笥の中からや臺所の火鉢の引出から出たりするのがあるので、又それではないかと思つたが、今日はなぜだかその汚れが此室にある樣な氣がした。彼女は室の隅々を探し求めた。しかしその汚れは何處にも見えない。老人はだん〳〵と不思議がつて來る。

「それは慥かに置いたのだよ、誰も此室に入つて來るものは無し、入るのは、お前とわたしの外にはないのだし――」

「そうですとも、本當に不思議ですね」

とS子は何氣なく祖母の自分に濺がれてゐる眼にある不快な曇りを見てとつた。彼女はそれを見るとたまらなくなつた。

「S子お前は知らないのかい？」

此言葉はS子の精神にグツト壓迫した。S子は怒つた。怒りの反抗が極度に燃え出樣とするのを力一杯に忍んだ。けれど彼女はじつとこの猜疑に向つて默つてゐるに堪えなかつた。

「私存じませんよ、お祖母さん」

漸くこれだけ云つたが、彼女には罪惡をいむ心と、此あさましい疑惡にむかふ嫌惡の爲めに烈しい眩惑さへ覺えた。

自分には心がある。自分の其心は惡を忌み、醜を憎み、虚僞を耻ぢてゐる――その爲めに、自分は又人一倍苦しんでも居る。自分は自分の惡を見る度に苦しむ。又人の惡を見、人の虚僞を見せつけられる時又苦しむ。それはその人の惡をゆるしたいからだ、他人の惡をゆるす事の出來るものは、又それだけ自己における苛酷な裁判官であらねばならない。それにしても自分はこの祖母の自分にむけられた猜疑をもゆるし度いのである。その爲めに、自分は又この嫌疑をうけるものとしての位置に苛酷な裁判を下さなければならない。彼女

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は自分が嫌疑としての資格を考へて見た。自分が、この嫌疑者として、思はれるにも又不思議はないだらう。そしてその必然としては金子の要用はあげられるのである。その上自分の體質は人よりも薄弱である爲めに、家人には知られずに、小遣の中から買ひ藥もして居るのである——併し、自分は罪を犯し、惡をふんでまで自分の體質を思ひ、讀書も希ふ事はしない。それはまちがつて居る。自分の讀む書にはみなこの罪に對する苛酷な自己が敎へられるばかりである。他人の罪に對する寛赦が聞かれ、春の聲があふれて居るのである。」

彼女は祖母のこの言葉の上にも矢張り寛赦をもつてむかはうとした。併し、それには自己の明白を示す何物の證據もない。辯明は自分の避くべきところであるのを思つて寂しんだ。「どうしても探さねばならない」探し出す事が、今の場合祖母の言葉をゆるし、一方自分自身にこの大きな不快を拂ひ去れるのである。その上にこの室の汚れ、それをも自分は清める事となる。彼女は餌に狂ふ牡獅子の樣に、五十錢玉にむかつた。敷布の下、疊の隙目、すべて探せる所さがしたが、その何處にも終に形はなかつた。

「もういゝよ、ないものは探しても無いよ」

祖母はそう云ひはなつて洗面に下りて行つた。S子は獨り奥の間に殘つて何ものともつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かずに默禱した。「自分の信仰に裏切る事は苦しい、自分は自分の信仰に飽迄も生る、自分の信仰に今曇りのない事を明言したい」

それからさま／＼な事を思つた。多數な惡魔が善人の子を抱えて奪ひ走つて行く樣な繪畫さへ、眼の前にアリ／＼と見た。惡魔！惡魔！そうだ惡魔の仕業だ、そう思つたが、彼女の心はどうしても落付かなかつた。そして自分に省みた時、內心の叫びに赤面しなければならなかつた。

「お前はたゞお前の心を見て居ればそれでいゝのだ、お前の心を強いてよく見せたい爲めに、お前はよけいな罪をつくるのだ、惡魔を見るのだ神は自分の清淨を見せ給はない、お前は人に對して自分のいゝ子が見てもらひ度いのだらう」

彼女は今の自身に「そうだ」と云ふ醜い姿に耻ぢなければならなかつた。

臺所では、祖母が一人で食事にかゝる樣子が見えた。いつになく、その調子があら／＼しく聞えて來るのに、彼女の心は又曇りに被はれた。「氣の毒な祖母よ、罪人は私ではない」彼女は祖母にこの事を云ひたかつた。又祖母もその證據が上げられゝばどんなに喜ぶだらう、今の不快もすぐ消えてしまふのであらうと思つた。彼女は臺所に入る彼女自身も何故だか後暗い樣な氣がした。自分が罪人である樣な氣さへした。そして何故だか、祖母に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

向ひ合つて居る自分が、祖母の眼をさけて居る樣な、はがゆい感じに囚はれながらも、祖母に對してある小さい嫌惡が彼女の中に覗かれるのを度々見た。けれども彼女は自分にせめた。すべてが自分が小さいからだと耻ぢた。そしてまだ小兒が起きて來なかつたが、學校に出る時間なので、食事をすますと、家を出た。

三

外に出ても寂しかつた。道行く人々を見てもわびしかつた。彼女はいつも登校の道で、勤務に行く、會社員、銀行員、敎師、商人など、あらゆる階級の人達と會つた。そしてそれらの人々が、すべて、キヨトンとした大阪人であり、少しでもこの人生と云ふ事なり、社會と云ふことについて考へてゐる樣な人間の表狀に出あつた事がないのを心細く思つてゐた。考へると云ふことには、特に時間を撰定する必要もなく、靜かな場所でなければ出來ないと云ふのではない、考へると云ふことは又キヨトンとして居る事ではない。S子は我儀悔を手にしてから特に物事を考へる樣になつた。遊戯の時代はすぎて、毎日、彼女のいづれもの時間に思索はともなつた。

「人々ははたしてそれ自身の存在について考へた事があるのだらうか、それとも考へても分らないと云つて暮してゐるのであらうか、」その無自覺な表狀に、所謂社會化した人間の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

俗悪な頭腦に、未だ眼を開けたばかりの彼女でさへ驚かされ、かなしまするのではないか。

今朝も彼女は學校敎師と向ひ會つて電車の席をとつてゐた。其處へ一人の老人が入つて來た。丁度席がふさがつてゐる爲に老人は立つて居なければならない。老人の足つきはあぶな氣にその敎師の前にあつたが、敎師はなか〱席を讓り相にもない。彼女はたまらなくなつて老人に自分の空席をあたへた。そして、その敎師の前に立つてじつと敎師を見つめた。彼女は其時眞にその敎師が憎かつた。そして彼女の心にはいつしか世の敎師、道學者に對する不平が湧いて居たのである。

自己がかつて敎へられたるまゝの智識、道德をそのまゝ形式として生徒に敎へるところに眞の敎育者の責務があるなれば、如何なる時間を費やすとも、又如何なる勞力をそゝぐとも其處に何らの新らしい見解、智識、道德もめざめない、生きた人間の自覺がもたらされる理由がない。むしろそれは永遠に來ないだらう。まして智識の進展、生命の創造、社會の改造がどうして叫び得られやう。その重大な任務を放棄し、何らの責任も、負擔をも感じない、現在の敎師、道學者の存在は何を意味するのであらうか、現に社會は其等の人間を歡迎し、存在の糧をさへ安々と與へて居るのである。彼等の言は、道德を說く、慈善

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

をとく、併し、その道德の裡には不德の穴があき、慈善の形式は、虚榮と、虚僞とを人間の尊い靈に植えつけてゐるのを知らない。

「にくむべき敎育者よ、無自覺なる道學者よ」

彼女はもう其の上その敎師と向ひ合つて居るに堪えなくなつた。そしてもう考へまいと思つた。たゞ淋しさを發見するばかりであると考へた。そして電車がつくとすぐその步みを日本橋五丁目の貧民窟通りにとつた。Ｕ女學校へと通ふには普通人々はみな日本橋四丁目で下車するのであつたが、其の日は電車が四丁目をのり越したために五丁目にやむなく下りたのである。外に生徒は多勢あつたが、彼女は一人であつた。

「自分は道連れを持たないそしていつも他人とは異つた自分に生きてゆくであらう」

丁度Ｓ子が二三丁も行つた頃であつた。彼女は突然、前方にあたつて、ある騷しい噪音を聞いた。人々の立ちさわぐ聲は、この邊りの人間の野卑な調子を含んで、あくどくＳ子の耳に入つた。Ｓ子は前方を見た。其處には若い男女の姿も見え、老人の姿も、小供の影さへも見られてゐた、そして一同は輪を作つた樣に、中のなにものかを取卷いてしきりとはやしたてゝゐた。時々には一齊にふり上げられる高笑ひさへ聞えた。Ｓ子は近づくにつれてすぐ樣あるいやな氣分に犯された。彼女の腦はすぐに「不愉快」を告げだ。彼女はだん

〱とそれに近づいた。あたりには黄色い湯氣の樣なものがモラ〱と上つてはそのあたりの不潔な塵埃と混じて人々の鼻をついて居た。溝に腐つた野菜の切れ〲も道路に投げ出されたまゝに臭氣を漲らして居た。小さいS子は不快を感じながらも一種の好奇心にかられて來た。

「何があるのだらう」彼女の眼はその時ある未知に向つての興味に開かれ、怖る〱彼女は人の後に立つてその未知物にむかつて眼をなげた。その瞬間、S子は強烈な眩惑に襲はれた。そして一瞥するなり彼女の頭はたて續けに振られ、毛髮は根元から立つた。眼は赤く充血し、身體は猶も痙攣を續けて休まなかつた。交尾した二匹の犬を中にかこんで笑ひ騷ぐ人間の頭が覗かれた。そしてその愉快な笑聲は猶もより高く響き、S子の鼓膜に衝き入つた。十五のS子にとつては只あさましさに慄えたのである。汚なさにふるえたのである。S子は自分について考へて來た。人生について、社會について考へて來た。併しこうした動物の本能を露骨に見せられたのはまだ初めてであつた。

「この事實は何を意味するのであるか」

こうした動物の醜態が果して彼等の眼を引くだけの意義をもつてゐるのだらうか、あさましい動物の本能が――併し事實の前に彼女の言は何ものをもなさないのであつた。彼女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は又六つ七つの小供、漸く歩行に馴れたばかりの子供さへ、同じ疑問の眼をこの二匹の動物になげられてゐるのを見た時、息づまる程の苦しさを覺えた。

「あの子供だけはあちらへやらねばいけない」

Ｓ子は一人もがいた。もがきながらもＳ子それ自身にその上たゝづんで居るに堪えなかつたのである。彼女の考は亂れに狂つた。樣々な現象が次から次へと彼女の思想を掻き亂しにかゝつた。彼女は自身の歩行さへも忘れて只無暗と歩いて居る樣であつた。と彼女の足は又學校に近い横町に迄來て立ち止らねばならなくなつてゐた。「どうした事だらう」と思ふ間もなく「畜生」と叫ぶ聲に彼女の心は默らせられた。見れば木材を山の樣に積んだ荷車が道路を防いで居るのであつた。車に縛付になつた牛が倒れたと云ふので、人の山が出來て居た。

Ｓ子は前に廻つて入つた。牛は其處に眞實倒れてゐた。がその牛の瘠せた背骨と、うづ高くつまれた荷とをＳ子が見た時、如何に人間の仕打の慘虐であり、動物に對する人間の心がいかに苛酷であるかに驚され、人間の殘酷に對して罵らずには居られなかつた。

瘠牛は後脚をつき出し、前脚を折つて倒れて居た。鼻から吐く息は、黄色い痰につまつて異樣な臭氣は冬のじめ〳〵とした雨上りの道路の土をぐる〳〵とまいてゐた。Ｓ子は多

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

勢の人を掻き分けてその牛を見た。其時、肥大な體格をした男が、荷の後方から現はれたかと見ると、手にもつ鞭はすぐ様牛の背をピシッツとつゞけ様に打つた。

「畜生ッ！」

S子は其時牛の細いうなりに身を縮めたのを見た。

「畜生、こんな荷位でくたばりやがつて、どうしやがるんだい」

若者の口はひん曲つて居た。開かれた齒並びの惡いその口から、うす赤い舌の上下するのがのぞかれた。鞭の音は猶も續いた。ピシリッーとその音波が生臭い風にすゝりなき、倒れた牛の底うめきを、どん底まで見物の耳にふきこんだ。S子はぢつとして居られなかつた。侮蔑と罵りの眼をもつて、鞭をもつ男の手をじつと見た。母指と中指とは杖の上部にヒタと押しついて居た。そして力まかせにふり上げるその鞭にも、指の節々にも毒々しい慘虐がこめられてあつた。

見物は一齊に鞭方に應加するのみで、さもないものは皆散り〴〵にちらばつてしまつて居た。

「この弱つた牛をどうしやうとするのか」

S子はくたばつた牛の爲めに泣いた。牛の苦痛をじつと牛の苦痛として見て居るに忍び

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なかつた。畜生なるが爲めに牛の苦悶は人間の苦悶として同情され、いたはられる價値がないのであらうか、四つ脚なるが爲めに、この牛の境遇に苦しみを見出しこの牛の爲めに泣く人間が無いのだらうか、この牛の爲めに涙を垂れ、この牛の爲めに一杯の水を與へ、山の樣な木材の幾分を減ずる樣の人間が、この多勢の人山の中に一人として無いのか、S子は自分の少さい體に、自分には牛に對してはたらく心を持ちながら、行爲の上には自分の力は何らのなすべき價値さへもない自分の矮小に、力の不足になげき、たゞ哀れなる動物の眼に溜つた油液にいたんだ。

この牛の爲めに眞に同情し、痛心する人間にとつては、この牛を救助する何物をも持たず、この牛をたゞせめぐ人間にのみ慘酷なる鞭は所持されてゐる。

「社會はあまりに醜惡に馴れてゐる――虚僞に親しみすぎて居る。あまりに人間のこゝろは無自覺である――」

彼女は猶暫く其處にたゝづんで居た。

社會の虚僞、罪惡、に對する不平は小さい彼女の憤激をたゞつのらすばかりであつた。彼女の足元から、社會の罪である。彼女のうすい眼球から、人間の無自覺である、そして彼女は自分と社會との間に、何ら交流する思想の流れを見るでもなく、同じうする見解を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見出すでもない寂寞にたゝずんで居た。

「人間はも少し眼が開かれてもいゝ」彼女は校門にさしかゝるまでこの言葉をくりかへし獨言した。

（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

暗潮

再び海に行きし従弟のために

佐藤欽子

六ケ月に亘る長い航海に、虚弱な彼の身體は全く壞されて仕舞た。此體では到底過激な勞働には堪えられぬと專務醫は話した。そして尙も不安らしく瘦せた彼の肋骨の邊に聽心器を當てゝ見た後「暫時呑氣に養生せよ」と優しく云つた。愼二は入港するとすぐ船から下されたのであつた。今年の六月、愼二が船に乘り込んだ時、既に病氣が起りかけて居た。嚴重な、檢査醫の方も無事に通過した程それは輕症であつた。が歸途船が印度洋へ入た頃から折々發熱がしたりして身體の調子が面白くなかつた。健康な人でさへも印度洋一帶の峻烈な氣候には惱まされるのが常である。濕氣と白雨と酷暑とが續いて、暗黃色を帶びた空と海の外何物をも見る事が出來なかつた。乘船者が最苦痛に感ずるのは陸を遠く去り土を見られない事である。薄濕りを含んで彈き返す力を持つた大地を踏む心地快さは到底乘船者以外に味ふ事の出來ぬ愉悅である。大地に生を享けた者は土に愛護慈育されるものだと云ふ事を愼二は身に沁みて感じた。船員が多く健康を害ふのは乘船期間で陸地は彼等に取つて父母であり又愛人であつた。其の「土」に別れて苦しむ船員が遙か彼方に陸地を望み

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

得た時程嬉しい事は無い不思議な動機は胸を波打ち流れて青く疲れ切つた其頰にも美しい血がさへて來るのであつた。更らに入港の氣笛を聞くともう靜かにしては居られなかつた彼等は思ひ思ひ隊を組んで土を踏みに出掛けた。彼れ等は出來得るだけ長く懷かしい土の香をかいだ。力を入れて大地を踏みしめた。風物の見物よりもそれが何より大切な仕事であり又最期待された事であつた。港を出て以來十數日陸らしい影さへ見る事の出來なかつた船員や船客は印度洋の陰濕な空氣を一層恐れた。愼二の身體に、潜伏して居た、病氣は、日に日に黑い、頭をもだげて來た彼は出來るだけの食養生をもしたが、更に効果が見えなかつた。それでも彼は、自分の任務だけは缺かなかつた。毎日重い、足を引き摺り乍ら暑苦るしい汽鑵室に下りて行つた、石炭の燻ぶる紅い炎は恐ろしく燃え盛て低い機鑵室を赤く染めつけた。愼二は火夫であつた。時間を定めた仕事なので、可成忙わしくはあるが、仕事を仕舞へばあとは自由な自分の時間であつた。其那時火夫等はテーブルを圍んで、卑しい女の話に耽り酒を呑んで心に凝る爵を散じた。低い天井の下に燻る石炭の臭ひや氣の滅入る重い機械の軌る音を氣にしながらも、同僚と一所にボーイを捕へて香りの善い酒を盜ます樣な惡戲も好んでしたのに全然此頃は浮かぬ顏して爵ぎ出した愼三を同僚は氣の毒に思つて「仕事を休め」と親切に云つた。實際彼は仕事に堪えられなかつた。心臟が壓へ着

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けられる樣に苦しく、靜かに手を置いて見ると、驚く程動悸が昂ぶつて居た。針で刺される痛みを感ずるのも一再ではなかつた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

船は靜かに港に入つた。病める愼二の胸には鼓動が一層烈しかつた。彼の胸は喜びに充たされて居た。彼は下船すると直ちに東京の生家に歸る心算であつた。愼二は船員の何人かに送られて、靜かに船を下りた。絶えず船の出入する港町はいつも焦々した感じを與へるものだが、愼二には凡てが懷かしいものゝ樣に思はれた。海岸に打ち寄する波の音も嬉びを送るかの樣に思はれた。物賣りの支那人が多勢蛆虫のやうに集つて來る、眞黑に顏を染めた水夫が氷を運んで居た。次の船の出帆に間近いか多くの見送り人が押しかけて居た。船から吐き出す黑い煙が港の空一杯に廣がつて乾いた鐘の音が氣忙わしく聞えて來る。かうした眩しい群集の中を愼二は獨り靜かに步いた。やがて小一時もして愼二は支那町に近い宿屋の一室に疲れた體を橫へた。唐紙一重を離てた隣室には、若い男の靜かな聲がした。「明日立つのだから」と下女に荷物など賴んで居た。愼二は氣分が惡いので、膳に手も附けず、風呂場へ入つた、白い柔らかい湯氣が靄のやうに、立ち込めてかすんだ。鏡の面に溜る露が線を描いて下りた。あたゝかな湯は毛穴の一つ々々に浸み込んで、體の中まで溶け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

込むかと思はれた。體中の血が體に昇つて行くらしいのを意識しながら、痩せた胸や殊に黒い手足を見入つた。船の同僚に「白いな」と云はれたのを思ひ出して、クスリと笑つた。暫らくして湯船を出た、電話室の前を通ると、荒い縞丹前を引被けた外人がしきりに番號を繰つてた。室々には明るく電氣が付けられて下女の開つぱなしな笑ひ聲が聞えて來る。彼は室に入ると窓を開けて手摺りに腰を下ろした。病める足は重たく垂れた。愼二はそれを振つて見た。力の拔けた兩足はブラ〻〻と僅かに動いて又元の位置にかへつた。淋しそうに靜かな調子で口笛を吹いた。知らぬ處に一人居る自分だと思ふと謂ひ知れぬ淋しさを覺えずには居られなかつた。日はとつぷりと暮れて港町一帶の空は次第〻〻に暗くなつた。帆柱が夜の海に物凄くつゝ立つてるのが家並の間から見え隱れした。斯那目の前の景色に淋しい心の遣り場を見出して彼れはうつとりと見入つた。波の音につれて漂ひ來る船頭が無精に淋しく彼れの頭を掻き亂した。彼れは船に殘つてる人が氣になつた、同僚の色々な顏が浮んで來た。彼が此港を立ち去つた後あの船は又何處へ出帆するのだ、再びあの船の人に逢ふ事は出來ない、斷えず葉卷を燻ゆらす人の良い船長にも丈の高い肝持ちの機關長にも、今年二十五歲だと云ふチビのボーイにも顏を合せる折は最う永久に來ぬであろう。自分は再び船に來ることは出來ないのか、と思ふと急に海の生活が捨て難く懷かしいもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に思はれた。彼は自分のやつれた、心と體を暗い生家に運び行かねばならぬ事が辛く思ふた五年間と云ふもの殆ど海上で暮した。其間の生活には元より色々の出來事があつた。恐ろしかつた事、悲しかつたこと、たまには飛び立つ程愉快なこともあつた。然し實際は喜ろこばしい事よりか目を掩ふ樣な凄慘な事實の方が多くあつた。メキシコ航路。此航海は最近に於て、最も悲慘な、痛事が出來した。僅かの間に二人の死者と一名の逃走者とを出した、三人とも愼二とは近しいものであつた。伴田と松下とは以前から親しかつた、松下は肺炎で倒れた、强壯な氣の勝つた人だつたが二日の間に死んで行つたのであつた。目をつむると今でも友の姿が明らかに浮んで來る。死ぬ二日前心地が惡いと云つて、仕事を休んだ、愼二が尋ねて行つた時、松下は青い顏して寐臺に横つて居た。彼は愼二を見た樣であつたが默つて目を閉じた。「どうした」と云つたら「脊中が痛む」と云つた。愼二は「疲れが出たのだろう」と云ひながら胸を擦てやつた。其晩から烈しく發熱した「四十一度何分と云ふ死熱に身を悶えた。其大きな體は轉々と室中をのたうつた。氷袋も濕布も搔きむしつて、仕舞ふので、手の附け樣がなかつた。其胸のあたりは肋骨の一つ々々が蛇の腹の樣にうねつた。暫らくして苦悶の聲が絕えると體はダラリとなつて大きくたくましい手足は床に引ついた樣に身動きもしなかつた。愼二は彼れを寐臺に運だ。そつと手をやるたふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くれた胸の奥からズー々々と磨り合す樣な響きを感じた。顏の筋肉は痙攣して油汗はじつとりと額えに滲んで其凄まじい形相は死の苦しみを表示してゐた。其夜明頃彼は吐血した。小かな泡を含んだ氣味惡い眞赤な、血が醫師の膿盤に取られた。それを見た松下は何とも感じないらしかつた。そして落ちた目を閉じて、スャ々々と苦痛もない人の樣に幾時間も寐た然し安らかな容體は長くは續かなかつた。時々ねむりから醒めては悶えた。其翌日の夕烈しい苦悶の上句彼れは再吐血した。多量の吐血に胸が空になりはせぬかと怪やしんだ。醫師は幾度となく注射した、もう効果もなかつた。藥は空しく醫師の手元を流れた。松下には意識もなかつた。愼二は試に彼れの手を握つて名を呼んだ。其顏には何の表情も表はれなかつた。松下は死んだのであつた。誰れの顏も見ず誰れの聲も聞かず。淋しい船の一室で血に汚れた、枕に顏をうづめて死んだ。それから間もなく、脚氣で病み付いた伴田が其後を追ふ樣にして死んだ。死人があると船の內は寂靜として、客の外食事をするものもなく。そして、寄るとさわると暗い顏を突き合せて死んだ者の噂をする、荷物を調べてやる者もある、遠い本土に居る親や兄弟に手紙を書いて送る者もある。無言の中に運ばるゝ凡ての動作が殘つた者の心を痛め、遣る瀨ない淚を誘ふのであつた。船に住む者の慘めさは其死際ばかりではなかつた。死體は恐ろしい水葬で始末される。其僅かに黑い髮と短かい爪と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が紀念として切り取られ遠く古る里へ送り返されるのである。愼二が五年間の海上生活にこんな事は幾度となく繰り返された。松下も伴田もやはり海の底深く沈められて仕舞つた、彼れは日常松下と親しいので例の髮を剪んでやる事になつた。死後の强直は一倍と人の無氣味さを增した、愼二は髮を剪んだり固く握た指を解いて、爪を切てやつたりした。彼が最後の夕はいとも靜かであつた。灰色に遠く水平線の邊から、暮色が迫て來て、海の面は一樣に靑褪めた、底から吐息の如く重苦しい潮鳴りが聞えて來る。大きな翼を持た海鳥がバサ々々と異樣な羽音を立てて暗を走り行くのも淋しかつた。六時を合圖に、彼れの死體は、デッキに運ばれた。見送る人の顏には暗い悲みの影が刻み着けられて物云ふ人もない名稱しがたい蔭慘な氣が冷たく流れた。船體は靜かにゆれゆれて、懷かしい日本の方に向けられた。形ばかりの式が終ると、黑い鐵板に結びつけられた死體はやがて長い鎖によつて海底深く沈められた。そして船は再び何事もなかつたもの丶樣に航路を進めるのであつた。愼二が恨めしい目を海面に落した時黑い浪のどよめきの間を、物凄い渦卷の一つが細く深くうがたれて行くのを見た。愼二は其夜終夜失神した樣にデッキの上に立ちつくした。

それから、メキシコへ着陸してから、一事件が出來した。それは船員の逃亡であつた。脫船する者は時々ある。それには船の方でも充分に警戒を加へて居た。然しアメリカを除く外

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は悉く上陸を許された居た。然し彼等の間には自由な、行動は許されてなかつた。彼等の監視人は常に短銃を携へて居つた。處がメキシコへ着いた夜、一人のボーイが巧みに脱船した。彼は大膽に其目的は果し得た然し土地不案の爲め數日の後捕へられた。「所もあろうにメキシコで逃るなんて馬鹿な奴」だと同船の者は彼れの其思慮を笑ふた。其後ボーイは手錠をかけられたまゝ暗い一室に閉じられて居た。

*　*　*　*　*　*　*　*　*

半年に一度は必ず船が日本に歸た、然しなぜか、よろこんで家を尋ねる氣にはならなかつた。そしてつまらなく船に泊てる間中、毎日港町を彷徨いて、下らなく金を使つた。遊び倦ぎると船に歸てゴロ々々して居た。愼二は他の兄弟の樣に幼ない折から親の膝元を戀しがらなかつた。三才位から母や祖母の手を離れて、温なしく一人遊びをしたものだつた。兄の良助がひ弱な上に我まゝな氣六ケしい性だつたので、家の者も自然と、其方にばかり掛り切る樣になつた。祖母や母は何時の間にか愼二の者ではなくなつた。子供の中で、すぐ々々と容易に生ひ立つた者より手をかけて大きくした子供が可愛いのは人情で、彼れの兩親は愼二を疎んじて行く樣になつた。皮膚の切れる寒い冬の日などはほゝづきの樣に紅く頬を脹らして、冷え切つた、緣先に遊んでるのを見ても、「彼の子は丈夫だから」とかまひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つけてはくれなかつた。それに五つも年上の兄は我儘一杯に振る舞つてそれでもめつたに、機嫌のいゝ顔は見せなかつた。成長するにつれて、愼二もそれではなか〳〵承知が出來なかつた。一體に情が強くて意志の確りした性だけにこんな事を見る事が不愉快に思ふ樣になつた。與へられる玩具や着る物まで此調子であつた。彼は子供心にそれを情なく思つた、それでも兄とは、言ひ合ふ樣な事はしなかつた。然し或一つの事件だけは、何故か今でもはつきり覺えて居た。彼はそれを時々思ひ出してはひとり笑ひする事があつた。それは家が田舍に在た時分で、七つの秋であつた。其日は土地の祭日で町の若い男女は勿論近在の人達が繰り込んで來るのが例であつた。其日の出し物は町の金滿家が千金を投じて作らしたと云ふ、西京作りの、目を醒むる樣な金銀の屋臺であつた。町の人達は片附けた店に赤い、毛布を敷いて金屏風を立て廻らしたりした、其間を若い人達は、花笠を被て、太い五色の手綱で重々して屋臺を引き廻すのであつた。其日は、町の商人は勿論務め人や先生の家でも、子供丈はどうしても仲間入りさせねばすまなかつた。其頃はもう、愼二の下が二人も生れて居たが、幼なくて祭日に出られなかつた。母は良助と愼二に丈けは仲間入さしてやると云つた。何日も前から二人は樂しんだ。隣家の三重ちやんの阿母さんは、坊が祭の着物だと云つて、字形を染めた四つ身の小さな裥を縫つて居た。愼二はそれを見て、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三重ちやんを羨やんだ。彼は毎日遊びから歸ては母の居間をのぞきに行つた。然し、何時になつても、母は縫つてくれなかつた。愼二は一人で焦々した。けれども着物の事など、男が尋ねては笑はれると思つたので其まゝ默つて居た。祭日の三日前祖母が二つの花笠と例の揃ひの着物とを買つて來てくれた。兄弟は室中駈け廻てよろこんだ。愼二は翌日から、安心して遊ぶ事が出來た。最母の室をのぞく事はしなかつた。愈々祭日の朝が來た、お宮の森からドン／＼陽氣な太皷の音が聞えた。近所の子供等は、着物を替へて表で遊んだ。二階の屋根から見ると町は人で雜踏して、ケバ／＼しい、花笠が、其間を縫ふのが見えた。轉げる樣にして下へ降りて行くと祖母と母は兄の仕度に掛つて居た。青い細顏の兄は、斯那時でもおつとりと、すまし込んで居た。衣裝は白の眞岡地に藍で、本町と云ふ字を染め拔いた如何にも田舍の祭にふさわしい物だつた。母は兄にそれを着せて、水色縮緬の三尺を締めさした。祖母はうこんの紐の附いた花笠を取つて、兄の頭へのせてやつた。兄は「厭やだ」と云つて心持ち顏を赤らめた。兄の仕度を終へた祖母は愼二をかへり見て「今度はお前だ早く着物を拔いで」と云つた。彼は側に同じ衣裝のないのを、不思議に思ひ乍ら、裸になつた。母は次の室から着物を持つて來た。然しそれは今まで着度いと願つた祭の衣裝ではなかつた。愼二の胸は詰つた。涙が熱く目に滲むのを感じ乍ら母のする儘になつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母は同じく彼の頭に花笠を置いた。彼が不興氣に默つてるのを見て何か云ひ々々前に廻つて、笠の紐を結んだ。愼二の頭は子供らしい、不滿と憤怒とに火の樣に燃えて體中の筋肉が口惜しさに、ワナ／＼と顫えた。花笠のよく似合ふ兄は此有樣を見て居た。愼二は其時こらへ／＼て居た、胸が一時に破烈したかの樣にあられの樣な涙を流して呻き出した。そしていきなり兄の花笠目掛けて打ち掛た祖母と兄は止めたが、其時もう愼二は、兄の頰をピッシャリと打つて、笠をうばひ取た。櫻や牡丹で美くしく飾つた祭の笠は、愼二の手にむしり取られて、萠黄色のおこまがせが情なく散つた。

* * * * * * * *

こんな事があつてから、愼二はすつかり祖母や母の機嫌を損ねて仕舞た。然し母だけは、そんな事に頓着なく、彼等二人に同じ樣に對して居た。それからと云ふものは常に我儘な兄に蹴落されて、長い間彼れの心は、周圍から閉されてしまつた。彼が小學校を出たのは、十五の春だつた。當時兄は縣立の中學を出て、或官立學校の入學試驗の準備中であつた。愼二を中學に入れる事に就ては大分評議が六ケ敷くなつた。彼れの家は別に大した財産とてなかつた。が、二人の子を敎育するに事缺きはせなかつた。第一父が子供の敎育には一向無頓着であつたし、それに例の祖母や母が無情に不贊成を唱へたので、失望に終た。此

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

時落膽し切た彼は、之を機會に東京行を企てた。今迄彼は母や祖母が自分に對する仕打ちに、不滿と反感とを抱いて居た。が、其裏には家の者の愛を失ふまい、どうかして自分に取り返し度い、と云ふ優しい希望も動いて居た。然し、周圍の人等の愛が一日々々と彼を離れて行くのを思つた時彼はもう諦らめるより外仕方がないと思つた。愼二は家の者から憎まれ乍らも、皆の喜びそうな事を、好んでしたものだつた。それも馬鹿らしいと思つた。母や祖母の機嫌を取つて、高價な愛を取り入れ樣とする事はすつかり止めた。そして愼二は東京へ出る事ばかり考へた。彼れは或時其旨を父に打ち開けた。意外にも父は容易く許して呉れた。愼二が上京したのはそれから間もない事であつた。上京はして見たが、其處此處と仕事の口など探し歩く間に父からもらつた、金は使ひ果して仕舞つた。宿に居れば、費る丈の金は出さねばならぬので、ます／＼苦しくなる、不安と心細さに途方に暮れた。其時同じ宿に[illegible]島の人だと云ふ、穩やかな、廿四五の青年が居た。年の行かぬ愼二を氣の毒がつて、色々世話して呉れた。青年は元船乘りをしてたと云ふて、暇な時等は變た船の生活や珍らしい海の話しなどをして呉れた。彼はだん／＼それに、興味を以て聞いた。男もそうなると同じ樣な話をくり返しくり返して彼を慰めた。長い間暗闇に閉ざゝれて居た、彼の幼ない生命は、やうやく新らしい、光を見出して、芽生への樣に靜かに頭を上げだし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。愼二は初めて自分の行く可き世界が目前に開かれてるのに氣が附いた。彼の心にひそんでた、其熾烈な自由性と自然に對する愛仰の念とが、不知不識の間に覊絆なき、海の生活に求めつゝあつたのであつた。愼二はどうしても船乘りになると決心した。靑年は「家さへ承知なら」と話した父は不服を云つて寄こしたが愼二は其人の世話で、其年の六月上海航路の船に乘り込んだ。初めは見習でボーイの下使をさせられた。勿論每日與へられる、仕ーイの方に廻された。一ヶ月の間は烈しい船暈の爲め半病人の狀態であつた。彼はボ事は隨分氣骨の折れるものばかりだつた。それにボーイには勞働時間の制限がない、客の都合で夜中でも呼び出されるので、靴を付けたまゝ寒い寐床に入る事も珍らしくなかつた。一等ボーイに二等ボーイと云ふて、數個の客室を持つて居るそんな人は、モールのついた、服を付けて居た。何度目かの航海に愼二も一等ボーイとして其の美くしい服を渡された。月々與へられる金は僅かなものだつた、が客のもらひが多いので一航海の後には五六十圓になつた。然し其金は次の航海を待つ間に、使ひ果した。航海を重ねるにつれて彼の生活は次第に荒んで來た。海でも人でも呑んでかゝると云ふ所謂船乘り性情に慣れて來た。其此では、何年か逢はぬ親や兄弟の事も彼の心からだん〳〵忘れられて行つた。船に乘つてから、四年目、今から丁度半年前に愼二は火夫に廻た。多少激勞ではあつたが、時間もあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

り、勤め一つでゞ取り立てゝもらへるので、彼も何時迄ボーイでもあるまいと、眞面目に考へた。機關長にも火夫上りの人は珍らしくなかつた。彼は仕事の合間を見て、投げやりにしてあつた、本を取り出して、勉強し始めた。船員の一人が彼に、英語を敎へて呉れたので、彼はよろこんだ、愼二の頭は今勉強と云ふ新事實に集注され、そして、試驗の準備も出來様と云ふ、時彼は倒れて仕舞たのだつた。今、愼二にはたゞ家に歸ると云ふ念の外何もなかつた。希望は消え失せて、目的や計畫は打ち壞されて仕舞た。殘されたものは長い間の勞苦に磨りへらされた、病弱な、肉體ばかりだつた。愼二はこうしてる間も絶えず家の事が思はれた『明日家へ歸るのだ』と晴れやかにほゝ笑む、其心の裏からムラムラ、と頭をもたげ出すのは、兩親殊に母に對する疑惑の念であつた。「自分がこうした敗殘の姿で歸るのを母はよろこんで呉れるかしら」かうした心持が絶えず彼の頭を刺した。愼二は母に對して親しみを感ずる事が出來なかつた。彼は不合理な不公平な母親の許で虐げられて居た。かれは子供の折何度か暗い土藏の中へ押し込められた。日の光も見えぬ藏の中に半日も踞つて居らなければならなかつた。鼬が出ると云つて下男の外は誰も入るものもなかつた、それだのに愼二は決して聲を立てる様な事はなかつた。「張り合がない」と云て母も遂に笑ふのであつた。彼は恐ろしくない事はなかつた、たゞ泣くのは恥かしく口惜しいと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のみ思た。小さな身體に力を込めて、泣くまいと努めた。彼はそんな時、暗い隅の方に小さくつしやがむのであつた。そして身體の戰慄がとまると、今度はじつとしてる事が出來ず、手探りに棒切れを探し當て、其處ら中ほじり廻した。其先が壁に當るとポク〳〵と音がして、暗闇の中で壁が散た。それにも疲れると悲しくなつてしく〳〵泣く事もあつた。そんな事が重なる中に彼は自分を物語りの人物にあてはめて、考へる樣になつた。「私の阿母さんはほんとの母じやない」と信ずる樣になつた。愼二は或時其友達に「家の阿母さんはまゝ母だよ」とひそかに洩した事もあつた。斯うした母の仕打ちが愼二の胸に或る反逆に似た、暗いわだかまりとなつて、殘つて居た。生の母親に對して、こんな反感を持たねばならぬ彼は堪え難く苦しかつた。どうかして此苦しみから逃れ度い、母の胸にひつたり顏をおし當てゝ、乳房を探す樣な、純な幼な子の心で接し度い、と眞實から願ふのであつた。が、ともすると此不純な心持が解けて、限りなく肉親が戀しくなる事もあつた。愼二は二年前、難船に遇て熱帶國の或未開の一孤島に漂着した時を思ひ出した。其時程家に對して止み離い懷かしみを感じた事はなかつた。月の赤い夜であつた。彼は椰子の茂む海岸に走り寄りて、青退めた浪の音を開きながら、底深く熱い砂濱に額を埋めて、狂人の樣に兩親の名を呼んで泣いた。其時の心持ち其時の心持ちになれと彼は自分の心をゆすぶる樣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に唸いた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

しーんと靜まり返た夜の靜寂を破て碇泊の船から淋しい鐘の音がきこえて來た。「明日は皆に逢ふのだ」と下女の敷いてくれた、布團にもぐり込んだ。寢やうと努めても寢着かれなかつた。胸の内がオロ／＼と戰慄いて、よろこびの込み上げる苦しさを感じた。瞬目がしつきりもなく續いた。氣が附くと枕が涙にジク／＼と濡れて居た。愼二はいつか兩親を懷しむ切な涙に浸つて居た。「歸れかへれ、一刻も早く兩親の懷にかへれ、お前は何と云ふ不孝者だらう、始終家を呪ひ、親を憎んでたではないか、そして其醜態は身動きも出來ぬ其身體は皆なお前が作た罪の報だ、早く歸て生みの親の懷に抱かれて死ね。」或黑い影が彼の耳元近く來てさゝやいた。愼二は熱ぽつたい身體を抱きしめて、靜かに目を閉じた。薄青く光る海が彼の前にひらけた。色あせた、浪は底く高く次第々々に彼の方へ押し寄せて來た。海は急に暗くなつて、底冷えのする風がヒヤ／＼と海面を渡た。今度は、潮鳴りが物凄く、聞え出した。暫時すると其處ら中眞晝の樣に明るくなつた。波は一層高鳴て、しぶきは波の足元まで迫た。彼はじつと波の動きを見た。浪がしらの一つがキラキラと眩ぶしい程光た。するとそれが急に、青褪めた母の顏に變つた。母は靜かに手を上けて、彼れを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

招いた。彼れは浪の間へ懸命に飛び込んだ。母は彼を見て笑つた。そしてクルリと後向きになつて、高い浪を一つ々々雑作もなく飛び越えて次第々々に彼れから離れて行つた。あたりは再び暗くなつた。（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社詠草

母のなげき

畔蒜琴子

すこやかに冬あたたかう吾子を抱き眠らまほしや生命やすらに
乳いたくひゞき來るとき、いづくとも子の泣き聲のきこえ來る夕
よゝと泣き吾れと驚く冬の夜のゆめの悲しさあまりに悲し
めづらかに高澄む空の白き陽を仰ぎて涙おごそかにたる
黒髪のよごれも悲し、幾日わがそゝくさとたゞ働きにけむ
とん〳〵と肉をたゝけば背中なる吾子も笑むなり冬の晝ごろ
我が飽食みなこと〴〵く乳となる兒はすこやかにそだち行くかも
水仙花あまりに白く匂ふゆふべそゝくさと庭の土ふみにけり
しんみりと物思ふまもあらずして、子のためにするせはしき生活
すこやかにゐまさむ母をほぎまつる消息を書く初冬の夜半
はる〴〵とおもひのたけをつげてまし離れてあればいとしおん母
子を背にしからだゆすりてごし〳〵と米をとぐとき冬陽冷たし
面顰め泣きやまぬ子の强情をすかしあぐみて寢られぬ冬の夜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こゝろ少しなごみ來るとき霜の庭見居つつ針をはこぶなりけり
にぶき光り庭に流るゝ夕ぐれよ我れといのちの狂ほしいかな
かなしげの眼付して乳を欲しがれる吾子を側にし胸たへられず
心よりなじみがたなき淋しさが我れと仄かに子の上にまよふ
くちづけをげにも久しく忘れたり子のためにわれらひた衰へにける
世にはまこと子のため若き母親はその青春を打碎くらむ
冷たくも火なき室に泣きやまぬ子をしみじみと抱きなやめる
しづやかに氷雨の音に耳すまし氣まぐれにつとかはすくちづけ

束の間のよろこび

三浦無司子

つかの間のよろこびを追ひつかのまのなげきを瞶めすごしぬるかな
恨む事漸くまれにわがたまを呪ふことのみ多くなり行く
くやしさに心も肉も八つ裂きて背きし人に投げばやと思ふ
呪ひなば恨みの消ゆる物ならば命にかけて咀はましを
つかの間のよろこびを追ひはかなくも其日其日を消して行くかな

赤胡椒

山の井みね子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

赤胡椒風吹きしかばそよろりと重たくゆれて又光るなり

赤胡椒まつかに熟れてそのそばの小石にとんぼひそまりてゐる

葉のかげに胡椒つらなりひそまれりいつの間にやらまつかに熟れて

日だまりにまつかな胡椒ひかれるを耐へかねつゝ握りつぶすも

てら〳〵と胡椒まつかに反射していくつも並び動かざるかも

さつきから胡椒畑にうづくまりいくつも胡椒つかみやりける

赤胡椒ぢつと見つめて疲れたり赤き胡椒は見れどあかぬかも

晝さがり朝顔の花の赤き花二つ小さく咲き並びゐる

朝顔のその白き花も大根の葉にまつはりていぢらしきかな

ふと見てし大根の朝顔畑の朝顔は小さけれども七つも八つも

大根の葉にまつはれる朝顔がしぼみもやらず日は暮れにけり

犬蓼の花がまつかに咲き並びこゝの畑は草ばかりなり

雨しとゞ降りつゝくればべつとりと鶏頭の花は地に倒れたり

幾枝も押し重りて鶏頭が頭重げに地につかんとす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最初の家

五明倭文子

三

その日は母の命日であつた。平常より早く起き出た美穗子は先づ二階の掃除を澄ましてから、母親の寫眞と小さな位牌とを中床の上に飾つた。横には形見に遺つた色紙や短冊、自分に宛てた手紙のようなものまで並べて、露のしたゝる切花や、ゆふべ淳と買つて來た甘そうな秋の木の實や、奇麗な打物の干菓子などを其前に供へたりした。

美穗子は母親が亡くなつて其一週忌の間、故郷にあつては雨の朝も風の夕も一日とて缺かしたことなく、町に離れた城山の麓にある菩提處まで墓詣りに行つた。其處は大きな山門の、正面に鐘樓があつて其傍には枝垂櫻がすれ〴〵に咲いてゐた。鼠色の法衣を着けた十二三の可愛らしいお小僧が樓に昇つて、小さな身體に力を罩めて入り合ひの鐘をつき出すと、底冷えのする生温かい春の風に櫻はホロ〳〵散つて落ちた。

美穗子はその嫋々として四邊の山や森に響き渡る幽妙森嚴な餘韻をきゝ乍ら、露に濕つた山の草の根を踏みしめて、靜かに母親の墓場の方へ昇つて行つた。そして靑い枝を垂れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た柳の蔭の新らしい墓標の前にうづくまつて、いつまでも合掌してゐるのであつた。折には不圖、堪えかねたとのように起つて、その冷たい卒塔婆にわなゝく手でしかと、つかまつて、

「母さん、母さん、あゝなぜ死んでお終ひなすつたの！」

偲ふ云つてさめ〴〵と泣いたりした。昔はそこでよく人が首を縊つて死んだと云ひ傳へる、古い大きな松の枝が横ざまに今にも落ちかゝりそうに出てゐて、それにざわ〳〵ともの淋しく黄昏の風が鳴りさわぎ、墓場の下ではあわれに蚯蚓のなく聲など殊に耳につく時分は、全く暮れ果てゝ空は次第〳〵に美しい瑠璃色に變じて、彼方の森の上には細い片われ月が春の宵を照す時など、美穗子は身も心もずた〴〵に切れて碎けて粉になるまで、その名狀しがたい自然の凄慘な氣分を味ふとしてゐたりした。

母親が亡くなつて半年程經つか經たぬに今の繼母が家に這入つた。それからは隨分辛い思ひもした、人が知らない苦勞もした。憂苦と悲哀に鎖された胸を抱いて又も半年余りを過ごした、此三月の初旬、「起てそして歩めよ！」との胸奥の叫びに喚び覺まされた彼女は、轉然として夢から返つた人のように燃ゆる希望を抑えて、再び都を志したのであつたが、ゆくりなくも其上京が淳との偲ふした深い緣を結ぶようになつて了つたのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此時やう〳〵床を離れた淳は寢卷の褞袍のまゝ二階へ昇つて來た。
「今日は母さんの命日だね、そうだ何か御馳走しておくれ」
「あらまた御馳走が始じまつたわ一」
と美穗子は一寸振り返りざま、ニッコリ微笑んだが又丁寧に細長い線香を香爐にたてゝ白い掌を合せて懇に口の中で唱名した。淳はそこの床柱に懷手のまゝ倚りかゝつて、其可憐しい姿を眺めやつてゐた。
秋晴れの快い朝の陽は朱い柿の葉を通して南の玻璃窓から部屋に流れた。
それから小一時間も經つて美穗子は可なり大きな風呂敷包を抱えて、元氣よく玄關の格子戶を啓けた。
「只今、隨分おそくなつたでせう」
恁ふ云つて、も一つ上り框の障子を啓けて一足踏み入れた時、「あゝ」と小さく叫んで其敷居の上に突立つた。中には思ひがけなくも淳の兄が正面向きに、柔和な笑顏を見せてゐたからである。兄は透さず、
「さアお這入り、ではないお歸りでしたね」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云つて笑つた。淳も美穂子も此場合苦笑せずには居られなかつた。

「何もやかましいことはありません、さア此方へ被入い」

兄は復た云つた。美穂子は一旦勝手へ行つてから、熱い茶と菓子とを持つて其方に來た。そして默つてつゝましやかに淳の横に座つてゐた。兄は細面の切れの長い眼を向けて、弟と其女とを視た。暫らくは各自に妙な沈默が守られたが、突然兄は訊いた。

「お國はいけませんか」

美穂子はさびしく微笑んだのみで直ぐ復た俯向いて、よく女がするように左の薬指の大きなダイヤを弄ぐつてゐる許りであつた。

何時もその美しさを失はない、人の心を騒がせるような不思議な魅力を有つてゐる美穂子の、只羞恥に身を責めて居るらしい樣子が先づ其優しい兄の深い同情の念を惹いたのであつた。生れた家、親、許婚の男、總べてを振り捨てゝ其一生を弟との愛に捧げようと、決心してゐる美穂子の、やがて二人の上にも纒りつく實社會の苦しい生活の壓迫を、どう切り拔いて行かれようか、そうしたことまで兄には打ち案じられるのであつた。

「私は貴方がたのしたことに就いて今更何も兎や角云ひはしません、たゞ此後のことをよく考へて、餘り人の眼にたゝないように愼重な質實な態度をとる樣にしてゐて下さい、二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人のことは私も能ふ限り盡してみるつもりですから！」

兄は恁ふも云つた。そして午砲がなると直ぐに歸つて行つた。

後で淳は兄から聞いた色々な話をした。美穗子はそれ等の話を一々小さな胸を痛め乍ら訊いて居た。

「それから大家の細君が他所へ行つて僕等が月々七八十圓の生活をしてゐるつて、話したつてさ」

「ヘエ、よくそんな他人の家の經濟がわかるものね」

「それアわかるだらうさ、あゝして始終人の出入を注意してゐるのだもの、併し實際そんなに遣つてゐるのかしら……」

淳は今更のように世帶を持つた時からの家計簿を展げて見た。色々な世帶道具、それから淳が長く滯らして置いた醫者への勘定、また冬着を出すために質屋へ持つて行つた金、そう云ふものを加へると、今迄に費消した金は二人の現在の身に取つては莫大な高であつた。

「仲々費つてるんだね」

「だつて詮樣がないわ、世帶道具から醫者の禮まで出したんですもの……」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

殘りの金も早や僅かになつた。唯恁樣なことをして居て此先どうしてやつて行かれようか。二人は默つて暫らく互に顏を見合せてゐた。

「それにしても郷里の方から何とも云つて來ないのはどう云ふ譯だらう」

淳は其處に家計簿を投り出して、輕い溜息と共に足を長く前に延ばした。

此頃から淳の方の學資も途絶えてゐた。度々、彼は催促の手紙や葉書を送つたが、暗に礫と何の返事さえなかつた。

四

二人はだん〳〵に心細い、そしてお互に相脊向いて何か考へて居るような日を送ることが多かつた。

或日、美穗子へ宛てゝ大きな荷物が運送された。それは松井からで、可なり大きな箱を蓆で包み荒繩で結はえてあつた。

「素敵に嚴重なんだね」

淳は蓆を除けてまだ其下に結付けてあつた麻繩を解き乍ら云つた。中には兼ねて松井に預けて置いた大事な美穗子の品物など、一緒に、彼女の好きな郷里の名物の罐詰や白玉飴なども入れてあつた。それに從姉からの厚い手紙も添えてあつた。美穗子は直ぐにそれを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

展いて見た。けれどもそれは彼女の期待を全く裏切つたこと許りであつた。

「何だつて云つて來たの?」

二つのサックから女持ちの金時計を出し乍ら淳が訊いた。

「私が惡いのですもの、仕方がないわ」

美穂子は抛げるように云つて、小さい方の時計を取り上げた。細い鎖は軟かい音をたてて疊を滑り、彼女の白い指の間からダラリと垂れた。

「ぢや美さんは何だね、僕等は惡いことをして居るんだと思つてるのかえ?」

淳はいつもにないむつとしたような顔をして云つた。

「そうぢやないのですけれども……」

「だつて今そう云つたぢやないか」

「自分は惡いと思はなくても人がそう取るのですもの――」

「他人(ひと)なんぞ何んと取らふが可いではないか、僕等は僕等で進むべき道を進むのさ」

「でもこれではこれから先き困りますわ」

美穂子は今の手紙を淳の前へ出した。彼はそれを默讀したが、わざとらしい程冷やかな色を眉の間へ浮べて

「美さんのファザーも隨分イゴイスチクの仁だね」

獨言のように云つてそれを封筒へ仕舞つた。

「ね、どうしませう？」

美穗子は暗い面を上げて深い溜息を洩らした。此度上京する時は例令どんな苦しみに逢ふとても、郷里へは決して歸るまいと、堅く誓つて來たのではあつたけれども、父親の怒りの殊の外烈しくて、何を云つても取り合はないとの松井の手紙に、彼女は今更のようにその冷酷な仕打ちを恨まずには居られなかつた。

「私はこれから家庭敎師でも何でもして、自分丈はやつてゆきますから、貴方も一生懸命に勉强して下さい、そして一日も早く立派になつて私の親にも感心させて下さいましね」

「それや大にするさ、だから其樣に心配せんでもいゝよ。どうせ僕等と年をとつた人とは思想が違ふんだから仕方がない」

淳は呑氣らしく云つて荷物の箱から種々の品を取り出しては其處に並べた。其中には松井から特に淳への贈りものとして、高價な硯箱や卷煙草入のような品もあつた。四疊半の部屋は所狹いまでに油紙や新聞紙などが散らばつたが、美穗子は別に片つけようともせず、片手を內懷にして坐つたまゝ暮れてゆく秋の、淡い陽影を呆然と眺めて居た。柹の落葉は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

枯れ凋んでカサ〳〵と吹く風に舞ひ上つたりした。隣邸の花畑に咲いた秋草は末枯れて市松の天井を帳つた下には黄や白や、赤茶などの大輪の菊が見事に咲き揃つて淋しい灰色の黄昏を彩つてゐた。

「私一層思ひ切つて家へ歸りませうかね？」

淳の學資を絶たれたのもそれは自分と同棲して居る爲めであると云ふことも、淳の兄の此頃の口振りで知ることが出來たのを思ひ出した。

「私のために貴方に色々御心配をかけたり、御苦勞をさせたりしてはすまないのですから……」

今更家へ歸ると云ふことは如何にも女々しい、人も嘲笑ふかは知れぬ、けれ共それが淳の爲めであるならば、どのような決心も飜さなくてはならぬ、どのような苦痛も忍ばねばならぬと、美穗子は考へもしたのである。

誰一人同情する者とてもない彼女の家郷（うち）の樣子を知つて居る淳は、その健氣な心根を仇には聞く事が可能なかつた。その眞實に對しても自分は、恁うして一日も無爲に暮すことは出來ぬ。淳はいよ〳〵自身にかゝる責任の重さを感じて、寸時もヂットしては居られないような氣がするのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「今更家郷へ歸つたつて仕様がない、それよりもこれから二人で可能るかぎり奮鬪してみようぢやないか。」

「それは私も望むところですけれども、お金だつて……此まゝでもうどうすることも出來ないぢやありませんか」

二人の今迄の生活は、美穂子の貯金で持續されたのであつたが、それも早や僅かになつて、其月の諸拂ひがよう〳〵位であつた。

「そこが奮鬪なんだ。」

「理窟はそうでも實際が許さなくては仕方がないわ。」

美穂子は可傷ましい眼を上げて淳を視た。

晩秋の陽はとく暮れて內も外も薄暗の、冷たい風が身にしみて男の蒼白い顏が丸く柔かく漂ふて見えた。

「父さんは妾を可愛くないのでせうか」

迫る胸から洩れ出るように恁う云つて、彼女は男の胸に縋つた。(未完)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

断章

吉屋信子

I

つきはのぼつた
よるのかぜがふく

愛のくるまのわだちははまつた
いざなひのぞろに

いとしい靈の子馬のひづめはきづつく
つみのこひしに

かなしみよ
おほらかにひとみをみはれ

わたしはいまないてゐる

のぼらねばならぬ、
生の塔は杳に

いまだ
すくはぬ
愛の果を
いづみのそこに
もとめんと

わたしはきものをぬいだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はだか
いたましくはづかしい
きものをはげば
まづしいよごれたわたしのからだだつたもの。

III

赤ん坊
おまへの神様を
ほかにもとめるなよ
それはお母さま

私は人をむやみにほめる人も、又人をやたらにけなすことを仕事にしてゐる人も同じやうにきらひである、又人はいつでも慰められなければならないものだと考へてゐる人も御免である。私は眼に一杯涙をためて、ひたすら眞理(まこと)を求める人のみを受け入れることが出來る。

（パスカル）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分と周圍

山田わか

風邪氣で二三日ぐづ〳〵して居た。丁度明朝は日曜ではあるし、ゆつくり寢てなほして仕舞うと思つた。で、床に入る前にあつい密柑湯をすゝりながら、明朝、朝寢をする口實をつくつて居た。「今朝私頭が重いからあなた先き起きて頂戴」なぞと

處が私のこの計畫はすつかり毀されてしまつた。それは午前三時頃であつた。「あー寒い」と云ふ夫の聲に氣が付いて見ると夫は全身をわな〳〵と震はして「寒い〳〵」と云ひ續けて居る。私は戸棚にありたけの蒲團を夫の上にかけて押へつけて居た。それから其の震へが納まるとドーッと熱が出て來た。四十度の熱である。私は着物をすつかり着てしまつて、うちのものを起し、醫者を呼びにやるやら、とにかく私は看護に寢食を忘れた。幸ひ、夫の熱は一日ですつかりとれて後は落付いてしまつたが、落付いてから「あら私が病人になるつもりだつたのに」と思つて可笑しくなつた。

それから私はこの自分を忘れると云ふ事に付いて考へて見た。それに付ての過去の經驗を思ひ出した。私が未だ幼少の頃、私の兄は傾きかけた舊い大きな家を背負ふて

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しきりに、あくせく心配して居た。私の兄に對する同情は私の心の奥に深く食い入つた。どうか兄を樂にしてやりたい、兄を手傳ひたいと云ふ心が殆んど私の半生を支配して居た。

不幸にして、其の動機は正當なものであつたにも拘らず、無智のために種々誤まつた方向に行つてしまつたのであつたが、兎に角其の頃の私自身は兄のものだか自分のものだかわけが分らない。

今、子供が病氣になつたとする。自分の心も體も殆んど子供のものになつてしまう。夜も更けて世間がしづまりかへつた時、廣い世界に自分と病兒と唯二人が目さめて居るやうに感じる時、自分は病兒によりそうて、晝の間、何にかと病兒以外の事に心をくばつて居た事を病兒に詫び、そして自分の肉をさいても病兒を本復させる事を心に盟ふ。何を見、何を聞き、何に接してもこの時程心がひきしまり純粹になる事はない。他人との、日々の交渉に付ても、自分はこうしやうと思つても、もし其れが夫に不愉快を感じさせるであらうと思ふた時は、先づ夫の感情を害すよりは他人さまには少々は不義理になつてもと云ふやうな事を考へる。本當に自分は夫や子供のものだか自分のものだかわからない。

私が暗黑界をぬけ出た當時、私はその世界の人間(それは事に男性)が憎くて〳〵私の心身はその憎しみの焔で燃へて居た。「己

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れどうして呉れやう。人の弱身をつけこんで思ふ存分人の生血を吸ふとする惡魔、頭から石油をぶつかけて裾から火をつけて燒いてやるから見て居れ。」こんな風に男性を瞰んで居た。そして可笑しい事には自分が男性征伐の旗を掲げてまつさきに立つと、男に苦しめられたありとあらゆる女が、開闢以來のやはり男に苦しめられた女の亡者迄もが、皆墓の下から白い經帷子のまゝで出て來て私のうしろに立つ。と、こんな幻を見て私は一人で勇んで居た。」だから一寸でも自分に接近する機會のあつた婦人が男に虐待されたの、利用されたのと云ふと私はすぐ自分の命を投げ出して所謂その惡魔征伐にとりかゝるのであつた。私の其の生活は三年計り續いたが、まア今から考へると丁度小さなドン・キホテのやうなものであつた。

其時分である。私は今の夫に出逢つた。其時私の目に映つた夫は私がそれ迄に見たあらゆる男性とは全で別な人間であつた。

私はそう云ふ人間がこの地上に一人でもあつた事に奇異の目を見はつた。彼は直きに熱狂する私を靜かにさとして云ふた。あなたの熱情を決して惡いとは云はないが、その熱情だけではあなたの望む結果は得られはしない。あなたは其の熱情を効果あるやうに用ゆるために機械をおつくりなさい。則ち智識をあつめなさい。しばらく、其の熱情を押へて學問なさい。と、それか

ら彼は目に殆んど一丁字なき私を捕へて既でに十有餘年の間を一日の如く私を敎へて來た。彼ば自分のつんで來た經驗自分の得た知識を全部私に注入しやうとして居る。處が家事に沒頭して自分の讀みかけた本のありかさへ分らなくなるやうな事がたまにはある。そうすると彼は目を三角にして臺所の隅から私を引きづり出す。こう云ふ風で今日の私は大部分彼の製造したものである。だから私は「私はあなたにつくられ、あなたにあやつられる人形だ」と云ふ。そうすると彼は「己れはお前に利用される器械だ」と云ふ。

私は自分と云ふものを考へて見て、其の自分と云ふものが何處にあるかに迷ふ。この世の中に生れ出て來た事が第一自分の意志ではなく、生れてから後も、周圍の狀態が自分と云ふものをつくり。そして其自分の行動の的となるものは常に他の人にある。

それで私はこう考へる。

人間の肉體こそ個々別々に現れて居るけれども其の實質に於ては相互ひが最も巧に最も細やかに織りこまれてあつてとうてい一人々々、はつきり離して見る事は出來ない。肉親を捨てゝ自已の欲する道に走ると云ふ事は、其の肉親よりも他のものに（それは戀人であるかもしれないし又全人類であるかもしれないが）比較的大きな自分があるからで絕對に自己のためと云ふ事はない。つまり自分と云ふ經（勿論この經だけ

では一ツのまとまつたものではない）にいろ／＼な緯が織り込まれて一個の人間が出來上る。この經に、ある時は配偶者と云ふ緯或る時は親の、兄弟の、子の、友人の、或ひは又全人類のと云ふやうに、其の緯が時により、こく、うすく、現れて經の色を變へる。であるから自分と云ふもの丶實質は其の時々に違つて居る。で、この緯の數が多ければ多い程、其の色がこければこい程自分と云ふ織物は立派で丈夫である。緯のあつまつて來る範圍が廣ければ廣い程自分と云ふ織物は大きいものである。

私の最大幸福は夫、子供、兄弟及び其の他自分に關係ある人達がみんな鎔け合つて一ツになつた時である。これに反して夫、子供、兄弟の間に調和がとれないで、ギチ／＼して居る時には私は苦しくて息がつまつてしまう。それは、夫のうちにある自分、兄のうちにある自分、子供のうちにある自分、其の常に一ツでありたい自分が引き裂かれる事になるからである。

緯の少ない細い人は淋しくて弱いに違ひない。その意味で常に緯の多い、ふとい、私は幸福な人間の一人である。

私はこの自分と云ふ經に婦人問題と云ふ緯を織りこまうとして居る。

永い間力を養成する機會をもたなかつた我々婦人はお互になるたけ多く接近し、なるたけ多く理解し合ひ、お互の心の糸をふとく丈夫にすると同時に、其の糸を織り合せて、しつかりした、美しい織物則ち團體をつくつて、婦人の歩む道の障碍物をとつて行かなければならない。何千年を經て出來上がつた因習の力を一人二人の細腕ではどうする事も出來はしない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

初戀のなりゆき

岡田八千代

九

次郎さんの手紙は「かつ子」と云ふ私の同級の人の署名で來たのでした。開けて見た私はそれが思ひがけぬ次郎さんからのだつたので、急に暗い處から明るい處へ出たやうな心持になりました。

けれども、それもほんの時の間の喜びに過ぎませんでした、手紙にはこんな事が書いてあつたのです。

歌子さん、君はきつと僕が君に默つて轉校してしまつたことを怒つて入らつしやるだらうと思つてをります、けれども、なぜ僕が君に默つて町へ來てしまつたかといふ事は、別に此手紙の中に入れといた手紙を見て下されば分ると思ひます、僕の父はその手紙が來た翌晩、僕を側へ呼んで、その手紙を讀んで呉れた後ちに僕にかう申しました。

「次郎、親の心と云ふものは、誰しも我が子の事ばかりを案じるものなのだ、己れも少しも變りは無い、お前は、この手紙を聞いて誰を怨む事も無い、お前は此處で斷然あの學校を下つて町の中學へ行きなさい、中學の校長には、己れがかね〴〵御前を預つて貰ひ度いと頼んでおいたのだから、何とか便宜を計つて呉れるだらう、然し、この事は決して歌子さんに云ふのでは無い、お前は今後ともに自分の意志が弱くなつた時には、此手紙を見て、しつかりと勉強して豪い者にならなくては不可ない。」

　僕は只默つて父の言葉を聞いてゐましたけれど、僕は中學へ行くのは好いとしても、君に別れるのがほんとに詰らないと思ひました。それに僕は君の御母さんから、こんな手紙を貰つた事が殘念なのです、それで僕はつい泣いてしまひました。けれ共僕は父の心に反きたくありませんから、決心して中學へ行く事にしました。そして今日まで我慢してゐましたけれど、僕はどうしても君に惡いやうで仕方がありませんから、この手紙を書きました。けれども君から返事を呉れては困ります、僕は君に僕の心さへ分れば好いのですから、きつと返事は呉れては困ります、それから、君も君の御母さんに厭な顏を見せては困ります、決して御母さんが惡いのではありませんからね。いくら離れてゐてもお互ひに信じてゐれば好いでせう、そして二人ともに勉強して誰に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もなんにも云はれない位豪い人になつてから、又友達になりませう、別の手紙は見たら焼いて下さい、さやうなら。

別に封じ込んであつた手紙は私の母から、次郎さんの御父うさんに宛てたものでした。『突然ながら一筆しめし上げまゐらせ候』といふやうな書き出しで始まつてゐて、近頃自分の處の娘とお宅の息子さんと大變に仲が好いので、大層評判だと云ふ事だが、お互ひに一人子の事であるから、子供だからと油斷してもし間違ひでもあつては取りかへしがつかぬから、以來は決して家の娘が行つても上げて呉れるな、その代りこちらでも御子息が入らしてもお交際はさせないからと云ふ意味の手前勝手な手紙なのです、

私はそれを見ると身體が冷たくなつてしまひました。

一旦明るい處へ出たやうな心持は、今までの暗さを一層目立たせるやうなものでした、私はその日も翌る日も、たゞ何事も手につかずうつそりと物を思ふ身になつてをりました。

喜んで好いのか悲しんで好いのか、當時の私にはちつともけぢめがつきかねました。忘れずに便りをして呉れた上、お互ひに信じてゐやうといふ言葉はどんなに私の心を引き立てるものか分りませんでしたが、お互ひに一人子の事ゆゑ間違ひでもあつてはと書いた母の手紙を思へば、いひしれぬ心惡さに胸はかき亂されずにはゐられませんでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しかも次郎さんから決して返事を呉れるなと云つて來た言葉に對して、押し通して手紙を出すほどの強い事も私には出來ませんでした。

胸にものゝ障へたやうな日を幾日か過したでせう、私はいよ〱無口な不愛想な娘になつてゆきました。從つて私と母との間はいとゞ冷たくなつて行くばかりでした。

「歌子は身體でも惡いのかい、毎日厭な顏をしてるぢやないか。」

と流石無頓着な母も、時には私の顏をぢつと見る事などもありましたが、私はそんな時にも直ちに母の側を離れて、例の人形の室へ這入つてしまひました。

「胃でも惡いのだらう、藥をやるからお呑み。」

と父も案じて、粉藥などを調合して呉れましたが、私は呑んだ振りをしてはみんな机の曳出しの奥へ入れて置くのでした。

そんな中にその年も暮れて、やがて私も女學校へ行かなければならぬやうになつた年の事でした。私達の級全體が町の中學校へ春期の運動會に招待される事になりました。

（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

星の空

加藤みどり

冷い風が黄ろつぽい光線を震はせて晴れた空を吹いて居た。秋の光を一杯に浴びた町の家々の甍の上を舞つて居る蜻蛉の呑氣相な有樣を仰いて文子は美しいやうな、懷しいやうな眸をやつた。限りない寂しい心から昔の幼い頃の秋の思ひ出が湧きのぼつて來る。此の頃文子の心は何に對しても現在をはなれた昔の事が偲ばれる。それは別にとりとめた形のある思ひ出ではない、只「感じ」のそれであつた。秋と云ふものを自分は幼い頃からどう暮して來たか。春夏秋冬、其の四季の中で今も尙ほ文子の心に深い印象を殘して居るのは秋であつた。山と野と川との自然の中に十九の年まで育まれて來た彼女は、「人」と云ふ考に對してよりも其の山里の自然に多くの思ひ出を持つて居た。

十歲の齡まで住むで居た文子の最初の家は背後に廣い林と南に廣い野とを控へて居た。裏の野菜畑の小道を一足通りぬけると直ぐ原にも林にも行く事が出來た。十月にはいると其の林の中には風が樹立を渡る音の間々にポト〳〵と云ふ栗の落ちる音がした。時雨が霞むだ西の高い山から野を越え山を越えて里まで降つて來る頃になると其の度毎に種々の茸

が其の林に生え出した。雨の間々を見ては文子は籠を腰につけて近所の友達と茸とりに出かけた。けれどいつも取つて來る茸はつまらないほんの食べられると云ふだけのもので、中には毒の茸なども混つて居た。兩方の袂には露に濡れた落栗が重さうにはいつて居た時もあつた。

山鳩や雉子などがよく林をあさり歩く子供達を驚かした。文子は朝から晩まで秋の林や野を歩き廻つてドン栗を拾つたり、赤い木の實をとつたり、種々の秋の花束を造へたりして餘念なく遊び暮した。家に歸つて來ると軒下の日當りの良い處へ筵を敷いて取つて來た草の實や木の實や、又は花などを土にさしたり、又苔などを何處からか集めて來てそれで小さい「自然」を造つて嬉しがつたりした。裏の池にはいつも木の管から淸水が流れ出て居て赤や青や黑やの大きな鯉が澄むだ秋の空の下で呑氣に游いで居た。箱池の中には鰻などが飼つてあつた。文子は一方松並木に三方野の赤い實などの見える小籔に圍はれた池の畔にイむで其の澄むだ水面に映る蜻蛉や秋の弱々しい胡蝶の影などを恍惚と凝視て居る事もあつた。背後の山からは小供の叫ぶ山彥や、小鳥の銳い啼聲なども聽こえて來た。

文子は昔と變らない此の秋の澄むだ空や黃ろい日の光を仰ぐと遠い〳〵昔の事が懷しく心に浮むで來る。浮世の苦しい中を二十年から暮して來た今の自分の傷ついた、傷々しい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心を思ふと、全く稚い頃の平和な幸福な日が不思議に思はれる。既う再びと昔に引き返す事が出來ない。何處まで行つても寂しい侘しい浮世なのだ。と思ふと堪らないほど悲しくなつて來る。

　文子は郊外の電車を降りて市内の電車の方へとかなり人通りの激しい通りを其麼事を考へて歩いた。秋の日影を正面から青ほい洋傘を透いて受けた彼女の顏は水のやうに澄むで見えて居た。人並より少し大きい眼は絶えず眼に見えない或る空なものを透かして見やうとして居るやうに考へ深く輝いて居る。其の心持瘦せの見える頰には心から湧き上る寂しさが現れて口が常よりも心持ち引き締つて居る。拔ける程白い其の額を兩方から蔽ふた前髮が微な風にハラ〳〵と亂れた。眸立たないほどの縮緬の襟をそつと前で合はせて、柄の好い銘仙の袷の上に一寸したお召の安つぽい羽織を引きかけて女優卷にした文子の姿は別に人の眸を引く程でもないが、何處となく普通の女のやうにも思はれなかつた。

「何者だらう。」と云ふやうな眼をして振り返つて行く人々には心づかないやうに文子は驅て出やうとする上野行の電車に乘りこむだ。車内は極く空いて居たので、文子は一番端に座をしめた。

　文子は二ケ月前信州から歸つて來た。少し神經衰弱氣味があつたので一時自分の實家に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

行つて居たのであつた、が再び都の人となつてからと云ふもの、彼女の心には云ひ知れぬ不安が新らしく生じた、それは彼女が良人と別れて一人の子供を連れて歸つて居る間の良人の心の變化であつた。

文子の良人は輝夫と云つて別に定つた職業はなし筆だけで生活をして居る。從つて收入とても不定の爲め文子は隨分苦勞もして來た、さうした生活上の問題から夫婦の間に思はしからぬ衝突もあつたが、それはほんの一時ではあつたものゝ、時重るに從つて生活の壓迫の爲め各々の心が荒むで來た。輝夫は家庭の爲めに束縛されて自由に自分の理想的な生活が出來ないと云ふ。自已の藝術と家庭との矛盾を云ひはる、又文子は文子で自分も家庭の爲めに犧牲になつて居て何一つ社會に出られるやうな仕事も出來ない、女は男よりも一層家庭に煩されねばならぬ家庭の責任は主人たる者の兩肩にある筈だと云ひ爭ふ。其麽責任を背負ふ必要はないと輝夫は頑張る。

輝夫は家庭を外に夜更けまで友人の家を遊び歩く事が多くなつた、從つて家庭の生活は愈々苦しくなるばかりであつた。文子は苦しい生活の中で長い小說に筆をとり始めた。早く書きあげて何程かの金子にかへやうと焦つたが、輝夫は時として それを勵すかと思ふと又、頭こなしくさしてしまう事もあつた。文子の友人などが一寸した事で世間の噂に上る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と、お前は意氣地がないと妻が人知れず埋れて居るのを嘲るやうに責めるのが常だつた。
輝夫は無意識のやうにあらゆる女を文子の前で褒めるのが癖であつた。其の度に文子の心は煮えくり返る程悲痛の涙が湧いて出た。何獨身でさへあつたら！其の度に文子は自分を束縛して居る家庭と、壓迫して居る良人が呪はしくなつた、輝夫が夜更けて電車の音も遠のいても未だ歸らない時など、いつそ今夜家を飛び出して行かうか、とまで思ひつめて見ても、行くべき家なく、目的もない自分と思ふとつい其の芝居氣も消えて、只管、良人の重い足音にのみ耳が聳てられた。未だ幼い子供の寢顏も悼々しかつた。
さうまで、文子の心は傷ついて來ても未だ輝夫に對する信は消えなかつた。其の强性な誰にも負ける事の大嫌ひな性分、勢力に於ては輝夫の友人の誰にも負けない其等の點と而して酒色に溺れて自己を忘れ、子供を忘れ去るやうな人ではない事だけは文子は何處までも信じて居た。夜遲くなつても決して行つた先を尋ねて見た事もなく又友人のところに話しこむだ位に思つて居た。從つて良人の心持に立ち入つて冷靜に考へて見ると同情に堪えぬところもあるので、いつそ幾ヶ月か歸つて良人を一人で居させて見たら、或は氣も變り、其の間充分に生活の用意も出來、勉强も出來るであらう。殊に自由に呑氣に遊び廻れるだらう。と其麼事を考へて文子は六歲の男の子を連れて歸鄉したのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれど文子は其の二ヶ月の別離が自分に何れだけの苦しみを與へたかを思ふと、良人を一人身で置いた自分の心持が情なくなつた。あゝ自分は歸らねばよかつた。期待して歸つたそれは皆失望であつた。二ヶ月の間輝夫は家庭を持つて居る以上の金子をつかつて居た。而してかなりな借錢も殘してあつた。それのみか輝夫の心は文子からすつかり放れてしまつて居た。それは文子自身でさう信ずまいとしても種々な留守中の事を知るに從つてさう思はずには居られなくなつた。良人と或る女――それは文子には只一人きりの心を許しあつた友人であつた――其の人との噂がそれとなく文子の耳にはいつた。

文子は良人を何處までも其の點では信じなかつた。何程貧乏しても、何程思想の衝突があつても自分等を繼ぐ只一つの愛の絲さへあつたら自分は何處までも生活の苦痛と、思想の矛盾は堪え忍ぶことが出來得る――とさう思つて居たのであつた、が其の只一つの良人との連絡の絲が切られたとしたら……然し文子は友人をも信じ、良人をも信じ度いと堪えず自分の疑惑の見辛い影を追ひ拂つて居た。優しい良人として見る時は決して其麼忌しい事は文子の心を暗くしなかつたが、自分を度外視するやうな二人の交際を見るにつけて文子の心は忽ちに掻き亂されるのが常だつた。殊に友安子の日頃の振舞を見て居る、文子は或は安子自身は何の氣もなくてさうした對度を自分に見せて居るのではないか、それを嫉

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

妬の眸で見る自分が間違つて居るのだと折々思ひ返して、日頃自分に姉妹以上の親切を見せて呉れた友の心を最も清いものに思ひなほさうと出來る限りの努力を盡した。けれどさう思ふ文子の信を折々裏切るやうな二人の樣子を見ると、侮辱される事の苦痛を今一倍感ずる文子にとつては知らん顏をして居るわけには行かなかつた、殊に良人が安子の手で多額の金子をこしらへて貰つて居る事を知るに從つて云ひ知れぬ苦しさを感じた。

「文子さんは私と貴君との交際を疑ふやうな女じやあない。」と安子は云つて居たと云ふ。

「私は島さん(輝夫)に對しては妻君以上の親切を盡して居るのです。」と安子が良人の增田に云つたと云ふ言葉を輝夫の口から得意さうに聽いた時、文子ははしたなくも口惜し淚が出た。

「奧さんが歸つていらしたら何からお話しませうね。一緒にお芝居へ行つた事から、それとも彼の事から……」其麼心づかひをするのが水臭いと文子がそれを聽いた時良人に恨みがましく云つた。

安子は一體、世間に名を賣る術を常に考へて居るやうな女であつた。從つて大勢の前でわざと噂の種子を蒔くやうな振舞をして見せる事はよく文子も知つて居た。劇場や、音樂などの席上でわざと相手を摑へて際どい振舞をして人々に好奇心を起されるのに興味を持

つて居るやうな女であつた。輝夫が人一倍女になど無頓着で、變人である事を知つて居る安子は輝夫を相手どつたら必ず世間や又輝夫の友人――文壇に噂の種子となるだらうと云ふやうな一種の惡戯から出たのであらう、と云ふやうに輝夫も文子に辯解的に云つた事もあり、文子もさう信ずる時もあつた。

けれど彼女の心は日にまし孤獨になつて行つた。讀書に耽つて居る時も不圖放れて行く良人の心を思ふと茫然涙にくれる時もある。夜の夢などには折々悲しい聲をあげて良人や子供を驚かせる位にまで文子の心は亂れて來た。良人の外出に別に今迄不安を持つて居なかつた文子は非常に神經過敏になつて良人の留守の中はちつとも心が落つかなかつた。自分は斯麼にまで良人に執着して居るのだらうかと自分で自分の心がはがゆくなる事もあつた。其の癖折々謀反氣が反抗的に起つて何物をも破壞してしまおうとする。

夫婦の間には絶えず安子の問題が話題に上つた。何と云つても安子と輝夫夫婦との關係は時の來る迄切る事が出來ないものであつた。

文子は安子に對して其麼に思つて居ても良人を除いて二人で相ひ對する時は全く昔の通りな暖い感情に浸る事が出來た。が然し安子も折々文子が自分に對して疑惑を持つて居ると云ふ事を輝夫から訊いた事を思ひ出すと冷かな一種の嘲笑を口元に見せる事もあつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文子も同時に友の心持を直感するとぴつたりとあつて居た心が忽ちに隔れてしまう。

田舍へ歸らない前までは悲しい事があるにつけ、嬉しい事のあるにつけ直ぐ安子の許へ馳せつけて家庭の事、良人の事、自分の心持を洗ひさらひ話して相談をかけ、時としては金錢上の心配までして貰つた事もあつた。それまでは輝夫は二人の背後に陰れて居る人であつたが今度は大手を擴げて文子の前に立ち防がつて安子と文子との間を隔てゝしまつた、それを思ふと、文子はあれ程安子を信じて打ちあけた自分のはしたない心持が今更口惜まれて來た。誰にも心を許した事のなかつた自分が、只一人の友人と信じ手頼つた爲め、今に至つて後悔しなければならない。安子が輝夫の心を捕へるやうになつたのも、文子の心では、自分が夫婦の日頃の思はしくない仲らひを打ち開けて居たからである。安子は輝夫が文子を深く愛して居ないと云ふ心の缺陷を突いて打ち込むだつもりなのであらうとさへ考へるのであつた。

さうした疑惑の煩悶の中にかなり苦しい日を文子は送つて來た。ところ、今朝又も文子の心を後から突き飛ばしたやうな事件が起つた。それは文子の友人の上に降りかゝつた問題で、文子は思はず自分を顧られて來た、同時に不安と危惧の念が逐々家に文子を落ちつけさせなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其の日の朝文子は机の前で新聞を開いて居た、すると社會面に二號見出しで三崎夫婦の別居問題と云ふ文字が出て居た。驚きと好奇心でそれを讀むで居た文子は輝夫が起きて來るのを待つてその夫婦に就いて種々の話を一種の好奇心で語りあつて居た。

朝飯の時も二人は其の話より他語りあはなかつた。すると飯を濟ましたところへ直ぐ近くに居る文子の友人、女流作家として相當の位置をしめて居る友が矢張新聞の記事を見て驚いて飛んで來た。

文子と其の友人とは文子の書齋でよく二人とも知つて居る其の夫婦、三崎夫婦の事に就いて話しあつた。始めのうちは輝夫も其處に居て其の問題に就いて批評めいた事を喋舌つて居たが、何か用事ありげに二階へ上つて行つてしまつた。

此の問題は文學者の夫婦生活と云ふものを文子にも其の友人にも深く考へさせた。文子の友人と云ふは薫子と云つて文子より五つ六つ上で、去年齡下の若い音樂家と結婚した。新らしい自分の家に住み藝術的なかなり豊な生活をして同じ文學者仲間の間では羨望の的となつて居る、文子も薫子も七年間も同居して子供まである夫婦が突然別居したと云ふ事に驚きの目を見張り、緊張した心持で友人夫婦の今迄の樣子などを語りあつた。殊に既う五十に近い中年の男子が敬愛して居た妻を捨てゝ他の女と通じて妻子を捨てゝ去つたと云

ふ事、其の三崎と云ふ文學者は自分の妻は世にも類のない偉い女として世に紹介して居た事などから考へて見て二人は今度の事件が餘りの唐突なのと意外なるに驚いた。然し文子は三崎夫婦とはかなり親しくして來たので夫婦の間が折々思はしくなく衝突のあつた事なども知つて居たので或る點から考へると別に不思議な事でもなかつたが、何だか單に好奇心の目で冷かに視て居る事は出來なかつた。殊に男子に對して不安を抱くやうになつて來た文子の心には直に自分の境遇を顧られて何とも云へない厭な氣持がした。

元より輝夫と三崎とは齡も十四五から違つて居て、思想も同じ文學者で、折々議論を闘す間柄であつたが、隨分違つたものであつた、然し三崎氏の弱者を强者は勞る必要がない、何處までも人生は强者の勝利である。其處に同情を持つ必要もないと云ふ說は、輝夫も贊成であつた。折々文子が輝夫に同情や憐愍のない事を云ふと「弱者に何の同情があらう。同情を求める者は人生の敗北者だ」と云つて文子を口惜しがらせた。その樣な說をなすに至つたのも文子が信州から歸つて來てからの事で、それ等を思ひ合はすと文子は中年の戀男子が漸く妻に倦きて他の女に心の傾いて行く其の自然の傾向を思ふと呑氣にしては居られない氣になつた。未だ良人は中年にはならない、けれど旣う他に新らしいロマンスを憧れて步いて居る。その心持を束縛する事も、又理屈でどうする事も出來ない、それを思ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と文子は自分の力を考へずには居られなくなつた。
友の薫子は未だ結婚して二年とは經たない新らしい愛と希望に輝いて居る其の齢よりも若やかな顏に微笑を湛へて、
「ね、男子は若い時には自分の齢よりも上の女が好いんですつて、中年になるとずつと若い女が好きになるつて云つてよ。お互に氣をつけなくつちやあ――」
薫子の微笑を堪へた顏には決して不安な色は現れて居なかつた。久しい間獨身に馴れて來た友は良人に別れたとしても別に不安でもないのであらうと文子は其心持が羨しかつた
「貴君など御氣をつけなさいよ。」と戲談らしく云つた友の言葉が限りなく文子の心を刻(えぐ)つた。文子は蒼い顏をして、
「其の時は私にも覺悟がありますよ。然し三崎さんの奧さんのやうな態度には出ないつもりよ。私には私として又處置のしやうもあるわ。」と寂しく微笑して見せた。
良人が默つて外出してしまうと文子は寂しさに追はれるやうにして晴れた秋の空の下に忍び出たのであつた。
文子は電車が四ツ谷も通り、麹町を過ぎて九段まで來ても何だか茫然として居た。既う種々の事を考へるには其の頭腦は疲れて重い鉛でもつめ込まれたやうに動かなかつた。上る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人、降りる人のそれ〴〵變つた顏立や服裝も文子の目には同じ黑い陰氣な色に見えて居た。良人の事も、又今朝の新聞の記事も、只重い塊となつて文子の心を寂寞の顏に押しつけた。文子は一體自分は何處へ行くつもりで家を出たのであらうと始めて自分の行先を考へて見た。上野行きに乘つた點から考へて見ると儘に文子は安子を訪れるつもりだつたらしい。長い間何につけても安子に引きつけられた文子の心は習慣的に斯うした場合も安子に吸ひついて行つた。

思ふ間もなく快い秋の町の中を電車は走つて小川町の停留場に止つた。文子は魔にでも魅かれた人のやうにふら〳〵として降りた。降りると直ぐ安子の家に入る露路が目の前に現れた。

不圖文子が心づいて足を止めた時、其の前に突つ立つて居る增田のひよろ長い姿が眼に止つた。

「あら增田さん、何處へ？」と文子は首垂れて步いて來た其の顏をあげた。

「いや。一寸そこまで」と云つても彳むだ儘何處へ行かうかと思案して居るらしかつた。

「安子さん御宅？」

「エヽ、居ます。お寄りなさい。」

家に安子の客のある時はいつも增田が出てしまう事を知つて居る文子は、斯うして行く先を考へて居るらしい增田の樣子で直ぐ來客のある事に感付いた。感付くと同時に電光のやうに文子の心に閃いたのは輝夫の事であつた、或は輝夫が來て居るのではあるまいか……

……

「お客さんですか。」

「エエ。」

「私、一寸御邪魔しますが、お歸りになりませんか。」

文子は增田は決して嫌ひではなかつた。どうかして六ケ敷い冷膽な顏をして不氣嫌を見せて居る時もあるが、其の洋行歸りらしい(增田は三年前洋行して歸つて來た)何處か社交にたけた、そのくせ餘程變つた性格を持つて居る增田に對しては少からず好奇心も持ち又親友の良人として尊敬もして居た。同時に寂しい人と云ふ氣分を感せさせられるのが文子には好きだつた。安子の陽氣な性分に對して全く增田は陰氣な暗い人であつた。斯うして行く場所に思案をめぐらし乍ら家にも歸れずイんで居る增田が堪らない程氣の毒になつた。

さう思つても何と口に出して云ひやうもなく文子は優しく會釋して下駄の音をさせ乍ら露路の中に奧深くはいつて行つた。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一つ角を曲ると其處が安子の家であつた。磨り硝子が固く締め切つてあつた。

重い硝子戸を開けると鈴の音がして奥から人の話聲と酒の臭ひとが直ぐ文子を襲つた。

「誰方？」

例の艶のある馬鹿に美しい安子の聲がすると一しよに玄關に面した小窓が開いた。何時も安子は其の窓を背後に坐つて居て來客だといふと坐つた儘身體をねじつて其の小窓の障子を開けるのであつた。

日頃血色のよくない安子の顔が稍酒にでも熱せられたとも思はれる赤い顔を文子の眼の前に現した。

「まあ、文子さん今お客よ。いいわ、およりなさいな。」

文子はさうした言葉を飽足らなく聽いた。前なら、まあ、うれしい、よくいらつしてねさあ早く、と引きあげないばかりに喜び迎へたあの樣子が全く變つて居るのを文子はわびしく思はずには居られなかつた。

未だ其の時まで輝夫の事が氣にかゝつて居つたが茶の間にはいつて見て初めて自分の氣の廻し過ぎたのを馬鹿らしく思つた。

其處にはビールの空壜がゴロ〳〵と投げ出され、食べ殘しの大きな鮨皿や、魚の皿など

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が取り散らされて、未だ各々の洋杯の中には泡の消えた液體が椽側から來る眞晝の光線に透いて黄金色に見えて居た。

男の客が二人、一人は洋服の上着を拔いで胡坐をかき、一人は日本服の質素ななりをして、胡坐もかゝなく身體を一方の壁に投げかけて居た。

「此方へいらつしやいな。」と安子は自分の眞向に座布團を投げた。

「御紹介します。」と云つた調子で洋服の男は××雜誌の岩藤さん。此の方は同じ雜誌の野枝さん。

お互の簡單な挨拶が亂れた席の兩方でとり交はされた。

「どう。文子さん。一杯。」

洋杯が手近になかつたので安子は長火鉢の猫板の上にあつた美術學校製品の湯呑を醉つて震へる手にさし出した。

「私、今日は澤山、頂き度くないの。」

「さあ、いゝじやあないの、私よつちまつたわ。まあ一杯。」

それでも文子は手を出さなかつた。

「呑まなけりやあいゝわ。」と冷い顏をして湯呑を餉臺の上に置いた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「や！こりや、こりや。」何のたわいもない事を云つて安子は兩手をブラリとあげて首と共に動かしたりした。

「相變らずお盛んね、今私、其處で増田さんに御目にかゝつたわ。茫然立つていらつしてよ。」

斯うした光景を見るにつけて増田の今の寂しい姿を文子は思ひ浮べずには居られなかつたそれが安子や二人の客には皮肉に聽こえた。

「さう。今歸つて來て、直ぐ出て行つたわ。」と何げなく云つて、

「さ、大に呑みませう、岩藤さん。もう一杯。」

矢張覺束ない手に半分ばかり殘つて居る壜の口を傾けて岩藤の前こゞみにさし出した洋杯の中に注いだ。

「野枝さん、貴君何を茫然して居るのよ。さあ御飮みなさいな。」

默つて上眼にジロ／＼見て居る男の前に岩藤にさし出した壜を又もつきつけた。

「もう僕は……」

「まあ、貴君はしんねり、むつつりで、私大嫌い。厭な者はおよしなさい。さ、さ、岩藤さん。やりませう。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ツンツンテンテン、やゝこりや、こりやと又もたわいなく手と首とをゆすぶつてその朦朧とした目を何處となく安子は漂した。さうしながらも左の手は洋杯を放さなかつた。

「そら壺坂のあそこの觸が馬鹿にいゝじやあないの……」などと觸の一くさりを口誦さむたりした。さうかと思ふと、

「ね、一寸、野枝さん。貴君は何を考へこむで居るの。そら又美代さんの事およしなさいな。」と一寸打つ眞似をされて、野枝は黑い小さい顏を赤くして相變らず上目づかひに美しい安子の顏を見て、

「そんな事を考へてゐやあしませんよ。」

「これならお酒を飲んだらいゝじやあないの嫌いよ、其麼六ヶ敷い顏して居る人は。」

此の時文子は岩藤と三崎夫婦の問題で一寸議論めいた事を云ひあつて居た。而して安子と野枝との會話を耳にはさんだ時此の野枝と云ふ人が問題の美代さんを日本唯一の偉い女と祭りあげて一人で騷ぎ廻つて評判をとつて居る人だと心づいて、今更其の物耻しげな何處か初心のところのある其の人を疑視て居た。

岩藤は酒を飲むに從つて其の肥えた愛嬌のある、女の一寸好さ相な顏が愈々蒼白くなつて來た。而して話が理屈におちて、同じ事ばかり、下向きながらくり返した。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「夫婦喧嘩を明みへ出すつて法はない、皆名を賣る業なんです。さうです、今の人は其の名を賣る手段ばかり考へて居る、けしからん、眞面目な者は一人もない、全く一人もない。吾々の立場として彼の夫婦何ちにも同情はよせられない、唯冷靜な批判を下すばかりです。さうです、何處までも冷靜に……」

「お止しなさいな、岩藤さん、理屈など、私酒を飲みながらさう云ふ理屈をきくのが大嫌ひ。」

安子は文子が折々理屈を云ふ癖があるのを知つて居る。それが岩藤を摑へて又初め出されたら大變と云ふやうな氣持がして何處までもそれを止めさせやうとした。

けれど文子は何とか此の問題を喋つて見度かつた。

「人の夫婦喧嘩などで騷いで見たつて仕方がないわ。」

「さうです。安子さんだけはよく判つて居る、偉い、實に偉い、大に君の健康を祝ふとしませう。」

「さう嬉しいわ、それならもう一杯、これを二人で飲みませう。」

安子は又岩藤の洋杯にビールを滿たして、

「さ、二人で飲むのよ。」

「宜しい。」

岩藤は膝すりよせて一つの洋杯の酒を安子と口をつけて半分ばかり飲みほした。

「愉快、愉快。どうです、何處かへ飲みなをしに行きませうか。」

「えゝ、行きませう。野枝さんは？又美代さんの事を考へて居る、さあ、お酌をなさい。」

云はれて野枝は眼元に微笑して默つて安子の酌をした。

「私、熱くつて仕方がないから、煽つて頂戴」

團扇をさしつけられて、矢張野枝は不器用に安子を脇の方から煽つた。

「おや、私、大切なお客さんを忘れて居た。文子さん、御免なさい。貴君何かおあがりなさいな。お鮨があるわ、殘りものだけれど。」

脇によせてあつた皿を文子の前に差し出した。文子は默つてそれを受とつた。

「貴君、面白くない？氣持が惡い？私騷ぐから。」

さう云つて首を傾けて文子の顏を覗くやうにした安子には全く邪氣はなかつた。常の蒼白な顏は生々と輝いて赤くなつては居るが何處か荒んだ影が其の未だ三十にとゞかぬ顏に現れて居る。

「私、今日は少し氣が沈んで居るのよ。」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「相變らずね。貴女はいつもさうね、少し私の眞似をしてお酒を飮むで、騷いで、芝居見に行つたりして御覽なさい、何もかも忘れてしまつてよ。御主人の事ばかり考へて居ると狂人になつてしまうわ。三崎さん見たいな眞似をしたい男子はさせて置くがいゝわ、貴女御主人が何をしやうといゝじやありませんか。貴女も意氣地がないのね。貴女も男をこしらへて世の中を面白可笑しく暮したらいゝじやあないの。」

安子は斯う云つて一寸嘲の色を口と眼元に見せたのを文子は鋭く認めた。前の中は一口として斯麽事を自分に云つた事はないと文子は友の心持を押し計つていよ〳〵厭な氣持に墜ちて行つた。

時計は三時四時と進むで秋の日は忽ちに暮れて行つた、それでも文子は立たうとしなかつた。此處を立ち去つたら尙ほ寂しい思ひをしなければならない。兎に角今の自分が居られるところで一番面白相なのは玆であると思ふと電氣がついて、座敷の隅々から夜の色が濃くなつて來るまでも文子は席を立たなかつた。

三人は芝居の話や女優の噂などをして居たけれど其の中でも野枝だけは中々口重で酒にも脣をつけなかつた。

文子は先程見た增田の事を未た忘れなかつた。さうかと思ふと、外の露路を行く人の足

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

登に或は良人の輝夫が這入つて來はしないかと云ふ不安もあつた。文子は友の安子と良人とを並べて見ると云ふ事は非常に心苦しい事であつた。良人の眼が絶えず友の上に、友の眼が絶えず良人の上に注がれて居るのを脇から見ると云ふ事に苦しい嫉妬と侮辱を感じた。歸りさへすれば何事も知らなくつてそれでいゝのだと思つて見ても良人が若し來て自分が居たら何のやうな顏をするだらうと云ふ事を考へて見ると其處も立ち去れ得なかつた。然し安子は全く自分を忘れる程醉つて來た友の亂れた有樣を見て居るのが忍びなくなつたので文子は思ひ切つて立ち上つた。

安子は銘仙の前をはだけて、赤い友染の長襦袢を見せて覺束ない足どりでやつとの事で玄關の上り口まで送つて出たが、其處へ遂々仆れてしまつた。

「這麼に醉つた事はない、岩藤さん、手をひいて頂戴よ。」と云ふ聲を背後に文子は外の冷い空氣をホッと吸つた。

明い電車通りに一足で出やうとする出あひ頭にすれちがつた其の人、ハッと思つて顧る間もなく曲り角で其の影は消えた。

はて輝夫のやうであつたが、と思ふと文子は自分を顧るひまはなくなつて再び友の玄關口まで引き返して、そつと鋭敏になつた耳を聳てた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

中からは岩藤の聲が多くきこえて、他に野枝の小さい聲がしのびやかにして來るばかりで輝夫の居さうもなかつた。

輝夫は外出すれば必ずよらずには居らない安子の許を今日は訪ねないのであらうかと文子は今更自分のはしたなさが恥しくなつた。

若し這麽氣持になつて、良人が今此の家にはいつて安子と親しげに話して居る聲でもきいたとしたら自分は何のやうな振舞をするであらう、それを思つてハッと文子は自分に歸つた。

髪ふり亂して血相かへた嫉妬の狂女の姿が眼に浮ぶと文子は幽靈の怖ろしい幻影にでも追はれるやうに明い町へと足を向けた。

文子は夢中で何時の間にか九段の前の牛ヶ淵公園へ來て居た。柳の葉は髪の上や肩にふりかゝつた。高く澄み切つた空に星が人の心の秘密を囁くやうに瞬いて居る。それが文子には幼い頃、母親や祖母から頭に入れられた神様の象徴のやうに見えて來た。凋落を待つ秋の自然の中にお濠の黒い動かない水を臨むでイむだ時、文子の頰には幾筋かの涙が傳つた。足に踏む草、チー、チー、コロ〳〵と啼く虫の音も既うかれて居る、バラ〳〵と耳元近く散る木の葉の音其等を包むだ文明の都會の夜の響が休息のない息忙しさを示して居る

此の時兩手で思はず自分の身體を抱きしめた文子は自分ほど大切のものはないと心に叫むだ。自己を愛す事が出來たら良人をも友人をも、又世間をも愛する事が出來る。あ！私は自分と云ふものを忘れて居た。私は自分を侮辱して居た。自分ほど大切なものはない。自己をしつかり摑へて居たら何で寂しい事があらう。

彼女はさう思つた時空の星を仰いて微笑むだ。早く歸つて小說の緖言を書かうと。

（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

辣薤のはな

茅野雅

幼な子の手をはづれたる風船をとりとめもなくみつむるこころ
君遠し海のあなたか雲の上かしらねどあはれ消息もなし
眞紅なるだりやの花がわがこころまつかにひかり生きてあるかな
匂ひやかに君が瞳にさきし花いつとはなしにわがものとする
手もふれで石は石とし捨てらるるさびしき國にわれや死ぬらむ
火のもゆる大き海ありあかあかとこの身もいつか火となりにけり
いとほしき夫やわが子に云ひ得ざるかなしきことのあらばいかにせむ
かたるまにいつか眞紅な萬年青の實かくるるまでに雪つめるかな
朝ごとに庭にきてなく鳩ぽつぽかなしやわれをひとりなぐむる
二三人しろき心の戸をだたき訪へるもありきそのかみのこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いみぢくも聖のふみをよむごとき涙おぼゆる君が消息

山のみちふたつにわかる石投げてゆくへさだむるわれならなくに

うすあかき辣薤の花の咲く畠に子を負ひながらものをおもへる

くろ土を三寸ばかりはみ出だし大根の光る畑の夕ぐれ

大なる花もつ木かな木蓮はわれのこころにひつたりとそふ

われのふむ土の底にも何かしらうごめくもののあるを感ずる

なに故のことのもつれかかなしみか物も得云はず泣く二人の子

枯芝のうへにまろびていちごきに涙おとせばややも心なぐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

日本婦人の社會事業に就て
伊藤野枝氏に與ふ

青山菊榮

伊藤野枝様

まだお目にかゝつた事はありませんがお書きになつたものは時々拜見いたして居ります。私が青鞜を手にする事はごく稀なのですがその時にはあなたのものを見のがさずに居ります。私はあなたの議論に敬服するよりもあなたのわき目もふらぬ一心な態度に引きつけられて居ります。幼稚であらうと大ざつぱであらうと心からの叫び程尊いものはありません。あなたに前條の缺點はあつてもそれは智者とか學者とか云はれる人々の取り澄ました悟り顔とは比較にならぬ微瑕にすぎません。斯ういふ樣な譯で私はあなたが好きなのです。好きな丈にあなたのお書きになつたものゝ中にお考の不十分な樣に思はれる點を見出すといかにも殘念な氣持がいたします。

其の殘念な氣持をそのまゝ消し切れなくてあなたの前に披瀝したくなつた結果が此手紙なのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さて何がそんなに殘念かと云ひますとそれは青鞜十二月號所載の日本婦人の公共事業に就ての論文のうちの所々の御議論でした。前半に就ては私はあなたの論旨に異議はございません。自分自身何等の識見無く反省なき無知無能の連中、貴婦人と呼ばれる人間性を失つた特殊の民族が時々花を賣るとか旗を賣るとか愚にもつかぬ遊戲を思ひついて通行人の妨害をするのは以ての外の事です。私共忙しい貧乏人はどの位迷惑するか分りません。彼等の慈悲心がそれをさせずにおかないとかいふ事なら何も往來へ出てやらずともの事です、そして通行の貧乏人――どうせ人に施す位の餘裕のある金持は馬車か自動車でつかまらない樣に駈け拔けて了ひます――を强請つておいて博愛顏をせずともの事です。彼等の家にはさういふ遊戲に適當な廣い芝生や美しい築山がある筈です。彼等の指環、彼等のブローチ一個でも私達の十年の勞働より高價であるに違ひないのです。何を好んで彼等は今日の糧を案じる人々の血の樣な金を强奪したいのでせう。私は暗夜に戸外を窺ふ覆面の男より白晝辻に立つ美裝の强盜をより恐れより憎みます。

私は曾て或養老院に資金を出して居る富豪の寡婦と話して居ました。寄邊のない年寄達の身の上をきくと、子供や孫に慕はれて賑かに暮して居る世間の老人と比較して實に氣の毒な氣がしましたので、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「隨分寂しいことでございませうね」

と私が云ひますと其の人は

「何寂しいことがありますものか、多勢一所に居るんでございますもの」

と平氣で居りました。そしてその人はその多勢が寂しくなく幸福にして行かれるのは幾分自分のお蔭だといふことをにほはせ、それに對して稱德の言葉を私から聞きたい樣子でした。金持は第一に自分が何故富んで居るのか、貧乏人が何故貧乏なのか考へて見た事があるのでせうか。もしそれを考へて見たなら、そしてそれが分つたなら慈善などゝいふ馬鹿な眞似は出來ない譯です。その代りに他人の勞働を盜むことを即刻にやめ、蓄積した資財の一切を擲つて身自ら額に汗してパンを獲やうとしなければなりません。そして慈善がしたくても出來ない世の中、貧乏人の居ない世の中を早く作り出さうとしなければなりません。以上はあなたの論文の前半に就て私の贊意を表したにすぎません。さて其の次の條、「婦人矯風會」の事業の一部について私はあなたと多少異つた意見をもつて居ります。婦人矯風會とは一體何をする會なのか私は少しも知りません。多分今日まで人に知られる丈の何事をもして居なかつたからでせう。しかしその會が主になつて居るのかどうか知りませんが公娼廢止運動といふ事はあなたの仰しやる程無意味な無價値な問題では無い樣に思ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ます。それ所か爲た方が好く亦爲なければならぬ事だと思はれます。私も曾てこの問題に就て全然無知であつた頃にはあなたと同じ樣な意見を持つて居りました。しかし此頃それに就て少し許り調べて見た結果、公娼が名實共に私娼より不正であり有害である事を知りましたので勢ひ廢娼論者とならざるを得なくなりました。その調べた結果は一月から創刊の「社會政策研究」といふ雜誌に出る筈ですから是非御一覽を願ひます。公娼にも集娼散娼の二種あります。日本の遊廓制度は前者で外國のは多く後者です。無論兩方とも風俗衞生等の點に於て優劣はありません。何にせよ賣淫を公然の生活手段として許す以上いかに取締つても甲斐はありません、亦公娼の辯護者の迷信して居る檢黴なぞの全く無效な事は日本及歐米の醫者が公然證明して居ります。日本の公私娼の黴毒は共に七〇パーセントだといふのを見ても分るではありませんか。又日本の公娼制度は日本の封建制度が產出した特殊のものであつて外國には全然類の無い悲慘と殘酷とを供へて居ります。第一に私娼とは肉體的自由の點に於て非常な差があります。廓外に出る事は無論、大抵は戶外に出る事も許さないのです。また食事などに至つてはお話にならないのです、何しろ一日二食で一度の副食物が一錢といふのですから。殊に賣れない娼妓なぞは絕食させられても文句はないのです。そしていかに稼いでも儲けは皆樓主のものになつてしまふので年限は延び借金は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

増す一方なのです。御參考迄に山室軍平氏の「社會廓清論」の一節を左に。

「娼妓の前借金に不思議な事は彼等が娼妓を勤める事に依て前借金が減る代りに却て増すのが多いといふ事實である。もとより其精算勘定がどうなつて居るかといふ様な事を知つて居る娼妓など殆ど無い。大概は皆貸座敷營業者が娼妓の印形を保存して居て、其時々に勝手な事を帳面に書き込み好きな樣に捺印するのであるから斯ういふ結果を見るのも不思議では無い。私共が取調べた百人の娼妓の中自分の前借金の増減を自分で辨へて居る者は只二十六人に過ぎなかつた。然らば彼等が娼妓になつた當座と比べて其後前借金の増減は如何やうになつて居たかと云ふに、

前借の増したもの　一八

前借の減じたもの　八

即ち増した者七に對する減つた者三の割合である。増した中には、

前借金二百六十圓にて娼妓となり、五年三ヶ月勤めて三百二十圓に増したもの

前借金二百八十圓にて身を沈め一年七ヶ月勤めて三百七十圓に増したもの

同三百四十圓にて身を沈め滿二年の後に四百圓に増したもの

等がある。其反對に減つた者の中には、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

前借金四百五十圓にて娼妓となり二年一ヶ月勤めたる後四百五十圓になりたるもの、卽ち二年一ヶ月の醜業に就て漸く五圓丈返濟し得たものなどがあつた。」

こんな制度を公認しておいて好いでせうか。同じく悲慘でも當人の爲めには私娼の方がまだしもなのです。私娼の害毒が公娼と同程度であるならば公娼を廢しても差支はない譯ですし、斯うした奴隷賣買兼高利業を保護する政策はやめなければならぬとはお思ひになりませんか。私娼の取扱に就ても私が讀んだ二三外國の書籍には、賣淫を犯罪とするならば其犯者たる男子も同罪であり、背後に居る使喚者も亦處罰すべしと論じてありました。フォーセット側らしい一英國婦人は「婦人運動の將來」といふ小册子の中に之に言及して「AとBの二少年が共同して林檎を盜み、A丈發見された時、社會はAにBの罪まで被せて二重に復讐して好からうか。賣笑婦の處罰は之に類して居る。賣淫は婦人が單獨に行ひ得る行爲で無い。之が其犯者は堂々社會に幅を利かせて居るのに婦人のみ獨り汚辱を被る謂れがあらうか。」と云つて居ります。それは兎も角も一切の賣笑婦の供給を斷つ爲めには社會の改造が必要です、無知と貧乏が凡ての醜惡な行爲のもとなのですから。それから一つは男の身勝手ですね、どうしても之を制さなくてはなりません。あなたは「もしも彼女たちの云ふまゝにあの花柳界の女たちのして居る事が賤業であるとしてもあゝした業が社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

會に認められて居るのは誰でもが云ふ通りにやはり男子の本然の要求と長い歴史がその根を固いものにして居る。それは必ず存在する丈の理由をもつて居るのである。彼女たちがたとへ六年間を誓つたとて十年間を誓つたとてそれを全廢する事がどうして出來やう」と云つていらつしやいます。それならば今日の社會制度は凡て左樣ではありませんか。歴史が長く根が固いといふことは正しい存在の理由を構成しては居りません。それは惰性と同義である場合が多いのです。又歴史が長く根が固い故に惡い制度を廢することが不可能だと云ふならば女は有史以來の屈從の歴史を尊重しておとなしく引込んで居る方が好く、又いくら反抗してもそれは駄目だといふ事になります。あなたは之を是認なさいますか。

又あなたは「男の本然の要求」と仰しやいます。しかし私の調べた所によると賣淫制度は不自然な男女關係の制定に伴て起つたもので男子の先天性といふより不自然な社會制度に應じて出來たものなのです。女の拘束の度に比例して隆盛を極めるものなのです。ですから女を自由にすれば自然消滅せざるを得ないものなのです。假に一歩を讓つてたとへそれが男子本然の要求であるとしても自身反證を擧げて居る男子は少くありませんが――あなたはこの制度を承認しやうとなさいますか。いかに男子本然の要求であつても女子にとつて不都合な制度なら私は絕對に反對致します。「男子本然の要求」だからと同性の蒙る侮辱蹂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

識を冷然看過してお出での所を讀んだ古い人々は「さて〳〵新しい女にも似合はない殊勝な心掛けだ」とさぞかしよろこんだ事でございませう。

外國の公娼は日本の私娼に類するので只鑑札がある丈ですがそれも喧しく段々廢されて行きます。その結果は良好なのです。公娼を廢せばそれ丈私娼が殖えるといふのは僞です。公娼が無い土地は私娼も振ひません、公娼を廢せば大抵は私娼も減ります、減らない場合でも殖えはしないのです。つまり公娼が減つた丈――日本で云へば五萬人――醜業婦が減少する譯なのです。歐洲の廢娼都市の統計を見ますと公娼廢止後黴毒が減少して行く傾があるのです。特に日本の公娼制度が惡いのは公然挑發誘惑の設備を許されて居る點です。その爲無用な好奇心をそゝり情慾を刺戟して青年を墮落させる機會が多いのです。又私娼の方が引込まれ易いと仰しやいますが、抜ける事も容易ですからつまり公娼より生活程度が高い丈亦公然挑發しない丈增しでせう。要するに日本の遊廓制度は不自然に需要供給を造出して社會を腐敗せしめ、他人の非倫行爲に依て利を博せんとする奴隷營業の保護政策なのです。打捨ておいても長い間には公娼は自然と無くなりませう。今でも衰微する一方ださうですから。それは公娼は全く籠の鳥なので世間話一つする事も出來ないので私娼の方が面白いのだといふ人もあり、張見世などの下品な不自然な制度が多少進んで來た人間

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に惡感を催させるからだといふ人もあります。多分兩方でせう。しかし惡い事はいかに小さな事であつても自然の成行に任せずに出來る丈除去しなければなりません。この意味に於て私は公娼廢止に賛成いたします。又外國人の手前見えをおもつて廢娼を主張する事が惡い樣に仰せですが、それは淺薄な理由にしても差支ない事だと思ひますね。自分で氣がつかずに居ても人から見供ないと云はれゝばよさうかしらと思ふのは人情です。又事實よした方が好い事ならそれで結構ではありませんか。私共が往來で羽織の襟がたてかぶりになつて居たり帶がほどけさうになつて居るまゝ歩いて居る人に一寸注意したとしますね、其時其人はひらきなほつて沈思瞑想し　果して羽織の襟を正し、帶を結び直す事が見供ない事であるや否やを考へ、內から湧く已むに已まれぬ欲求を待つて直さなければほんとで無い、眞面目でないと云へるでせうか。見供ないと人にも云はれ事實見供ない事に相異ない公娼制度も之と同じ事でさつさとやめるが好いのです。但しあなたが見供なく無いと仰しやればそれ迄ですが、さう仰しやる前に市內の遊廓を一見なさる樣おすゝめ致します。

　無論智識の普及に依て個人の自覺を促す事は最大の急務です、しかし同時に今目前にある有害な制度も默認してはおかれません。人が自分の咽喉を締め樣とした時は誰しも極力爭ふでせう。其時、この人は無知だから斯う云ふ事をするのだ、一つ教育を施してその不

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

可なる所以を自ら覺らしめなければなるまいなど丶考へて居るうちに殺されてしまつたらどうなさいます。私は婦人の自覺と同時に諸制度の改革を必要と認めて居ります。あなたは社會百般の事象は表面に表はれる迄には必ず確たる根をもち立派なプロセスをもつて居るものであり、偉大なる自能力の最も力強い支配力のもとにある不可抗力であつて、僅かな人間の意力や手段では誤魔化せない正眞正銘のねうちを失ふ事のない力であると仰しやいます。果して左樣でせうか。大化の革新は人間の手に依て成されました、封建制度も人間に作られました、そして又人間の意力に倒されて明治となりました。立憲政體も人間が作つたのです、陸海軍も人間が作つたのです。要するに凡ての社會制度は人間が作つたものであり、こわしたい時にはいつでもこわせるものである事は古今東西の歷史に現はれた大小無數の革命が證據です。又現在の事實も皆それを證明して居ります。又あなたもそれを信じていらつしやればこそ女に不都合な世の中を改革し樣と志していらつしやるのではありませんか。もし仰せの樣に社會百般の事象が人間の意力で左右し得ぬ不可抗力であるとすればあなたの戰は畢竟徒勞です。もしあなたの敵があなたの論を武器として在來の制度は不可抗力なるが故に、且僅かな人間の意力や手段では動かせない正眞正銘のねうちある力なるが故に、女は飽迄在來の女の運命に甘じてお花やお茶に日を暮せと云はれた時、あ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なたは何とお答へになります。あなたは自然の威力といふものを迷信していらつしやいます。人間の作つた社會を支配するものは人間です、人間は自然を利用して行く丈の事で自己の事は一切自己で仕末の出來る程賢い動物なのです。畢竟權力者達の作つた不都合極まる制度を自然の不可抗力だなど〻認めるのは無知な卑屈な奴隷思想です。人間の進歩を阻む危險思想です。

私は公娼廢止の可能を信じて居ります。當局者の意向次第で明日にもやめ得る事は事實なのです。六年か〻らうと十年か〻らうと出來る事であり爲甲斐のある事なら爲た方が好いではありませんか。無論賣淫問題は婦人問題の一部にすぎず、公娼問題はまだ其一部にすぎませんが特に顯著な有害な一部である以上看過しておく事は出來ません。工女問題など〻云ふより大きな問題も私共の手を待つて居りますけれどもさし當つて解決のし易い手近な問題から片づけて行くのは決して無意味でないと思ひます「誰でもが云ふ樣に」と賣淫制度の存在を是認してお出の樣ですが、あなたは「誰でもがいふ事」は正しい事と信じてお出なのでせうか。それが「傲慢狹量にして不徹底なる日本婦人」と他を痛罵する資格のある「深く物を考へた」聰明なる婦人のお言葉でせうか。「本當に物の根本をひとりで考へる程人間はずつと謙遜にならずに居られない」なら第一あなた御自身の態度はどうですかと伺ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

度い。

私は矢島さんといふ方は直接には知りませんが、やり方で見ると鳩山某女とか山脇何子とか云ふ樣な連中程下等では無い樣ですね。何しろ八十を越した年寄ですから目がかすんで物を見ちがひ感ちがひされるのも無理はありません。毎年議會に提出される案などはあの方の偶像なのです、あなただつてお祖母さんの佛いぢりは打捨てお置きになるでせう。あの方の仕事はその位に見ておけばいゝのです。日向でお念佛を唱へて居るおばあさんより外にまだ相手がありさうなものではありませんか。私共の周圍にはもつと〳〵有害な偶像をもつて衆を欺き人を抑壓しやうとして居る連中が一杯です。私は矢島さんの仕事の中で女子學院と公娼問題だけは小さい乍らも價値を認めて居ります。其他については批評する價値を認めませんから打捨つておきます。そして私の精力をもつと有害な價値の打破に用ゐたいと考へて居ります。

いろ〳〵失禮な事を申上ました。お目にかゝる機會を樂しんで居ります。進んでその機會を作るには私は餘りに不精者に生れて居ります。お二人のお母樣では大變ですね、お察し申します。あなたとあなたの愛していらつしやる方々の御健勝を祈ります。

（十二月五日）

青山菊榮様へ

野枝

青山菊榮様

あなたの公開狀は本當に、私には有りがたいものでした。私は幾度も〳〵讀み返しました。勿論、不服な事もありますがそれはおい〳〵申上げる事にして、先づ公娼廢止についてのあなたの考へ方は正當です。私はそう云ふ方面に全く無智なのです。私はまださういふ詳しい事を調べるまでに手が屆かなかつたのです。その點では私はあゝ云ふ事を云ふ資格は全くなかつたのかも知れません。あれは私は或田舍の新聞に賴まれて書いたものなのです。別に深い自信のあるものでもなんでもありませんでした。けれども全く、私はあなたのお書きになつたものを拜見して始めてさう云ふことを氣づいたのです。勿論、私はさういふ娼妓の生活狀態に就いて無智な者ではないのです。私は可なりあの人たちの生活についてはもつと子供の時分から知つてゐましたのです。さうしてさういふ處に氣のつかなかつたのは私の自重のない態度がさうさしたのです。私はあなたにその事を氣をつけて下すつた事を感謝いたします、そして、あなたのやうな考へ方から見れば公娼廢止と云ふこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も尤もな事です。もうその事については何にも云はない方が立派な態度かもしれません。こんな事を云ふのは卑怯な負惜しみと見えるかも知れませんが、私があれを書いた時に主として土臺にしたのは矯風會の人たちの云ひ分でした。私はそれ以外に深く考へることをしなかつたのは私の落ち度ですが彼の人たちからはさう云ふ深い事は聞きませんでした。若しもあの人たちが本當にさう云ふ、あなたのやうな意見を以て向ふのなら、私だとてあんな事を書きはしません、私は矯風會の人たちからはまだそんな立派な事は聞きませんでした。それで、根本の公娼廢止と云ふ問題はあなたの仰つしやるやうな正當な理由から肯定の出來る事ですが、私は矯風會の人達の云ひ分に對しては矢張り輕蔑します。あの人達の云ふ事はあなたのゝ程徹底しては居ないと私は思ひます。

さて此度は、私とあなたの思想の差異になつて參りますが、私はすべての議論が何時でも何の人達のでもお仕舞ひにはつまらない言葉のあげあしとりになつて、水掛論になるので議論と云ふ事は本當に嫌やなのです。さういふいやな事をしまいと思へば一々その言葉の内容からしてさがして行かなければならないと云ふ面倒な事になつて來ます。さうしますと、だん〳〵に本來の問題よりも枝葉の事に渡つて來ると云ふ順席になります。私は今私の考へを述べる前に、どうかこの事がさうしたなりゆきにならないやうに出來る丈けお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

互ひに丁寧に、あつかひたいと思ひます。

先づ、何よりも先きにあなたに申あげなければならない事は、私が公娼廢止に反對だと云ふ風にあなたが誤解してお出になるらしい事に就いて、私は左樣ではありませんと云ふ事です。私は勿論肉の賣買など決して、いゝ事だとは思ひません。悲慘な事實だと思つてゐます。さういふ事をしないでも濟むのならそれに越した事はありません。細かしい事はおい〳〵云つてゆきますが先づ大さつぱに、私の見たあなたの、私の云つた事についての御批評は、あまりに表面的で獨合點でゐらつしやいます。それは、あなたが私の書いたものにこれ迄あまり注意して頂く事が出來なかつた故かも知れませんが。

あなたは私が賣淫と云ふ事が社會に認められてゐるのは男子の要求と長い歷史がその根を固いものにしてゐるので、それは必ず存在する丈の理由をもつてゐるから彼女たちが六年をちかつたつて十年をちかつたつてどうして全廢する事が出來やうと云つたのを、私が絕對に全廢することが出來ないとでも云つてゐるかのやうにむきになつてゐらつしやるやうですが、成程私の言葉の足りなかつた處もありますけれども私は、それを絕對の意味で云つたのではなかつたのでした。私はいろ〳〵な深い根本の事を考へてゐますと、すべての

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「存在」と云ふ事について深い不審をもつてゐますが、さう云ふ「存在」と云ふ事實がある以上、局部的にはその理由を一つ〳〵認めることが出來ます。あなたの態度から云ひますと立派なものでなくては存在の理由がないやうな風になりますが、どんなつまらない事でも「存在」する以上相當の理由と價値とは必ずあります。たゞ價値と理由が、その存在を長くしたり短かくしたりする丈けだと思ひます。根、と云ふものはそんなに絶對のものではありませんよ、淺かつたりゆるかつたりすれば忽ち引つこぬかれます。どんなに深く這入つたものでも固いものでも生命がなくなれば駄目ですし、相當の勞力と時間を費せば堀り出すことも出來ます。長い歷史が根を固くしてゐると云ふことは正しい存在の理由を構成しないとあなたは仰云つてます。さうですとも正しい存在でないものには正しい理由のある筈がありません。勿論惰性と同義だと云ふ事はあまりに分りすぎてゐます。それがおわかりになつて何故私が公娼廢止が絶對に行はれないやうに考へてゐるなど〻誤解なさるのでせう。此處ではあなたの方が却つてその存在にもつと正しい理由がある事のやうに是認してお出になるやうに見えますよ。で、私が全然その事を不可能だなど〻云ふ馬鹿な考へを持つてゐない事をおわかり下さいましたか？

さて、此度は要求と云ふ事の側になりますが、あなたはそれを男子の身勝手と云ふ簡單

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な言葉で片づけてお出になりますが、私は男子の本然の要求が多く伴つてゐると云ふ主張は退ける事が出來ません。もと〳〵賣淫制度が不自然である以上、不自然な制度に應じて出來たものであることゝは云ふ迄もありません。其處で、あなたのお調べになつた事がます〳〵その賣淫制度と云ふものが男子の本然の要求を滿たすために存在するものだと云ふことを完全に證據だてます「女子の拘束の度に比例して賣淫が盛んになる」と云ふ事實が。

私はあなたにその事實を承認するかと詰問なさる。「私はこれは慘ましい事實だと思ひます。」と云ふ以上に立ち入つた言葉でお答へしたくはありません。さう云ふ事を簡單に承認するとかしないとかそんな事で片づけやうとなさるあなたは人間の本當の生活と云ふものがそんなに論理的に正しく行はれるものだと思つてゐらつしやいますかと私は反問したいあなたはあんまり理想主義者でゐらつしやいます。「如何に男子の本然の要求でゐらうとも女子にとつて不都合な制度なら私は絕對に反對いたします」と云ふあなたの言葉はあまりに片意地に聞こえすぎます。あんまり物事を極端に云ひすぎます。もう少し冷靜に考へて頂きたいと思ひます。

あなたは前に、女子の拘束が賣淫制度を盛んにすると仰云ひましたでせう?その不自然な拘束が男子の自然な要求を不自然に押へなければならない樣にするに相違はないのです

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれどもさうした要求が長く、忍んでゐなければならない事でせうか、また出來る事でせうか、そんな不自然な抑制は體をいためたり素直な性質をまげたりする他何にもいゝ事はありません、そんなにまでして忍ばなければならないと云ふ理由が何處にありませう。私は私自身としては可なりコンヴエンショナルな考へとして非難は受けましたが誇りとか何とか云ふことよりも何よりも私自身の一種の潔癖からヴアージニテイを大切にすると云ふ事を主張しました通りに矢張り同樣に男子にもそれを要求したいのです。そしてそれを苦痛を忍んでも抑制すると云ふ氣持に美しい一種の感激をもちます。けれどもそれは私一個の考へであり望みなのです。普通の場合としては前に云つた通りそれは先づ不可抗性を帶びた要求ですからそれを是非押へなければならないと云ふことはあんまり同情のない考へ方だと思ひます。まして男女の人口が不釣衡になり、ます〱結婚が困難になつて來るやうな不自然な社會にあつてはどうしても賣淫を避ける事は出來ないと思ひます、その不自然な社會制度を改造する迄は。「男子の本然の要求だからと云つて同性の蒙る侮辱を冷然看過した」とあなたはお責めになるけれども、看過せない、と云つてどうします。私は本當にその女たちを氣の毒にも可愛さうにも思ひます。けれども強制的にさうした處に墮ち込んだ憐れむべき女でさへも食べる爲、生きる爲と云ふ動かすことの出來ない重大な自分のため

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に恬然としてゐます。彼女等をその侮辱から救はうとするには他に彼女等を喰べさせるやうな途を見付けてからでなくては無智な、何にも知らぬ女たちにとつてはその御親切は却つて迷惑なものではないでせうか？公娼廢止と云ふ事は成程あなたの仰有るやうな理由で出來るかもしれませんが賣淫と云ふ侮辱から多くの婦人を救ふことは先づこの變則な社會制度が破壞される迄は不可能な事ではないかと思ひます。それ丈けは私たちがいくらもがいても時が來なくては駄目だとおもひます。あなたは看過することの出來ないと仰有る程又それを看過するとはあるまじき事だと私をお責めになる位熱心にその事にたづさはつてゐらつしやるらしいやうですからそんな手ぬるい考へではあきたらないとお思ひになるでせうがそれは各自の考へ方の相異、歩き方の相異です。あなたは何をおいてもその爲めにお働きになる事に一番意義があるとお思ひになるのも尤もですし、私はまだ何をおいてもさう云ふ運動をして大いに婦人の爲めに盡さうと思ふ程その仕事に生き甲斐を見出し得ませんから先づ自分のまはりから先きに片づけて行きたいと思ふのです。あなたにとつては私のこの態度はあんまり自分の事ばかり考へすぎてゐる手前勝手者のやうにお思ひになるでせうがそれが私とあなたとの違つてゐる處ですから仕方はありません。序でに、公娼が廢止になれば私娼も少くなると云ふ事實は少し私には首肯が出來かねます。吉原が衰微に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

傾いた今日市内の私娼の增加は驚くに足ると云ふ事實を何で說明して下さいますか？公娼が公然挑發、誘惑の設備を許されてゐるから青年の情慾を刺戟して墮落させるが私娼は公然挑發しないと仰有るのは少し變だと思ひます。私は淺草の十二階下邊の私娼がさま〴〵に變粧して迄男子を誘惑すると云ふ話を可なり澤山聞きましたし、彼處の客と云ふ者が學生が多數を占めてゐると云ふたしかな事實も聞きました。要するに公娼も私娼も大した違ひはないと思ひます。賣淫と云ふ點はどちらも同じなのだと思ひます。今の日本の私娼と云ふものも同じく他人に抱へられて借金をして稼いでゐる點では公娼と大したちがひはないやうに思はれます。外面的にはずつと私娼に勝れてゐるやうに見えても案外情實のからみついた彼れ等の社會は矢張りさうたやすくぬけられるものでもないやうに思はれます。

あなたが廢止運動が大切だと躍起におなりになるのにも、私が知りながら呑氣らしい顏をしてゐるやうに見えるのにも相當の理由があるのです。あなたはあなた、私は私なのですから、お互ひに他人の態度を氣にするよりも、まあ自分の事をした方が結局お互同志の爲めです。あなたは萬事にあんまりむきに、大げさに考へすぎて、私には何だか滑稽になつて來ます。外國人への見榮を、私は決して惡い事だとは云ひません、たゞそれ丈けの理由ではあまりに淺薄だと云つた迄です。あなたのそれについての比喩はあんまり眞面目すぎ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、「他人を馬鹿にしてゐる」と怒りたくなるやうな馬鹿々々しい理屈です。頭がどうかしてるんぢやありませんか？

それから私がすべての事象は表面に現はれる迄には必ず確たる根をもち、立派なプロセスをもつてゐるものであり、自然力の力強い支配のもとにある不可抗力で、それは僅かな人間の意力や手段では誤魔化せないと云つたのに對して疑ひをおかけになりました。さうしてすべての歴史を通じての革新や制度が人間の手に作られたり隨時にこはされたりするものであるからこそ女に不都合な世の中を改革しやうとしてゐらつしやるぢやありませんかとの仰せ、もつともですと申上げたいのですが、どうもあなたの頭は餘程をかしいと思はずにはゐられません。人間が造つたりこはしたりすると云つた處で、偶然に作らうと思つて造つたりこはさうと思つてこはしたり單純に出放題なことは決してやれるものではありません。子供が粘土細工をするやうな譯にはゆきません。必ず其處迄ゆくには行く丈けの理由とプロセスがあつて人間の意力を其處まで導いてゆく他の力があるに相異ないと私は信じます。破壞にも建設にも必ず相應な理由があります。それを運んでゆくプロセスがあります。それをさう導く力は何でせう。時はすべての問題を支配します。その時を驅使する力は何でせう。偉大なる自然力の前に人間の意力はどんなに小さいものかお考へにな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つた事はありませんか。人間の意力で百般の事を左右し得なければ私たちの戰は徒勞だと仰有る。御心配下さいますな。私たちは何時でもその自然力の味方である眞理に後を向けませんから大丈夫です。私はその不可抗力を知つてゐます。ですから決して無謀な反抗に生甲斐を見出し得ませんから、靜かに先づ自分丈けの事からやつてゆきます。自分の意力の屆く範圍だけで出來る丈け立派な道を歩いてゆきます。私の小さな意力は他人に迄も強制的に及ぼす事の出來ない事を私は知つてゐます。あなたの私に對する反問は皆上走つてゐて少しも核に觸れてはゐません。「人間の造つた社會は人間が支配する。」と云ふお言葉は尤もに聞えますがその人間を支配するものがありますね、その人間を支配する者が矢張り社會も支配しはしないでせうか。社會は人間が造つたのでせうけれど人間は誰が造つたのでせう？ 果して人間は何から何まで自分で自分の仕末の出來る賢い動物でせうか？ まあ一寸考へて見ても人間は時と云ふものに驅使されてゐます。氣の毒な程、處が利口な人間は時を利用することは知つてゐますが自由に驅使することは出來ないでせう？ それ丈けでもまだ人間はそんなに威張る資格はありませんよ、權力者の造つた制度が不可抗力だなど、云つた覺えは更に私にはありません。權力者たちの造つた制度のなか／＼こはれないのはせい／＼時の問題位なものです。時が許しさへすれば何時でも破せます。そら、「其處でも

矢張りいくら人間がもがいたつて時が許さなければ駄目でせう。それ丈けの制度の根を固める爲めには權力者たちも相當な犧牲を拂ひ骨折をしてゐるのですからいくら不自然だつて何の償もなしにその株に手をかける事は許されない道理でせう？

　私は公娼問題の事はもうおしまひになつたのかと思へば又ですか？本當に頭がどうかしてゐはしませんか？其處でお答へする丈けは充分しておかないと又二度繰り返すやうではいやですから。

　さて公娼廢止は私も先づ可能と信じます。それで今度は「誰でもが云ふやうに」賣淫制度の存在を是認したと云ふことのお責めにあづかる譯ですね、先づさうですね、誰でもの云つてゐる事が眞實だと思へば私はいくら「誰でもが」云つてゐても眞實だとしますよ、私は衆人が口をそろへて云つてゐるからあれはうそだなど云ふ理屈はないと思ひます。「誰でも」は決してまがつた事ばかり云つて正しい事を云はないとかぎつてゐないことは百も承知でせう？いくらあなただつて！あなたは本當につまらないあげあしをとつてゐますね、煩さいぢやありませんか、傲慢だとか傲慢でないとかそれが私の態度なら面倒臭いからどちらでもあなたの下さる方を頂戴しておきますよ、どつちだつて私に變はありやしないから。もうあとの事に一々お返事するのは面倒だから止めます。仰有る通りに折りがあつてお目に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

懸つたらまたお話しませう、私はあなたのお書きになつたものは飜譯を除いては初めてですからどうかしたら感ちがひをした處があるかもしれませんからそんな處がありましたら御注意下さいまし。但し大抵これで私の考へ方はお分り下さる筈と思ひますからもうこれ以上この問題について云々することは御免蒙りたいと思ひます。失禮な事ばかり申上げました。おゆるし下さいまし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

折りにふれて。(日記より。)

岡田ゆき

何でも熱心に努力すれば出來ない事はない。私は生來不器用である。自分でそれはよく知つてゐる。そしていつも悲しい事に思つて居る。其故ピアノの練習でも人一倍努力するのが常だ。

今夕お稽古を終ると先生が

「大變よく覺えましたね。有望です。武さん(弟)より貴女の方がうまい。」

と云はれる。

「まあ先生。お世辭がお上手ね。」

「私の云ふ事はお世辭ぢやない。眞底からの事ですよ。だから眞實にしても大丈夫。」

私はキーをいたづらしながら笑つて居た。そして心中に此の間から練習の仕方が餘りはげしかつたため肩が大層凝つてゐるのを思つたら、きつと微笑がひきしまる樣に感じた。

努力さへすれば必ずそれと同じ位の好果は與へられるものである。然しおだてに乘つて浮はついてはならぬ。おだてられてうれしがる程人間として馬鹿な事はない。どんな場合でも他人の言葉に左右されてはならないのだ。大抵私の事は他人にとつて自身の事程に眞實ではないに相違ない。それを私は忘れてはならない。

世の中の總ての事は人間の仕業である。私も人間であるからはある程度迄は努力さへすれば出來ない筈はない。其程度からさきは天才でなければ駄目だと考へる。

弟は器用だからどんなに幸福だか知れない。彼が三十分でそれ程の苦痛もなくて出來る音譜でさへ私は一時間あるひはそれ以上かゝらねばならない。けれど覺えるからはそれだけの努力は私にとつて何でもない筈だ。總ての

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事は多少の苦痛がともなふのは當然である。私は喰べずぎらひになりたくない。いやだと云つて喰べてみもしない物でも喰べれば何でもないと同樣に決して不可能と銘うつたものは有りやうわけがない。私は努力しやう。おこたらず。

何と云ふ馬鹿らしさ。何と云ふ無智な表現であらう。

御大禮以來の東京のさわぎ。

御大禮はむしろ嚴粛であるべきものだ。只單にお祭り騷ぎをするのは間違つた仕方である。連日仕事を投げ出して酒に醉ひ神輿をかつぐ。何と云ふ國民性だらうか。私は情無い氣持ちがする。恐らく愛國と云ふ事をはき違へてゐるとしか考へられない。

銀座通りは間口一間につき五圓づゝかけて裝飾をしたとうだ。それだけの金を何故もつと有益な方法で用ひないのか。現在では他にしなければならぬ事はいくらもある奉祝するのが只單にいけないと云ふのぢやないが現在の狀態を考へて欲しいのである。

私共は無意味な空虚な形式は(努力と時間の消費上)極端にきらはればならないと考へる。その點から單なるお祭り騷ぎはよくないと信じる。

小雨が二三日續いて、あがつた今日、もうすつかり冬らしくなつた。紺青の空をぢつと眺めたり枯れはてゝ鳥の胸毛の樣になつた薄の穗を一本づゝ引きぬいたりして興じたもみ絹の手ざはりの樣な音をたてゝぬけては細い絹を散らしたかの樣にとび上る薄を眺めてゐる時私の心はそゝられた。

此頃は漣一つたたない池の面の樣に私の心は落ちついてゐる。誰れにも小石一つ投げさせてはならないのだ。放たれた野馬の樣になると自分の心でありながらどうする事も出來ないのが例である。私はそれを智力の足りないはづかしいに思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昨日亡弟の墓參の歸途文展を見た。

私はことごとく失望した。然し見たと云ふ事實は見ないより好いのは云ふ迄もない。低級な婦人雜誌の口繪の樣な美人畫や自然の不完全さを何の補ふ所もなく死んだ自然にして四角な枠に入れた風景畫。それらの何處にも尊い藝術的生命。力。熱などの味はれなかつた事はむしろ悲しい程であつた。誰れやらが文展の洋畫の事を

「何の事はない絨氈屋の棚ざらへ。月終ひの大賣り出しと云つた樣なものだ。」

と私に云つたのを思出して適評だと今更らに考へられた。

それは婦人文藝の音樂會の夜であつた。

有樂座の東洋軒のテーブルを取り卷いてさつき舞臺に出た新橋連中が盛んに喰べたり喋べつたりしてゐる。「娘道成寺」の絲と下方の婆藝妓達ばかり一所になり若い藝妓ばかり寄り集つて小聲に話して居る。實に聞いてゐてもをかしい樣な愚にもつかない事がそれからそれへと話し續けられる。

「ねえ此の頃にお婆さん會を開きませうよ。」

と云ふ突飛な聲に驚かされて私は注意を向ふへむけた。するとお婆さん連の話しをよそに二三の若い妓がかへりかけて居る所である。

「姐さんありがたう。お先きに失禮しますわ。」

とまことに丁寧な挨拶ぶり。それに彼等はどうしたものだ。若い妓には頭を下げずに空を向けるのが挨拶なのかしら。

私は彼等の傲慢な樣子を見て呆氣れた。無智な者には殊に階級觀念がはげしく擴つて居るものだ。それは人間と云ふ考へがうすいためにむやみと奴隷視するを當然の事に思つてゐるのである。智力が發達するにつれて總てに對し人間として取扱ふ樣になると私は考へる。

私は何事によらず誠實さと喜びをもつてしたいと思ふそして何か事に出逢ふ度にそれだけ內容が豊になるもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

だと信じて居る。

私は生れて始めて昨日引越しの手傳ひに行つた。

京都へ行つた兄は思つたよりも永く滯在しなければならなくなつたのでひとまづ家をたゝむ樣に云つてよこしたので母が片付けに行つたのである。東宮御所前から私は母の車と分れて行きに一寸山田先生にお寄りした。丁度お稽古中であつたが先生にお目にかゝつて先日來上れなかつた理由を申上げたら先生は

「貴女は種々の事にぶつかつてはその度に怜悧になります。」

と云はれる。大机を取卷いて座つて居られた平塚、齊賀兩氏のお目が微笑をもつて自分に注がれてゐるのを意識した。私はそゝくさとお暇した。

引越し。まあ何と云ふ亂雜さ。

「引越しつてこんなものかねえ。」

私は新聞紙で瀨戸物を一つ一つ丁寧に包みながら男達が腕に力瘤をいれて荷物を二階から下ろしてゐるのを見てそんなに心で呟いてゐた。

晝飯は高輪の叔母がすしを持つて來て呉れた。

果實の空箱を横にして其上で笹折からすしを喰べる。しかも室一杯塵芥のなかで。

「こんな事は始めの終りにしたいものだね。」

と母が笑ふ。歸へりは夕方になつた。晩は早く入浴して床に入つた。

今日は雨である。

「風はあつても昨日越してよかつたねえ。」

とさつき母が云つて居た。

大正四、一二、五。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

野枝子様はじめまして

青井禎子

御記憶に新たなと申すより、むしろ、未知に近い私から、突然、こうして、手紙等差上まして、嘸御不審に思召す事と存じます、が唯、毎月、青鞜を御發送頂きますうちに、そうした名前も、有つたかしら、と偶然にも思い浮べて頂けましたら、幸いだと存じます。

御挨拶は失禮頂きまして、早速用談を申上たいと存じます。

實は今月の青鞜に掲げました、貴女から平塚さん宛の私信の、終りの方にお書きになりました、故友、山田澄子様の事に就きまして、あれを、拜見致しては、無言つて居られなくなりました、と申して、不穏當にはお取りになりません樣に、つまり、誤解遊ばしていらつしやる樣で御座いますので、それでは、永い間近しくして居りました、周圍の者の大變心苦しい理で、せめては、貴女迄でも、その眞相を、知つて頂きたいものと、實は、一面識ももたない失禮も顧り見ず、こうして、手紙を差上ぐるので御座います。

あれを拜見致しますと、貴女は、唯、女の世界の青柳氏のお書きになつたのを御覽になつた外、何事も御存じない樣でいらつしやいます、言ふ迄もなく今迄多少青鞜とも關係が有

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りましたにしても、それは、ずつと以前、短歌を一寸〳〵、お出しになつたり、其後、補助團の方へ加入なすつて、蔭ながら青鞜に深い同情を、もつていらつしやる位で、私の存じて居ります、範圍では、別に深く〳〵、御存じの理は、ない筈で御座いますが、それであの女の世界をおよみになつて、自殺なすつた樣に、誤解遊ばすのもあながち、御無理では御座いますまい、只今、手元に御座いませんから、私の讀み違ひとも限りませんが、女の世界には、明らさまに自殺云々、とは、書かれてなかつた樣で、なくなつた翌日、直ちに青柳氏に、遺書がとゞいたと言つた樣に覺えます、そんな事が、委しく御存じない方に、直感的に、自殺死と、推意させたのでは、御座いますまいか。

故人と青柳氏とは、生前、大變接近していらつしやいました、氏が、眞實の娘を遇する樣に、近しく可愛がつていらつしやれば、故人も、青柳氏の世評を打消して「決して世間の取沙汰する樣な不眞面目な方では有りません、赤裸々の青柳先生と言ふ方は、實際の品性の高潔な方なのです」と極力辯護なさいます、お言葉の中には、心からの威敬や信頼の意味が充滿して居たので御座います、その遺書と申すものも、失くなります、一ヶ月も以前、死後の家庭の處理やら（それは、こゝ五六年中に、姉君達お二方に永別され一昨年一月、父君の赴に逢つて、其當時、疲弱な母君と、病氣勝の故人と別に下の者は、二三人有りまして

も、本當のお家族は、唯お二人、成年期の故人は、一ばし複雑な資産家の主權者で、處理すべき幾多の負擔が有つたのです）等と、一所に、病褥中にお書きになつた事を、母君から承りました、自らの死滅を、もうずつと以前から、自覺していらつしやいましたのでせう一昨年初春に御發病後、はか〴〵しく御恢復がなくつて二月計り入院していらつしやいました、その中轉地の出來ます程、よくなりました、箱根やら小田原、修善寺等に四五日、回遊なすつて、十月初め、停車場にお迎へ致した時は、見違ふ計り鹽風に、丈夫さうに、顏の艶も色付いて活氣付いて歸つていらつしやいました。

氣のきいた小品を土地の新聞紙上に見かけたり短歌をちよい〳〵雜誌に出していらつしやいましたりしたのは、その御病氣以前で御座いました、大體頭腦の明晰な天分の豊かな方で、その上自らふだんの修養を怠らず、早稻田の講義錄等お取りになつていらつしやいました、無益にその日を消耗する私共、どんなに鞭撻され指導されたかわかりません、あのまゝに健康體がずつと今迄持續して居りましたら、たしかに、大正文壇に何物かを、殘した方だと確信致しますにつけ、不可能な運命と諦めながら、尙一種の愛情を感ぜずには居られません。

今年五月、再度の御發病が幾分、以前の病氣の餘勢が、固質の性を有つて居ましたとしても

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私には、もつと〱大きな處の原因が有つたとしか思はれません。

其頃（この五月頃）新聞やら雜誌類やらに、毒藥と言ふ一編の紹介せられた事を御記憶御座いますまいか、總べては、それに基因するので御座います。

著者は、以前に一時籍を入れていられた、或新聞社内の若い社員、その當時、お二人の間に戀のローマンスの噂せられたのは隱れない事實で御座います。

讀賣の婦人部に「毒藥モデル婦人の自殺未遂」と題した一文がその出版の前後に掲載された事を聞きました、どうゆう所から傳はりましたものか、全く無根據の事に過ぎませんのが却つて、故人の性情なり人格なりを知る周圍のものは、無形な事と思はれない程、故人を煩悶させ懊惱させたので御座いました。

始め、その著書の起稿さるゝと知つた故人は、或期待をもつて出版の日を待つて居られましたのに其結果は、如何で御座いませう、却つて愛人の自失する迄の慘たる種を蒔いてしまひました。

豫期しない絕大な憤怨、羞耻、驚愕、悔恨に自意識を失つた可憐な友は、三日三夜一合の牛乳も受入れずに狂ひまはるのでした、情ない愛娘の狂態を、母上は、如何な心持ちで介抱なすつたと、思召して下さいませ、何貫目かの氷攻めに意識は、よう〱判然しました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が、それから、ドッとお床にお就きになつたきり別に内部に大した疾患が有るでもなし、頭の方も一時的の發作に止まつて、異變も有りませんのに、ちつとも食事をお取りにならないで、日に／＼衰弱が增します計り、御就床後、五ヶ月餘、九月の中旬に、主侍醫の廻診を玄關口迄送り出られた母樣が、病室に、引き歸らるゝ十步のさかい、看護婦の唯ならぬ高叫びに、吃驚、かけ込まるゝが最後、もうこの世に生の有る方では、なかつたそうで御座います。

野枝子樣、十幾年の睦びを交へた、唯一人の友は、斯して、自滅にひとしい死をもつて、再び相逢ふの殘されない永別の人となつてしまひました、年齒廿有五年、尙春秋に富む、一佳人は、あはれ、儚なふ早逝されてしまひました。

最後に今一つ書き添えます、本年春酣の四月の下旬、御發病の旬日前、たま／＼御目にかゝりました時、近々、遊樂目的の上京の事を話されました、今度こそ、呑氣な一人旅、平塚さんと野枝子樣には、きつとお逢ひして來ると、大變、氣負ひ込んで、樂しんでお出になりましたが、それも儚ない、空頼みに終つてしまひました。

偶々、そのお二人の話題に上つて何等かの、印象を殘したと言ふ事が、感傷的な故人の靈を如何なに慰安致します事で御座いませう、傍の私迄、大變いゝ事をして頂いた樣に、心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うれしふ存じます。

文筆に拙劣で、纏りもなし、書きながしまして充分御了解下さいましたや否か、誠に、心元ない次第で御座います、が兎に角、私自身としては、これ丈書き終えまして、故人に對する幾分の責を盡しました樣な輕い安心を覺えます。

不作法に書き亂しました失禮をお詫び致します。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□もう私が雜誌を讓り受けまして丁度一年になります。どうかしたい〳〵と思ひながら微力で思つた十分の一も實現することがなく無爲に一年を過しました。今月號も新年號の事とてどうにかしたいと思つてゐましたが何しろ、私が歸京しましたのが十二月五日か六日だつたのにそれから一週間ばかりの間は咽喉をはらして食事をすることも話をすることも困難になつて何にも出來ませんでした爲めに、大變手ちがひになつて今度もまたおはつかしいものをお目に懸けます。けれども私も身輕になつてかへつて來ましたからこれからは少し懸命に働きたいと思つてゐます。だん〳〵に少しづゝでも努力のあとが現はれるやうにしたいとおもつてゐます。何卒皆樣にも一層御盡力を願つて共に育てゝゆきたいと思ひます。

□何時から申ましたやうに、自分たちの勉强の爲めにも何かの問題をとらへて皆で研究すると云ふのはいゝ事だと思ひます。それで次號から私は自分の書きたいものゝ外に何か思想上の實際的な問題をさがしてそれについて書かうと思ひます。そしてそれを皆樣の仰言つた事と一緒に批評して頂きたいのです。一句でも一章でもいゝのです。そして出來るだけ發表する爲に次號で六號欄を別に設けて其處で發表するやうにしたいのです。何卒お互ひに勉强のたしになる事ですから賛成して頂きたいと思ひます。それには實際讀者諸姉の現在考へ惱んでゐらしやるやうな事をさうして大勢の最も進んだ意見をお聞きになつてお考へになるのもいゝ一つの方法だと思ひます。さう云ふ方面での材料をお持ちになる方は私迄おしらせ下されば大變にいゝと思ひます。勿論決してお名前を出すやうな事はしませんし、私も知らなくてもいゝのです。

□平塚さんは九日にお孃さんをお產みになりました。お

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

産は少し重かつたやうですが、その後の經過は大變いゝやうです。哥津ちやんも一日ちがひに男のお子さんをお産みになつたさうです、まだ會ひません。

□平塚さんのお産をなすつた翌日位に何でも新聞記者が訪れて行つたのを附添の人が知らずに上げました處、「御感想は?」と聞いたさうです。私はあんまりの事に本當に怒りました。何と云ふ無作法な記者だらうとまだお見舞の人も遠慮して得ゆかないお産室に、一面識もない者が新聞の材料をとりにゆくつて、何と云ふ人を侮辱した仕方でせう。私は頭が熱くなる程、腹が立ちました。平塚さんは洗面臺の上にのせた花の鉢を指さして、「この花と私の感想を交換するつもりで來たのですよ、私は苦しいと云ふより他何の感想もありませんつて云つてやりました。」と話されました。私はさうした侮辱も默つて許してお聞きになる平塚さんの氣持を考へてゐると涙がにじんで來ます。何卒皆さんが幸福であるやうにと祈るより他はありません。

□私は「雜音」と云ふ題でかねてから書きたいと思つてゐました長篇を書きはじめました。青鞜に載せるのが私の望みでしたけれども種々な事情から大阪毎日に連載することにしました。それは私の見た青鞜社の人々について私の知るかぎり事實をかくのです。私はそれによつて幾分誤解された社の人々の本當の生活ぶりが本當に分るやうになるだらうと思ひます。そのつもりで書くのです。併し何と云つても私自身の過ぎた日の記錄を書くと云ふ心持が主であるのは云ふ迄もありません。それでいろ〳〵なものを見、考へてゐますと、私の入社當時から今日までにも本當に、おどろくべき變化が何彼につけて來てゐます。あんなにさはぎまはつてゐた紅吉さん今は御夫人と靜かな大和に、子供を抱いてしとやかな日を送るやうになつたのですもの、あの文祥堂の二階で皆してふざけたり歌つたり、平塚さんのマントの中に入れて貰つて甘へたりした私が二人の母親に、他の皆も母になつたりした事を考へますと

僅かの間にと、本當におどろいて仕舞ます。おどろくと云ふよりは不思議な氣がします。

□今月、平塚さんも哥津ちやんもお産で書いて頂けず、野上さんからも頂けませんでした。本當に殘念ですけれど。來月は皆さんに少しづゝでも書いて頂かうと思つてゐます。

□雜誌や書物の批評紹介をしばらく怠けました、來月からは正しくやりたいとおもひます。これも、どなたでもおよみになつたものの事でおきづきになつた事をお書き下さいまし。

□それから、これはさうから申上げたいと思つてゐましたが補助團の事なのです。あのままになつてゐる事が心苦しくてたまりませんから、小さな本でも何かいゝものを撰んで飜譯してパンフレツトでもつぎ／＼に出してゆかうと思つてゐますのですが今日迄はひまがなくてどうしてもかゝれませんでした、それに拂ひ込んで頂いた金はもう私が引きつぐずつと以前から今日迄引きつづいて雜誌の方の借金なんかにつぎ込んでいくらも殘つてゐませんので實は大阪每日に書きかけのものをまとめてその稿料でも――小さなパンフレツトならそれで足りますから――出版しやうかと思つてゐるのです。おそくも四月か五月には是非一集を出すつもりです。金さへ都合が出來ますなら、若しかしましたら私の感想集を自分で出して、それをも配付したいと思つてゐます。何しろ、私自身に、どうかして働き出すより他に資力がありませんので誠に諸氏に對しては申譯けがありませんがあしからずお許し下さい。それから補助團の會員と申ましても今では十人あるかなし位ですからさうしてパンフレツトでも何でも出せるやうな風にすればもう少し加入の意志のある方には這入つて頂きたいと思つてゐます。それから留守の間集金を出すことを怠つてゐましたから一月に這入りましたら集金を出しますから何卒お拂ひ込み下さいますやうお願ひいたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□私はこの雑誌の諸君の間にでも立派な考へをもつてゐらして默つてお出になる方が澤山あるやうな氣がして仕方がありません。そんな方はもういゝ加減筆をお持ち下すつてもいゝと思ひます。岡田八千代樣、長谷川時雨樣のやうな立派な方が何と云つてもまだ未成品の私共と一緒に筆をとつて下さることを本當にうれしく感謝いたします。今年こそは實のある仕事をしたいものだとおもひます。働ける丈け働きたいとおもひます

(野　枝)

御　禮

私の出產について御よろこび下さいました方々に厚く御禮を申上げます。

なほ女兒は曙生(アケミ)と名づけましたので、序ながら御知らせ致します。

平　塚　明

讀者諸姉へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行

■定價一册金貳拾五錢(郵税壹錢五厘)

■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓

■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓

■振替貯金口座は 東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。

■郵券代用は一錢五厘切手に限る(但し一割增のこと)。

■編輯事務、補助團會費拂込は青鞜社へ。

■廣告申込、交換廣告は日月社へ。

■圖書、雜誌交換、購讀に關する一切の事務は日月社へ。

■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正四年十二月廿日印刷納本
大正五年一月一日發行 (特價金三十五錢)

禁轉載

編輯兼發行人 東京市小石川區指ケ谷町九十二番地 青鞜社內 伊藤野枝

印刷人 東京市京橋區弓町十三番地 柴田杠一郎

印刷所 東京市京橋區弓町十三番地 千代田印刷株式會社

發行所 東京市小石川區指ケ谷町九十二 青鞜社 振替東京二一一一六番

發賣所 本鄉區元町二丁目廿五 日月社 振替東京二八九一四番

大賣捌 東京堂

本號に限り定價參拾五錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

直接注文に限

一月中特價提供

圖書目錄進呈

書名	著者	定價	特價	送料
演劇評論	小宮豊隆著	一圓	五十錢	八錢
現代人と婦人の生活	らいてう著	八十五錢	四十五錢	八錢
新傾向句集	碧梧桐著	一圓	七十錢	八錢
夢遊病者	江部鴨村著	一圓	五十錢	八錢
最近の文藝及び思潮	生田長江著	一圓	五十錢	八錢
無限の道	片上伸著	九十錢	六十錢	八錢
タゴールの思想及び宗教	江部鴨村著	七十錢	四十五錢	八錢
カラマゾフ兄弟	森田草平譯	九十錢	七十錢	八錢
自叙傳	森田草平著	九十錢	四十五錢	八錢
子規居士と余	高濱虚子著	九十錢	六十錢	八錢

書名	著者	定價	特價	送料
時代と思想	谷本博士著	九十錢	五十錢	八錢
理想と現實	浮田博士著	一圓	六十錢	八錢
最近の社會問題	安部磯雄著	六十五錢	四十錢	八錢
萬葉集選（賣切）	窪田空穗著	四十五錢	四十錢	四錢
續萬葉集選	窪田空穗著	五十五錢	五十錢	六錢
宗教叢書	諸名家執筆	各編 十錢	十部 二割引	八錢
文藝思潮叢書	諸名家執筆	各編 十錢	九部 四割引	八錢
梗概叢書	諸名家執筆	各編 十錢	十部 四割引	八錢
店頭禪	高島米峰著	八十錢	四十錢	八錢
伊勢神宮國體	廣池博士著	二圓	一圓八十錢	十二錢

東京市本郷元町二丁目　日月社　振替東京二八九一四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

森田草平譯

カラマゾフ兄弟

（附、ドストイエフスキイ小傳）

（好評三版）

菊半截六百頁縮入
優雅木版畫七度刷
金九十錢郵税八錢

露國の文豪ド氏の最大傑作にして萬人必讀千古不朽の最高文學也!!

「カラマゾフ兄弟」はド氏の大傑作たることは言ふ迄もない。有史以來人類の所産として十指を屈すべき最高の文學で寧ろ經典である。一面露西亞に於ては、カラマゾフ一家の名は、近代の靈肉ともに墮落した陰森な家庭の代名詞とも成つてゐる。譯者の自白に曰く「此書は創作と飜譯とを問はず、從來自分の名に依つて公けに爲れた文學中一番偉大なる味ある作物である」と。

▲人間の心を最も異常なる狀態に置て機一髪の事件を描寫するに巧なる人だけに誰が讀んでも非常に面白き、又貴重なる藝術品なり、譯者はド氏崇拜者なるだけに最適當なる譯者を得たるものと云ふべし（萬朝報）

▲ロシヤ人の心理に深入りして宗敎的心境を取扱つたところに於てこの作なぞは宗敎家に親しい感じを與へる、かのトルストイが家出のときに携た一書としてもその値打が推される、譯者の手になつた原著者の小傳はこぢんまりとできてる、且つその文學者としての地位と特色とをしのばせる（中外日報）

▲文豪ドストイエフスキーが獨創的な深刻な心理解剖は遺憾なく寫し出されて居る、而して變轉曲折に富む構想は彼れが獨得の擅物であつて飽くまで讀者の感興をそゝらねば止まぬものがある、ドストイエフスキー研究の世界的に盛行する今日この大譯を得たることを喜ばねばならぬ（國民新聞）

東京市本郷元町・日月社・振替東京二八九一四番

想界の羅針盤　**反響叢書**　藝術界の基調

第一編　演劇評論

小宮豐隆著
津田青楓裝及挿畫

四六版約五百頁 布裝版畫數葉入
金一圓　郵稅八錢

本書に收められた數ある演劇評論はすべて在來の所謂役者評判記式の低級なる劇評とは全然趣きを異にし、著者の鋭どい洞察と精緻なる觀察と、烈しき批評心とに依りて、最近數年の劇壇を縱橫に論ず著者獨自の卓見を披瀝したものである。殊に著者が歌舞伎劇に對する觀察と批評とは就中親切且つ卓拔であつて、歌舞伎劇の新しい意味に於ける藝術的價値をあまた發見してゐる點に於て、嘗つてかの坪内博士の『梨園の落葉』乃至は三木竹二氏の『月草』に收めた劇評以來、眞に劇評として稱揚するに足る、得易からざる名著である。記者は本書を以て最近數年に於ける劇壇を通じて最も大きい産物として、苟も劇を談じ藝術を論ずるものゝ座右缺くべからざるものとするに躊躇しない(早稻田文學)

內容一斑

歌舞伎劇に於ける作と人と
中村吉右衛門論　米吉の「おあさ」德子の「梅ヶ枝」「野崎村」「帶屋」「重帷子」「堀川」「連理の松」
飜譯劇に於ける作と人と　「寂しき人々」「故鄉」と「タンタージルの死」「ファウスト」「鴨」「モンナヷンナ」「エレクトラ」「夜の宿」「サロメ」「オセロ」「武器と人と」
斷片　七章　新富座にて「浦島」「お夏狂らん」

第二編　現代と婦人の生活

平塚雷鳥著
伊藤野枝　岩野清序

四六版三百餘頁 裝幀清雅上製
八十五錢　稅八錢

其容貌に於て、其思想に於て、其文才に於て、所謂、新しい女の中の女として最も優れて居るのは、雷鳥平塚明子である單に好奇心の眼を以て見るも明子氏は明治の末から大正の時代へかけて世を驚がした名物女の一人であり、更に之を思想上より見れば來る可き何物かを暗示する日本婦人の先驅である。而して本書は、明子氏が世間の侮辱と賞讃との間に立つて奮鬪せる行進曲を集めたるもの、其大體に於て個々人に遍る力の潜んで居る事は爭ふ事が出來ない。世には食はず嫌いの人が多い。一口に新しい女と言ふ誤られた代名詞に兇はれて、思想界に現はれた傾向を見逃す事があれば、後日必ず悔を貽すに違ひない。(土曜新聞)

內容目次

ギ、イとその母の生活　職業的婦人　我國に於ける婦人問題の現狀　エレンケイ女史　西川文子氏の「婦人開放論」を評す　諸名士の所謂「婦人問題」について　民衆と政府と　新らしきものと「動搖」に現はれた野枝さん　龍子に就て　森田草平氏に　赤城よりN氏に　談話に代へて「生活」記者に　兩親に　婦人の生活を重んじない社會　旅の七日間　小感二三

東京市本鄉元町・日月社・振替東京二八九一四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四版

萬葉集選

窪田空穂著

菊半截約三百頁 四十五錢稅四錢

中村不折裝

絹表紙木版彩色 頗美本携帶至便

▲愈々日本民族代表的歌集の新選註完成したり▼

新版

續萬葉集選

窪田空穂著

菊半截三百餘頁 五十五錢稅六錢

中村不折裝

絹表紙木版彩色 頗美本携帶至便

▲氏は浩瀚なる本集中より殊に自己に興味あり集中の心核と思はるゝもの三百餘首を選みて簡單なる評釋を施し感想を附す。絹表紙菊半截の瀟洒なる裝幀。從來讀み方意義の難解なりし爲に惟り專門家の玩賞に止まり、偶解釋あるも精細に過ぎ乾枯に流れ頗る常人に遠き憾みありし本集は此書に依つて始めて一般人に愛誦さるゝを得べし。蓋し萬葉集の如き最も平民的色調に富める歌集は決して少數の學者歌人の所有にあらずしてまさに國民全體の所有と謂ふべき也(信濃每日)

▲歌に昵む人々にとつては萬葉集の歌の眞情を流露した醇朴さと近代の詩にも讓らぬその人間味とは力强い誘惑力を持つてはゐるがさて二十卷四千の歌數とやゝ難解な煩はしさは一寸近くことを許されない斯ういふ不滿を持つてゐる人は本書について其の心核に觸るがいゝ(大阪每日)

▲著者は古典の新鑑賞者として當代に類なしその標準の極めて妥當にして藝術上の權威あることとこの小册をして千金の重みあらしむ(讀賣)

▲萬葉集の佳篇を拔き之を假名交りにわかり易く書下し著者の周密なる註解を附したもので萬葉集の一斑を覗はんとする者に好適な書である、空穗氏の批評は光つてゐるしかも一方に學究的な忠實さを失はぬ所最もよし(新潮)

▲短歌長歌に對して詳細な註を施したもので萬葉集硏究者に取りては缺くべからざる良書である(早稻田文學)

▲今前著の缺を補ふて此續編を成す、集中傑出せる作歌を拔き難解の句には一々解釋も加へまた歌全體の批評を附したれば初學者にもこよなき手引とならう。卷末「萬葉集の中心思想」てふ論文亦有益の文字(秀才文壇)

▲前著「萬葉集選」の便益と眞相とは、既に一部の認めたるところ、此新著亦著者の新しき評釋者としての天才を遺憾なく發揮したり、是には長歌をも擇錄せり、附錄「萬葉集の中心思想」はよく情理を盡したり(讀賣)

東京市本郷元町・日月社・振替東京二八九一四番

振替東京二八九一四番

早大教授 片上伸著

無限の道

（新版）

四六版三百頁布製
箱入著者自裝美本
金九十錢郵稅八錢

内容

薄命の中より　ドンキホーテ　生命の培養　活力　無限の道　生きてゐる心持　未知の世界　信ずること　持たぬ寳　天壽　人間の本性　與へる人　二種の新理想家　人間の貴族　思想の力　生みの苦み　破壞と奉仕　何もしないでゐる時　信愛の力　God is the all-fair　純一の詩　ナイヒリスト

自序末節……あらゆる人々は自己を信愛しうる力、人間の本性を信愛しうる力を所有することが出來る。又いかなる人も此力を多少所有してゐない者はない。只人は此力を自ら蔽ひ虐げてゐる。或は自ら所有してゐないと思つてゐる。幸福の泉は實に吾々自らの内にある。生きるといふことは此泉の湧くに任せることである。此泉の水脈の限なきに隨て、湧き立ち溢れゆくことである。私の生命も漸くこの限なき道に流れゆかうとするのを感ずる。

▲著者が最近二年間に書いた評論感想を集めたもの、何れも文壇の問題となりたる長編を始め、感想錄等何れもよむべきものである。近時論壇の最も注目すべき好著として文藝愛好家の是非一讀すべきものと斷言する（早稻田文學）

▲我等はこの自任ある著者に一片の敬意と信頼の念とを起さゞるを得ない。新文藝新思潮に對する好研究として江湖に推薦したい（ホトトギス）

▲著者の評論の權威に就ては定評がある、眞の生活に憧るゝものは誰れでも讀むべし（東京日々）

▲曾て生の要求と文學の一書に於て、人生と藝術とに對する思索の敬虔誠實なるを示せる著者は、本書に於て一層其歩みを明確に示せる觀あり「生命の培養」「人間の本性」の如き大問題に對する解釋より「南の窓にて」の題下に收められたる斷片的思索に至る迄必ず明瞭なる考察を加へたる所、著者の思想家としての信念を窺ふに足る、廣く一般に勸むるに躊躇せず（萬朝報）

東京市本郷元町日月社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

森田草平作

縮刷 自叙傳

（好評再版）

入箱菊半截四百頁
布裝幀木版七度刷
金九十錢郵税八錢

本書に對する著者の親友諸氏の合評
安倍能成氏
阿部次郎氏
著者の出世作たる煤煙の姉姉編!!

自序より‥‥今「自叙傳」を再び世に送るに就て僅に自ら慰むることが一つある。それは兎に角「煤煙」と共に當時に在ては一生懸命にかいたものだと云ふことである。一生懸命になる、それは今の自分にとつては容易に成れないことである。

▲彼の名作「煤煙」に續くべきものとして著者の畢生の力を籠めし當時の内生命の脱白の表現なること今更言ふまでもなし「兎に角煤煙と共に當時にあつては一生懸命に書いたものだ」と著者の言ふ所は僞りなき告白(朝日新聞)

▲世をして驚嘆せしめ、作者の地位を固めたものである。今や「煤煙」と同形の縮刷となつて現れた、更に愛讀者を殖すことであらう(讀賣新聞)

▲粗き布のポツトリとした裝幀なり、此作は言ふまでもなく作者の興味ある生活をさながら打出せるものとして「煤煙」と共に有名なり(萬朝報)

▲「煤煙」と相並んで文壇を騷がしたる作者得意の作である主人公要吉が山から歸つて女と別れて仕舞つた遣瀨なさに段々と自墮落な生活に沈んで行く徑路が、讀者を壓し付けるやうな、生一本の力で鮮かに畫かれてゐる、「煤煙」に見えてゐる主人公の芝居がかつた遊戯的の氣分が(主人公自分に取ては勿論眞劍なことであつたらうが)次第に無くなつて、いぢらしいほど人間の弱さ果敢なさが現はれてゐる、其れだけ讀者の共鳴をそゝる力が強くなつてゐる、素裸になつた人間の眞實性がしみ〴〵と味はれる、此の意味に於て吾々は「煤煙」よりも「自叙傳」の力が藝術品としても、ヒユーマンドキユーメントとしても、より内容がありより親味があるやうに思はれる(世界新聞)

東京市本郷區元町日月社・振替東京二八九一四番

雄篇大作　**植竹文庫**　全譯縮刷

第一編

縮刷 サニン 全譯

アルツエバシエブ作
武林無想庵譯
（五版）

原著は露亞西文壇の巨匠アルツエバシエブ氏の傑作にして結構の幽微描寫の精妙共に幾多の大陸文學を壓倒しその深大なる虛無思想は露土の曠原を抱擁して尙餘りあるところ譯筆又雋鋭辭句の辛辣精細にして敍述の確的なる原作の俤を髣髴せしめ讀者をして殆んど卷を措く遑なからしむ――時事新報評――

■原稿紙九百五十枚の大作 ■四六版美形箱入美本 ■全六號四百餘頁
定價九十錢
郵稅八錢

第二編

縮刷 ロンブロゾオ著 辻潤譯 全譯 天才論

（四版）

■伊太利の碩學ロンブロゾオの代表作『天才と狂人』の全譯初めて現はる。

■原稿約九百枚の大作■
■全六號紙數約三百五十頁■
■寫眞版約五十個挿入■
■定價金九十五錢
郵稅八錢

凡そ天才を論じてかくまで該博精緻なる科學的研究の根據に立脚し而も興味湧くが如きものは蓋し空前なり。引照せられたる幾多の詩歌文章また一種獨得の文學を構成す。科學書にして科學書に非ず、文學書にして文學書に非ず、心理學？生理學？形貌學？否、否、否、是等の全てなり、近代文藝を根抵より理解せんと欲する人々は云ふまでもなく凡そ天才の眞に如何なるものなるかを知らんと欲する人々は先づ此の書を讀め。

發行所　東京市麴町區三番町八十四（振替東京一二九五三）　植竹書院

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岩野清子夫人著

愛の爭鬪

性と愛とになやまれたるの記錄

にして世界の驚異に價すべき著作なるを信ず、智識ある人々が深き思慮をもつて本書を讀まれんことを希ふ。著者の其の高貴なる經驗はやがて日本を救ふに到るべきはずのものなれば也

定價金壹圓廿錢

相馬御風氏著

我等如何に生くべきか

過去の生活が今や破滅にまて只一步の距離に

僕等を誘つて來て居る事を自覺しなくてはならない、ありのまゝの現實をありのまゝ眺めて行くのでなくて自己の深き要求を本位としてありのまゝの現實を最も明快に批判し最も總明に改造しなくてはならない＝あらゆる方面に於ける熱と力とに充ちた革命＝今日に於て僕等の要求するところは此の革命の熱と力とに外ならない＝著者

定價金九拾錢

發賣元 東京神田 合資會社 東京堂 振替東京二七〇番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年6月15日発行　【第10回配本】

青鞜第6巻　1月号

編著者	平塚　らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.6
no. 1

University of Colorado at Boul[redacted]

[redacted]04 6746597

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER